

生活デザイン学科

1	地域計画概論 LS-A-101 Introduction for Community Planning 1年全組 学科全教員	必修 2単位 1年前期	
授業の達成目標			
本学科では、「地域（空間および社会）」を、生活デザインの基盤と位置づけている。学科カリキュラムの導入となる本科目では、その計画論をとりまく基礎知識を涵養することを目標とする。 具体的には、東北・宮城・仙台といった身近な事例を扱いながら、「地域／地域計画」の基本的要件を学ぶとともに、学科を構成する「福祉まちづくり」「住環境デザイン」の2系統からなる専門科目群に関する基礎用語について修得し、以降の履修に備える。 個々人の将来の進路開拓について考え、そのための具体的な学習指針をたて、学習意欲を高めることも同等に重要な目標とする。		授業形態	
		単独 <small>(1人が全回担当)</small>	
		複数 <small>(1回の授業を2人以上が一緒に担当)</small>	
		<input type="radio"/> オムニバス <small>(各回の担当教員が異なる場合)</small>	
		クラス分け <small>(クラス分けで担当する)</small>	
授業の概要			
生活デザイン学科の教育目標・体系を概説する。 すなわち「地域計画学（通称：地域系）」「福祉まちづくり（通称：くらし系）」「住環境デザイン（通称：住まい系）」の3つの構成科目群と相互関係を考える。 また、地域計画学における基盤的内容としてし、以降の同系統の科目群の導入となるキーワードをもとに、そこから広がる学術的関心を考察していく。 あわせて、他の2系統の導入的内容にも触れ、それぞれの学術的関心や専門技術を紹介する。		該当科目	
		<input type="radio"/> 教職科目（工業）	
		教職科目（商業）	
		<input type="radio"/> 地域志向科目	
実務経験を活かした教育について			
		実務経験のある教員担当	
		アクティブラーニング	
授業計画（各回の学習内容等）			
	学習内容（授業方法）	学習課題（予習・復習）	時間(時)
第1回	生活デザイン学科の教育体系 (カリキュラム・キーワード・講義予定を概説する)	学科で学ぶ目標、教育体系を理解する。(予習：カリキュラムを予習する／復習：学外にも拡大した学習行動計画をたてる)	4
第2回	地域計画学1：東北・宮城・仙台の位置 (生活空間と立地環境について概説する)	具体的地域像として東北・宮城・仙台の位置を再考する。(予習：各種地図を参照する／復習：地域をレイヤーに分けて理解する)	4
第3回	地域計画学2：生活・共助・コミュニティ (ささえあう生活とコミュニティについて概説する)	地域のくらしとコミュニティについて学ぶ。(予習：コミュニティの語義を調べる／復習：社会集団論の基本を理解する)	4
第4回	地域計画学3：生業と地域産業 (地域のくらしを支える生産活動の諸相を概説する)	地域の生業や産業社会に関する基礎知識を養う。(予習：企業を一つ選んで沿革や業態を学ぶ／復習：将来の進路について考える)	4
第5回	地域計画学4：防災と公助・共助・自助 (地域の防災と安全安心にかかる基礎概念を概説する)	防災について関心を深め、公・共・私の行動を再考する。(予習：日常生活の安全について考える／復習：防災計画の改善を考える)	4
第6回	地域計画学の小括ディスカッション (上記6回の内容を横断的に論じ理解度をチェックする)	前回までの内容と相互関連性を理解する。(予習：講義内容を復習しておく／復習：討論の要点と持論をレポートにまとめる)	4
第7回	福祉まちづくり論1：ユニバーサルデザイン原論 (バリアフリーとユニバーサルデザインを概説する)	バリアフリーについて考える。(予習：バリアとは何かを考える／復習：生活空間のユニバーサルデザインについて復習する)	4
第8回	福祉まちづくり論2：福祉住環境の計画基礎論 (住まいと福祉にかかる基礎概念について概説する)	福祉・住環境・計画学の基礎用語を学ぶ。(予習：福祉や住宅に関する時事を予習する／復習：福祉住環境の関連分野を考える)	4
第9回	福祉まちづくり論3：社会的活動の多様 (公民と自治、市民活動などについて概説する)	公民や自治、社会福祉、NPOなどの活動を学ぶ。(予習：NPOとは何かを調べる／復習：自分にできる社会的活動について考える)	4
第10回	福祉まちづくりの小括ディスカッション (上記3回の内容を横断的に論じ理解度をチェックする)	前回までの内容と相互関連性を理解する。(予習：講義内容を復習しておく／復習：討論の要点と持論をレポートにまとめる)	4
第11回	住環境デザイン論1：住まいのインテリアとエクステリア (住宅の内外空間とその特徴について概説する)	インテリアやエクステリアへの興味関心を深める。(予習：自室の内観を予習する／復習：住宅の周囲環境を実例から再考する)	4
第12回	住環境デザイン論2：住宅の性能と環境問題 (環境問題における住宅の性能論の基礎を概説する)	省エネルギーの住環境とその必要性を理解する。(予習：省エネに関する記事等を調べる／復習：今後の住宅性能を考察する)	4
第13回	住環境デザイン論3：歴史的町並みと景観 (国内外の歴史的町並みや景観論について概説する)	各地の町並みや景観への興味関心を深める。(予習：国内外の美しい景観地について予習する／復習：まちの景観について再考する)	4
第14回	住環境デザインの小括ディスカッション (上記3回の内容を横断的に論じ理解度をチェックする)	前回までの内容と相互関連性を理解する。(予習：講義内容を復習しておく／復習：討論の要点と持論をレポートにまとめる)	4
教科書・参考書等			
指定しない。オムニバス講義ごとに、当該年度に適した参考図書を推薦する。			
成績評価方法・基準			
毎回とも、講義＋レポート記入時間で授業を構成し、提出されたレポートの内容理解度にもとづく得点を合計し、総合的見地から成績評価を行う。			

生活デザイン学科

2	生活学演習 LS-D-104	必修 2単位 1年後期	
	Basic Practice of Life Science		
1年全組	准教授 畠山 雄豪 講師 谷本裕香子 教授 菊地 良寛	非常勤講師 川名 美宏 非常勤講師 庄子奈々絵	
授業の達成目標		授業形態	
身近な生活に関する道具や設備とその素材の背景や基礎的なデザインを学ぶとともに、実体験を通じてそれらを用いる方法を理解し、実際に作成する演習を通じて、道具づくりや環境づくりに関する基礎的な理解と技術を習得する。		<input type="checkbox"/> 単独 (1人が全回担当) <input type="checkbox"/> 複数 (1回の授業を2人以上が一纏に担当) <input type="checkbox"/> オムニバス (各回の担当教員が異なる場合) <input type="checkbox"/> クラス分け (クラス分けで担当する)	
授業の概要		該当科目	
豊かな生活の実現のためには、日常生活環境を適切に形づくる必要がある。本演習では、様々な生活場面において登場する各種の道具や設備を、それを形づくる素材と共に、豊かな生活環境づくりの基礎として捉える。演習は、2部構成となっている。道具編においては、道具やモノのデザインの仕方や素材との関係を理解し、道具やモノの作成の実習を通して、それらが人間の生活に与える影響やその効果を実践的に学ぶ。空間編においては、人の生活の日常的な行為の一つである「食」に着目し、食空間における動作寸法や基本の設備を学ぶ。また、生活の場にフォーカスを当て、空間の使われ方を把握する手法を学ぶ。		<input type="checkbox"/> 教職科目 (工業) <input type="checkbox"/> 教職科目 (商業) <input type="checkbox"/> 地域志向科目	
実務経験を活かした教育について		<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員担当 <input type="checkbox"/> アクティブラーニング	
<道具編>担当教員は、プロダクトデザインの経験を活かし、自分で考えたものを形に表現し人に伝える力を養成する。 <空間編>担当教員は、設計の実務に従事した経験を活かし、企画・設計等の力を養成する。			
授業計画 (各回の学習内容等)			
	学習内容 (授業方法)	学習課題 (予習・復習)	時間(時)
第1回	全体ガイダンス/道具編と空間編について/三角スケール	予習) 自分の身の回りのものを観察する 復習) 三角スケール等でものを計り、スケール感覚を身につける	2
第2回	<道具編-1>自分の「落款」を作る 文字で自分を表現した落款をデザインする	予習) 落款について調べておく(歴史や素材、使われ方) 復習) 自分を表現したデザインの落款になったか検証する	2
第3回	制作 デザインした落款を消しゴムで作成する。 (消しゴム以外で制作したい場合は自分で準備)	予習) たくさんある落款の種類から自分の仕様を決める 復習) デザインしたとおりに作成できたか振り返る	2
第4回	評価 グループワークで役割分担を決め全員でプレゼンテーションする。プレゼンの表現は模造紙一枚。	予習) プレゼンテーションとはなにか? 主題はどこに? 復習) 伝えたいことが伝わっていたか全員で振り返る	2
第5回	<道具編-2>自分に適した「箸と箸置き」を作る 自分が使いやすい箸のサイズを割り出しデザインする	予習) 箸の歴史と身度尺について、使いやすい箸とは 復習) 自分に合った箸のサイズの検証(身度尺と箸)	2
第6回	制作 自分でデザインした箸が実際に使いやすいか検証しながら作成する。(工夫したところを確認する)	予習) 木工の工程を含め市販の箸はどんな種類があるのか 復習) デザインした通りに加工されているか、必要なら修正	2
第7回	制作 制作した箸を実際に使用できるように仕上げる。 グループで評価会を行ないプレゼンの準備をする。	予習) 箸の仕上げにはどんな種類があるか調べる 復習) 実際に使用したシーンを写真に撮る、プレゼンの準備	2
第8回	評価 グループワークで役割分担を決め全員でプレゼンテーションする。プレゼンの表現は模造紙一枚。	予習) プレゼンテーションとはなにか? 主題はどこに? 復習) 伝えたいことが伝わっていたか全員で振り返る	2
第9回	<空間編-1>キッチンの計測と評価 キッチンの基礎知識・動作寸法	予習) 動作寸法とは何か予習しておく 復習) 自宅のキッチンで動作寸法を確認する	2
第10回	キッチンの歴史・現代のキッチンについて	予習) 身の回りのキッチンについて調べる 復習) さまざまなメーカーのキッチンを調べる	2
第11回	キッチンの給排水・電気・給湯など、基本の設備	予習) 給排水・電気・給湯など、基本の設備について調べる 復習) 自宅のキッチンの設備を確認する	2
第12回	<空間編-2>部屋の観察描画(空間をとらえる) 空間の使われ方の把握および観察記録	予習) 自宅を中心とした生活の場の使われ方を調べておく 復習) 空間の使われ方を確認する	2
第13回	部屋の観察描画(空間をえがく) 空間の描画方法の取得および描画	予習) 空間をとらえた描画手法について予習しておく 復習) スケールをともなった描画手法を確認する	2
第14回	講習会	予習) 自分のアイデアを伝える練習をする 復習) 他人のプレゼンを参考にしつつ自分のプレゼンを振り返る	2
教科書・参考書等			
プリント等参考資料を必要に応じて配付する。			
成績評価方法・基準			
レポートや作成した作品による評価を行う。詳細は道具編、空間編の初回に提示する。			

3	地域調査演習 LS-D-106	必修 2単位 2年前期	
	Basic Practice of Field Survey		
2年全組 教授 岸本 誠司 准教授 伊藤美由紀 准教授 高木 理恵		講師 中井 周作 非常勤講師 山口 茂	
授業の達成目標		授業形態	
人々の生活や地域をより良くデザインするためには、モノや空間、行為や環境など様々な事象を客観的に捉えることが必要となる。基礎的な調査手法を習得するとともに、調査した結果などをわかりやすく効果的に他者に伝える基礎的な表現手法を習得する。この演習では、自宅周辺や大学周辺などの仙台市、宮城県、東北地方などを対象とする。		<input type="checkbox"/> 単独 (1人が全回担当) <input type="checkbox"/> 複数 (1回の授業を2人以上が一纏めに担当) <input type="checkbox"/> オムニバス (各回の担当教員が異なる場合) <input type="checkbox"/> クラス分け (クラス分けで担当する)	
授業の概要		該当科目	
調べるための手法と伝えるための手法を中心に扱う。具体的には「正しく読み取り、測ることができる」、「数値等を用いて客観的に表現することができる」「他者に正しく効果的に伝えることができる」ことなどに重点をおく。実践的調査ではグループワークもとり入れ、学んだ表現方法を用いてプレゼンテーションを行う。授業では、実務経験のある教員がより実践的な授業構成とする。		<input type="checkbox"/> 教職科目 (工業) <input type="checkbox"/> 教職科目 (商業) <input type="checkbox"/> 地域志向科目 <input type="checkbox"/> 実務経験のある教員担当 <input type="checkbox"/> アクティブラーニング	
実務経験を活かした教育について			
担当教員は、これまで自治体において地域社会の課題活動の調査研究に従事していた経験があり、その実績と経験を授業に還元して対応力の養成を図る。			
授業計画 (各回の学習内容等)			
	学習内容 (授業方法)	学習課題 (予習・復習)	時間(時)
第1回	調べることの意味	本学科で扱う領域 (調べることの必要性) などについて (予習: 縮尺について調べる / 復習: 三角スケールなどを用いて計測ができるようになる)	2
第2回	室内空間 (インテリア等) の計測	課題について自宅を観察したことを表現する (予習: 自宅の空間や物理的環境を正しく描けるように調べる / 復習: 描いたことが正確であるかの確認を行う)	2
第3回	室内空間 (インテリア等) の描写	自宅の空間と物理的環境を正しく表現する (予習: 自宅の空間や物理環境を詳細に描けるように調べる / 復習: 描いたことが正確であるかの確認を行う)	2
第4回	室内空間 (インテリア等) の描写とプレゼン	自宅の空間と物理的環境を表現し他者に伝える (予習: 自宅の空間や物理環境を他者に説明できるように調べる / 復習: 描いたことが正確であるかの確認を行う)	2
第5回	室内環境測定	快適な室内環境を維持するための熱、光などの環境要素についての知識と調査手法 (予習: 温度や照度を測る方法を調べておく / 復習: 室内環境の基本的な用語、概念について説明できるようにしておく)	2
第6回	データ・グラフの読み取り	身近な地域を対象とした主題図の作成 (予習: 自分の自宅周辺等の確認 / 復習: 効果的な主題図作成の留意点について振り返る)	2
第7回	測定結果グラフ作成 (棒グラフ・円グラフ)	前回行った測定結果を的確に表現できるようにする (予習: 前回調査した結果を効果的に表現する方法について考えておく / 復習: 室内環境の基本的事項について調査、表現できるようにする)	2
第8回	測定結果グラフ作成 (折れ線グラフ・散布図)	地域を表現する地図の基本的事項の確認 (予習: 地図記号など基本的な地図情報の確認 / 復習: 地図から実際の様子がイメージできるか確認する)	2
第9回	表現手法 (Adobe Illustrator; 基本操作)	人口など地域を把握する統計情報収集方法と表現について (予習: 国勢調査や住民基本台帳の記載情報について調べておく / 復習: 自分が表現したい内容に関する統計情報の収集と作図)	2
第10回	表現手法 (Adobe Illustrator; ログ)	自ら興味・関心に基づき何を調べるのか、どのように表現するか検討する (予習: 何をとり上げたいか考えておく / 復習: 効果的な表現方法の事例を調べる)	2
第11回	表現手法 (Adobe Illustrator; 地図)	前回、自ら設定した内容についての調査 (予習: 測定等調査方法の確認と準備 / 復習: 調査した結果に間違いがないか確認)	2
第12回	表現手法 (Adobe Illustrator; ポートフォリオ)	調査結果の表現方法についての検討と作図 (予習: これまで学んだ表現方法の振り返り / 復習: 伝えたい内容が作図できているか第三者にみってもらう)	2
第13回	全体の振り返り (プレゼン資料作成)	主題図に関する説明 (予習: 参考となる主題図を調べておく / 復習: 主題図を通して伝わったことと伝わらなかったことなど反省点、課題の整理)	2
第14回	全体の振り返り (プレゼンテーション)	これまで学んだ調査方法、表現方法についての総括 (予習: これまで学んだことを確認しておく / 復習: 課題に応じて適切な調査、表現方法が提示できるようにする)	2
教科書・参考書等			
必要に応じて紹介する。			
成績評価方法・基準			
時間終了時等の試験、提出された課題。			

4	くらしのデザイン実習 I LS-D-401		選択 3単位 2年後期
	Social Planning Practice I		
2年全組		教授 中島 敏 教授 岸本 誠司 准教授 伊藤美由紀	准教授 畠山 雄豪 講師 中井 周作 講師 谷本裕香子
授業の達成目標			授業形態
生活者（使用者）の視点に立ったデザインを行うために、生活者の心身や生活環境に関する安全安心問題を正しく明らかに把握するための調査や分析の方法を学び、改善策を考え提案することができる。			<input type="checkbox"/> 単独 (1人が全回担当) <input type="checkbox"/> 複数 (1回の授業を2人以上が一纏に担当) <input type="checkbox"/> オムニバス (各回の担当教員が異なる場合) <input type="checkbox"/> クラス分け (クラス分けで担当する)
授業の概要			該当科目
調査対象を自分や自分たちが生活する地域とし、学内や学外に出向き、実際に体験をしながら課題を発見し調査や提案を行う。自分の生活域である、宮城や仙台の地域の特徴を捉えたくらしをグループディスカッションやグループワークを通して考え、プレゼンテーションを行う。 授業では、実務経験のある教員がより実践的な授業構成とする。			<input type="checkbox"/> 教職科目（工業） <input type="checkbox"/> 教職科目（商業） <input type="checkbox"/> 地域志向科目 <input type="checkbox"/> 実務経験のある教員担当 <input type="checkbox"/> アクティブラーニング
実務経験を活かした教育について			
担当教員は、自治体において地域社会の課題活動の調査研究に従事していた経験者やデザイナーとして商品開発の経験者があり、その実績と経験を授業に還元して対応力の養成を図る。			
授業計画（各回の学習内容等）			
	学習内容（授業方法）	学習課題（予習・復習）	時間(時)
第1回	ガイダンス：生活者のための調査とデザイン展開 大学生生活に関する質問紙調査の作成	グループディスカッションを通して質問紙が作成できる（予習：大学生生活に関する調査の目的について考えてのぞむ／復習：体験実習の結果分析についてグループワークで出た意見や教員のアドバイスを基に不十分な部分を補う）	3
第2回	大学生生活に関する質問紙調査の作成と実施	調査結果を予測して調査を開始できる（予習：大学生生活に関する課題について考えてのぞむ／復習：質問紙調査の作成と実施についてグループワークで出た意見や教員のアドバイスを基に不十分な部分を補う）	3
第3回	大学生生活に向けての質問紙調査のデータ整理と結果の発表	調査結果を他者に伝えることができる（予習：調査を振り返り発表の準備を行う／復習：データ整理と結果の発表について学生とのディスカッションや教員のアドバイスを基に不十分な部分を補う）	3
第4回	自分が生活する地域に関する調査：ガイダンスと計画立案	地域に関心を持つ（予習：生活する地域について情報収集をしておく／復習：ガイダンスと計画立案について配付された資料や教員のアドバイスを基に不十分な部分を補う）	3
第5回	自分が生活する地域に関する調査：計画の実施と可視化	地域の抱える課題を考える（予習：生活する地域の現状と調査内容を振り返る／復習：計画の実施と可視化について配付された資料や教員のアドバイスを基に不十分な部分を補う）	3
第6回	自分の生活する地域に関する調査結果の発表	地域の抱える課題の解決策を考える（予習：発表の準備を行う／復習：発表に対する教員のアドバイスを基に不十分な部分を補う）	3
第7回	室内空間とインテリアや生活用品の大学内調査	生活空間と生活具の関係を考える（予習：生活具や空間とその課題について考えてのぞむ／復習：収集した文献や教員のアドバイスを基に不十分な部分を補う）	3
第8回	室内空間とインテリアや生活用品の調査と表現	生活空間と生活具の関係を描ける（予習：自分の生活空間と生活具を計測する／復習：調査結果の描画について教員のアドバイスを基にまとめる）	3
第9回	室内空間とインテリアや生活用品の表現方法を評価	他者の生活空間と生活具の表現を評価する（予習：自分の生活空間と生活具の描写を他者に説明する準備をする／復習：他者や教員のアドバイスを基に描画をまとめる）	3
第10回	インテリアや生活用品の市場調査	生活具を客観的に評価する（予習：自分の生活具の使用評価をする／復習：客観的な評価を基に改善点を考える）	3
第11回	インテリアや生活用品の調査と企画案	改善策を考え提案を表現できる（予習：調査結果を関連付けてのぞむ／復習：企画案について教員のアドバイスを基に不十分な部分を補う）	3
第12回	インテリアや生活用品の提案と図面	提案するものを図面で表現できる（予習：図面の書き方を復習しておく／復習：具体的な提案について教員のアドバイスを基に不十分な部分を補う）	3
第13回	インテリアや生活用品の模型	提案するものを形で表現できる（予習：制作する模型の素材や工程を考える／復習：課題と提案について教員のアドバイスを基に不十分な部分を補う）	3
第14回	インテリアや生活用品：プレゼンテーション	画像や作図を活用し他者にわかりやすく伝える（予習：発表の準備を行う／復習：プレゼンテーションについて学生とのディスカッションや教員のアドバイスを基に不十分な部分を補う）	3
教科書・参考書等			
教員が作成するオリジナル資料を配付する。			
成績評価方法・基準			
提出物（作品またはレポート）とその発表の内容をもとに評価を行う。			

5	くらしのデザイン実習Ⅱ LS-D-403		選択 3単位 3年前期
	Social Planning Practice Ⅱ		
2年全組		教授 中島 敏 教授 岸本 誠司 准教授 伊藤美由紀	准教授 畠山 雄豪 講師 中井 周作 講師 谷本裕香子
授業の達成目標			授業形態
仙台・宮城・東北地方を対象に地域の暮らしに焦点を当て、ヒト、モノ、コト、場をキーワードに障害者、高齢者、バリアフリーなどの様々な視点から問題・課題を明らかにする知識、それに加え課題を解決するための知識を身につける。 授業では、実務経験のある教員がより実践的な授業構成とする。			<input type="checkbox"/> 単独 (1人が全回担当) <input type="checkbox"/> 複数 (1回の授業を2人以上が一纏めに担当) <input type="checkbox"/> オムニバス (各回の担当教員が異なる場合) <input type="checkbox"/> クラス分け (クラス分けで担当する)
授業の概要			該当科目
目標に達するため、フィールドに実際に足を運び実践的に調査を行い、その結果を分析し、ポスターセッション等により結果を客観的に人に伝えるプレゼンテーションを行う。 授業では、実務経験のある教員がより実践的な授業構成とする。			<input type="checkbox"/> 教職科目 (工業) <input type="checkbox"/> 教職科目 (商業) <input type="checkbox"/> 地域志向科目
実務経験を活かした教育について			<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員担当 <input type="checkbox"/> アクティブラーニング
担当教員は、自治体において地域社会の課題活動の調査研究に従事していた経験者やデザイナーとして商品開発の経験者があり、その実績と経験を授業に還元して対応力の養成を図る。			
授業計画 (各回の学習内容等)			
	学習内容 (授業方法)	学習課題 (予習・復習)	時間(時)
第1回	ガイダンス 商業施設調査：計画	くらし系の研修テーマを事前に調べ予習し、ガイダンスをとおり概要を知る。概要を復習する。	3
第2回	商業施設調査：現地調査とデータ集計	調査結果をもとに集計の予習を行う。調査で収集したデータの集計を行う。集計と並行し分析方法やデータを扱う際の倫理観に関する知識を習得する。習得した知識を復習する。	3
第3回	商業施設調査：データ分析と発表	集計に関する知識をもとに分析方法について予習する。データを分析方法を身につける。またその分析結果より教員のアドバイスのもとと考察を行う。分析結果をもとに復習する。	3
第4回	まちなかユニバーサルデザインに関する調査：グループワーク	調査計画を用いて予習を行う。調査計画を基に事前調査を行う。事前調査後にはプレゼンテーションを行い、グループディスカッションにより計画を精査する。精査した計画をもとに復習を行う。	3
第5回	まちなかユニバーサルデザインに関する調査：調査結果整理・プレゼンテーション準備	調査計画をもとに現地調査の予習を行う。精査した調査計画をもとに調査を実施する。実施した内容をまとめ復習を行う。	3
第6回	プレゼンテーションの準備	プレゼンテーションについて予習を行う。調査計画からその実施、データの分析結果と考察をまとめ、プレゼンテーション資料の作成を行う。作成した資料をもとに復習を行う。	3
第7回	ポスターセッションによるプレゼンテーション	プレゼンテーション資料をもとに質疑応答の予習を行う。ポスターセッションでの質疑応答を行い、実習全体の評価を行う。前半の評価をもとに復習を行う。	3
第8回	障がい者とその支援者による講話と体験実習	障がい者について予習を行う。講話や体験実習により障がい者とその生活を理解する。事前に障がい者について調べたことと実際の体験を比べ復習を行う。	3
第9回	高齢者介護施設の現地見学と体験実習	高齢者施設について予習を行う。現地見学や体験実習により施設に入所する高齢者とその支援する環境を理解する。事前に高齢者施設について調べたことと実際の体験を比べ復習を行う。	3
第10回	障がい者や高齢者など他者に向けたインテリアや生活用品：市場調査	障がい者や高齢者などを対象とした生活具について予習を行う。現在使用している生活具の使用評価をする。復習として客観的な評価を基に改善点を考える	3
第11回	障がい者や高齢者など他者に向けたインテリアや生活用品：企画案と図面	障がい者や高齢者などを対象とした生活具について予習を行う。改善策や提案を図面で表現できる。復習としては、具体的な提案について教員のアドバイスを基に不十分な部分を補う	3
第12回	障がい者や高齢者など他者に向けたインテリアや生活用品：模型	予習として、制作する模型の素材や工程を考え、提案するものを形で表現できる。復習として、課題と提案について教員のアドバイスを基に不十分な部分を補う。	3
第13回	障がい者や高齢者など他者に向けたインテリアや生活用品：プレゼンテーション	予習として発表の準備を行い、プレゼンテーションについて画像や作図を活用し他者にわかりやすく伝える。復習として教員とのディスカッションやアドバイスを基に不十分な部分を補う。	3
第14回	4年生の卒業研究中間発表会の聴講及びレポート提出	事前周知される発表テーマの下調べを行い予習する。中間発表会聴講後発表内容をまとめる。まとめた資料をもとに復習を行う。	3
教科書・参考書等			
教科書なし、参考書は自作のものとする。			
成績評価方法・基準			
ポスターセッションによるプレゼンテーションとレポートにより総合的に評価を行う。			

6	住まいのデザイン実習 I		LS-D-402	選択 3単位 2年後期
	Housing Design Practice I			
2年全組		教授 大沼 正寛 教授 小山 祐司 非常勤講師 由利 収	非常勤講師 渡邊 武海 非常勤講師 庄子 奈々絵	
授業の達成目標			授業形態	
出題内容をもとに、職住のあり方、家族構成、地域性などに配慮した住まいを設計し、魅力的・論理的に表現傳達することができる。また、木造住宅の構法・部位・部材を理解し、設計製図をまとめることができる。各種図面に加えて模型製作などを通して表現技法を高め、魅力的なプレゼンテーション・ボードを仕上げることができる。			<input type="checkbox"/> 単独 (1人が全回担当) <input type="checkbox"/> 複数 (1回の授業を2人以上が一掃に担当) <input type="checkbox"/> オムニバス (各回の担当教員が異なる場合) <input type="checkbox"/> クラス分け (クラス分けで担当する)	
授業の概要			該当科目	
我が国において木造住宅は建築物の主たる要素であり、昨今再び注目されている。本実習では、職・住、家族構成や、仙台・宮城・東北の地域性に立脚した特徴ある住宅設計課題を通して、住まいのデザインの魅力と本質的課題に触れ、これを一つの作品に統合し、プレゼンテーションを行う。			<input type="checkbox"/> 教職科目 (工業) <input type="checkbox"/> 教職科目 (商業) <input type="checkbox"/> 地域志向科目 <input type="checkbox"/> 実務経験のある教員担当 <input type="checkbox"/> アクティブラーニング	
実務経験を活かした教育について				
授業では、建築士・デザイナーら、資格や実務経験のある常勤教員・非常勤講師により、実践的な授業構成とする。				
授業計画 (各回の学習内容等)				
	学習内容 (授業方法)	学習課題 (予習・復習)		時間(時)
第1回	第1部 計画と設計基礎 (1) 住空間の事例研究と構想	住空間の事例を学ぶ (予習: 参考図書を用い、好きな作品を探求する/復習: 以降の設計構想を練る)		6
第2回	第1部 計画と設計基礎 (2) 単位空間の設計術	水回りなど単位空間の設計術を習得する。(予習: 自宅の水回り空間を観察実測する/復習: 構想内容の単位空間において設計を進める)		6
第3回	第1部 計画と設計基礎 (3) デザインサーベイと構想	設計条件と立地環境の調査法を学ぶ。(予習: 設計対象地域について調べる/復習: 設計構想内容を固め、地域への整合性を検討する)		6
第4回	第2部 併用住宅の設計 (1) コンセプトとプランニング	設計コンセプトの立案手法を身につける。(予習: 住宅設計におけるテーマ設定を構想する/復習: プランニングをすすめる)		6
第5回	第2部 併用住宅の設計 (2) 断面と立面の計画	断面や立面の計画手法を身につける。(予習: 空間の上下整合性について予習する/復習: 断面立面設計を固めていく)		6
第6回	第2部 併用住宅の設計 (3) 手書き製図 1	製図法を身につけ実践する。(予習: 製図を自習で進めておく/復習: 製図法に間違いがないか確かめ、次の工程に移る)		6
第7回	第2部 併用住宅の設計 (4) 手書き製図 2	製図法を身につけ実践する。(予習: 製図を自習で進めておく/復習: 製図法に間違いがないか確かめ、次の工程に移る)		6
第8回	第2部 併用住宅の設計 (5) CAD 製図 1	CAD 製図法を身につけ実践する。(予習: 製図を自習で進めておく/復習: 製図法に間違いがないか確かめ、次の工程に移る)		6
第9回	第2部 併用住宅の設計 (6) CAD 製図 2	CAD 製図法を身につけ実践する。(予習: 製図を自習で進めておく/復習: 製図法に間違いがないか確かめ、次の工程に移る)		6
第10回	第3部 設計と表現技法 (1) 模型製作 1	模型製作法を身につけ実践する。(予習: 製作を自習で進めておく/復習: 製作法に間違いがないか確かめ、次の工程に移る)		6
第11回	第3部 設計と表現技法 (2) 模型製作 2	模型製作法を身につけ実践する。(予習: 製作を自習で進めておく/復習: 製作法に間違いがないか確かめ、次の工程に移る)		6
第12回	第3部 設計と表現技法 (3) パネル制作 1	パネル表現技法を身につけ実践する。(予習: 表現構想を進めておく/復習: 表現法に間違いがないか確かめ、次の工程に移る)		6
第13回	第3部 設計と表現技法 (4) パネル制作 2	パネル表現技法を身につけ実践する。(予習: 表現構想を進めておく/復習: 表現法に間違いがないか確かめ、次の工程に移る)		6
第14回	第3部 設計と表現技法 (6) 設計講評会	発表法を身につけ他者に伝達する。(予習: 発表シナリオを固めておく/復習: 指摘された事項をもとに設計・表現内容を改善する)		6
教科書・参考書等				
松本正富, 政木哲也, 半海宏一, 鯉坂誠之「建築デザイン製図」学芸出版社、2018 増田奏「住まいの解剖図鑑」エクスナレッジ、2009 日本建築学会編「第2版コンパクト建築設計資料集成 <住居>」丸善、2006				
成績評価方法・基準				
住宅設計作品の完成度に関する評価を中心とし、これに各回の学習・創作態度に関する評価を加え、総合的に評価する。				

7	住まいのデザイン実習Ⅱ	LS-D-404	選択 3単位 3年前期
	Housing Design Practice II		
3年全組 教 授 武山 倫 准 教 授 高木 理恵 非常勤講師 由利 収		非常勤講師 亀岡 真彦	
授業の達成目標			授業形態
集住に関する基礎知識をもち、コミュニティや都市計画条件を考慮した住環境設計を行い、論理的に説明することができる。エコロジカルな住宅建築に関する基礎知識をもち、環境性能に配慮した住環境設計を行い、論理的に説明することができる。工学的な内容と意匠的な内容を統合し、魅力的な提案図書を作成して、説得力ある口頭プレゼンテーションを行うことができる。			<input type="checkbox"/> 単独 (1人が全回担当) <input type="checkbox"/> 複数 (1回の授業を2人以上が一纏に担当) <input type="checkbox"/> オムニバス (各回の担当教員が異なる場合) <input type="checkbox"/> クラス分け (クラス分けで担当する)
授業の概要			該当科目
全3部で構成する。まず、コミュニティや都市計画条件を考慮した地域住環境の設計を行い、人々が集い、くらす場のあり方を総合的に探求し、作品にまとめあげる(第1部・職住コミュニティハウジング)。次いで、喫緊の課題となっているエコロジカルな住宅建築のあり方を考え、環境性能と高齢者福祉に配慮した住環境設計を行う(第2部・シルバーエコハウジング)。最後に、両者のうち履修者の個性に合わせて代表作品を選び、これに工学的な内容と意匠的な内容を統合した魅力的な提案図書を作成し、プレゼンテーションを行う(第3部・住まいデザイン・ポートフォリオ)。授業では、実務経験のある外部講師を招き、より実践的な授業構成とする。			<input type="checkbox"/> 教職科目(工業) <input type="checkbox"/> 教職科目(商業) <input type="checkbox"/> 地域志向科目
実務経験を活かした教育について			<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員担当 <input type="checkbox"/> アクティブラーニング
当科目は、一級建築士としての建築設計実務に携わった教員が担当する。とくに現地調査については、実習を現場で行い、実際の知見・技術を含めながら、実務で通用する調査シートの作成を指導する。			
授業計画(各回の学習内容等)			
	学習内容(授業方法)	学習課題(予習・復習)	時間(時)
第1回	第1クール・シルバーエコハウジング1・学習と企画	環境設備の基礎を学び、シルバーハウジングにおける省エネ計画を含めた建築企画を行う。簡易CASBEEの観点を導入し、環境性能・内部快適性・コストの総合指標を学ぶ。(予習:環境工学や設備に関する講義系科目を復習しておく/復習:以降の環境設計の目標を定める)	3
第2回	第1クール・シルバーエコハウジング2・空間計画	平面・断面的な空間計画を行い、整合を図る。(予習:過去の自分の作品群からプランニング手法を復習しておく/復習:次回の詳細設計に先立ち、開口部などの造りを確認しておく)	3
第3回	第1クール・シルバーエコハウジング3・外皮と開口	建物の仕様を設計する。ここで、選択できる建材等の情報を与え、外皮や開口を指定して行く。(予習:環境工学や設備に関する講義系科目を復習しておく/復習:環境設計の詳細を定め、仕様として確定していく)	3
第4回	第1クール・シルバーエコハウジング4・外構と設備と表面積	住宅計画に付与する外構計画や設備、家具類を決め、とくに設備の効率等に配慮して、省エネ設計を進めて行く。(予習:環境工学や設備に関する講義系科目を復習しておく/復習:環境設計の詳細を定め、仕様として確定していく)	3
第5回	第1クール・シルバーエコハウジング5・熱性能の計算	確定した仕様書にもとづき、建物の熱的性能を試算する。(予習:環境工学や設備に関する講義系科目を復習しておく/復習:環境設計の詳細を定め、設計の詳細を確定し、不具合を修正していく)	3
第6回	第1クール・シルバーエコハウジング6・講評会	環境設計の総合的観点から講評会を行い、省エネ性における優劣を相互に評価する。(予習:発表準備をしておく/復習:反省点をふまえ作品を修正する)	3
第7回	第2クール・職住コミュニティハウジング1・建築企画	建築企画を立案し、対象地域の現地調査計画をたてる。(予習:コミュニティに関する講義系科目のノートを復習しておく/復習:現地調査の行動予測をたて、必要物を準備しておく)	3
第8回	第2クール・職住コミュニティハウジング2・現地調査	計画対象地の現地調査を行い、以降の設計に必要な情報を収集する。(予習:調査シートに目を通し行動計画を明確化する/復習:収集した情報をもとに基本計画を開始する)	3
第9回	第2クール・職住コミュニティハウジング3・空間設計	調査内容をもとに空間設計を進める。模型製作を行い、3次元的な空間構成と整合性を調整していく。(予習:プランニング案を複数用意して効率よい決定案をめざす/復習:開口部や上下移動など詳細部分の整合を図る)	3
第10回	第2クール・職住コミュニティハウジング4・設計製図	設計内容を確定し、配置図・平面図・断面図等から製図を進めていく。(予習:設計内容の確定に至らない場合には事前に教員と相談する/復習:製図の進捗度が上がるよう自習的に進めておく)	3
第11回	第2クール・職住コミュニティハウジング5・製図仕上げ	立面や外構、さらに視覚的表現など、魅力的な製図・プレゼン表現を心がけ、進めて行く。(予習:製図内容の進捗度を上げておく/復習:次回の講評会に備えて発表シナリオを筆耕する)	3
第12回	第2クール・職住コミュニティハウジング6・講評会	講評会にて作品発表を行い、他の作品から反省・修正点を学ぶ。(予習:発表準備をしておく/復習:反省点をふまえ作品を修正する)	3
第13回	第3クール・住まいデザインポートフォリオ1・制作	地域木造住宅/コミュニティハウジング/シルバーエコハウスの4点から最も力作と思われるものを選び、プレゼンボードの作成を行う。(予習:発表作品を整理しておく/復習:反省点をふまえ作品を修正する)	3
第14回	第3クール・住まいデザインポートフォリオ2・講評会	地域木造住宅/コミュニティハウジング/シルバーエコハウスの4点から作成したプレゼンボードをもとに総合講評会を行う。(予習:発表準備をしておく/復習:反省点をふまえ作品を修正する)	3
教科書・参考書等			
増田奏「住まいの解剖図鑑」エクスナレッジ、2009 松下希和「住宅・インテリアの解剖図鑑」エクスナレッジ、2011 日本建築学会編「第2版コンパクト建築設計資料集成 <住居>」丸善、2006			
成績評価方法・基準			
各回の提出図面と取組み姿勢を総合的に評価する。			

8	研究・制作実習 LS-D-405	必修 3単位 3年後期	
	Practice of Works and Thesis		
3年全組 全教員			
それぞれの教員が教員に配属する学生を担当する。			
授業の達成目標		授業形態	
指導教員のゼミに分かれ、教員が提示するテーマに取り組み、その専門的な手法を習得することを目的とする。		<input type="checkbox"/> 単独 (1人が全回担当)	
		<input checked="" type="checkbox"/> 複数 (1回の授業を2人以上が一纏に担当)	
		<input type="checkbox"/> オムニバス (各回の担当教員が異なる場合)	
		<input type="checkbox"/> クラス分け (クラス分けで担当する)	
授業の概要		該当科目	
卒業研修に向けて必要な知識と技術を、研修を通して習得する。各教員の研究室に所属して、教員指導のもと、個人または共同で、特定のテーマに関する実習を行う。		<input type="checkbox"/> 教職科目 (工業)	
		<input type="checkbox"/> 教職科目 (商業)	
		<input type="checkbox"/> 地域志向科目	
実務経験を活かした教育について		<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員担当	
		<input type="checkbox"/> アクティブラーニング	
授業計画 (各回の学習内容等)			
	学習内容 (授業方法)	学習課題 (予習・復習)	時間(時)
第1回	4年生の卒業研究中間発表会 (前半) の聴講及びレポート提出	予習: 事前周知される発表テーマ (前半) の下調べを行う。復習: 聴講後発表内容をまとめる。	3
第2回	4年生の卒業研究中間発表会 (後半) の聴講及びレポート提出	予習: 事前周知される発表テーマ (後半) の下調べを行う。復習: 聴講後発表内容をまとめる。	3
第3回	ゼミの既往研究理解1: 内容把握	予習: ゼミ毎のガイダンス資料を基に重要事項について下調べを行う。復習: ゼミの既往研究理解1: 内容把握についてゼミ内の討論と教員のアドバイスをまとめる。	3
第4回	ゼミの既往研究理解2: 質疑応答	予習: 質問事項を準備する。質疑応答などの討論内容をまとめる。復習: ゼミの既往研究理解2: 質疑応答についてゼミ内の討論と教員のアドバイスをまとめる。	3
第5回	ゼミの既往研究理解3: 課題の抽出と今後の展開	予習: 各自の課題について下調べを行う。復習: ゼミの既往研究理解3: 課題の抽出と今後の展開についてゼミ内の討論と教員のアドバイスをまとめる。	3
第6回	ゼミの研究関連知識習得1: 知識の紹介	予習: 各自の課題について文献調査を行う。復習: ゼミの研究関連知識習得1: 知識の紹介についてゼミ内の討論と教員のアドバイスをまとめる。	3
第7回	ゼミの研究関連知識習得2: 質疑応答	予習: 各自の課題設定を試行的に行う。復習: ゼミの研究関連知識習得2: 質疑応答についてゼミ内の討論と教員のアドバイスをまとめる。	3
第8回	ゼミの研究技術習得1: 技術の紹介	予習: 各自の課題について研究手法の調査を行う。復習: 技術の紹介で学んだ調査技術などについて教員のアドバイスをまとめる。	3
第9回	ゼミの研究技術習得2: 技術の練習	予習: 各自の課題について研究手法の試行実践を行う。復習: 技術の練習で学んだ調査技術などについて教員のアドバイスをまとめる。	3
第10回	知識と技術の総合化のための基礎的課題1: 課題理解と準備作業	予習: 各自の課題設定を統合的に行う基礎的準備をする。復習: 課題理解と準備作業についてゼミ内の討論と教員のアドバイスをまとめる。	3
第11回	知識と技術の総合化のための基礎的課題2: 調査または制作	予習: 各自の課題設定を統合的に行うための予備調査や予備制作の準備をする。復習: 調査または制作についてゼミ内の討論と教員のアドバイスをまとめる。	3
第12回	知識と技術の総合化のための基礎的課題3: 成果の報告	予習: 各自の予備調査や予備制作のまとめを準備をする。復習: 成果の報告についてゼミ内の討論と教員のアドバイスをまとめる。	3
第13回	知識と技術の総合化のための応用的課題: 課題理解と準備作業	予習: 各自の課題設定を統合的に行う準備をする。復習: 課題理解と準備作業についてゼミ内の討論と教員のアドバイスをまとめる。	3
第14回	知識と技術の総合化のための応用的課題: 成果の報告	予習: 各自の調査や制作のまとめを準備をする。復習: 成果の報告についてゼミ内の討論と教員のアドバイスをまとめる。	3
教科書・参考書等			
各研究室の教員が、実習のテーマに応じて提示する。			
成績評価方法・基準			
提出物 (作品またはレポート) を総合的に勘案して評価する。			

9	卒業研修 I LS-D-406	必修 3単位 4年前期	
	Graduation Works and Thesis I		
4年全組 全教員			
それぞれの教員が教員に配属する学生を担当する。			
授業の達成目標		授業形態	
特定のテーマに基づいた「論文」または「作品」を主体的にまとめる作業を通じて、「目的設定→方法の検討とその実行→結果と考察」という論理的な研究方法を修得し、活用できるようになること。		<input type="checkbox"/> 単独 (1人が全回担当) <input checked="" type="checkbox"/> 複数 (1回の授業を2人以上が一纏に担当) <input type="checkbox"/> オムニバス (各回の担当教員が異なる場合) <input type="checkbox"/> クラス分け (クラス分けで担当する)	
授業の概要		該当科目	
本科目は卒業研修の実践であり、4年間の学習の総仕上げである。具体的には、各教員の研究室に所属して、教員指導のもと、個人もしくは共同で、特定のテーマに基づいた研究または制作を行う。ここでは、研究テーマに関するガイダンスに始まり、テーマに関連する資料の収集、基礎理論の学習を通して研究テーマを決定し、研究方法または制作手段の検討、実験、調査、制作の計画立案、それらの準備と予備実験や予備調査の実施、中間報告書の作成とその口頭発表までを行う。		<input type="checkbox"/> 教職科目 (工業) <input type="checkbox"/> 教職科目 (商業) <input type="checkbox"/> 地域志向科目 <input type="checkbox"/> 実務経験のある教員担当 <input type="checkbox"/> アクティブラーニング	
実務経験を活かした教育について			
授業計画 (各回の学習内容等)			
	学習内容 (授業方法)	学習課題 (予習・復習)	時間(時)
第1回	テーマに関するガイダンス	予習：事前周知されるテーマの下調べを行う。復習：テーマについてゼミ内の討論と教員のアドバイスをまとめる。	3
第2回	テーマの背景・目的について	予習：各自のテーマ設定の意義や背景・目的をまとめる。復習：テーマの背景・目的についてゼミ内の討論と教員のアドバイスをまとめる。	3
第3回	テーマに関する資料の収集	予習：各自のテーマに関する既往の研究や利用する資料の収集先などを調べる。復習：テーマに関する資料の収集についてゼミ内の討論と教員のアドバイスをまとめる。	3
第4回	テーマに関する基礎理論の学習	予習：各自のテーマに関する分析・制作などの方法論の基礎を下調べする。復習：テーマに関する基礎理論の学習についてゼミ内の討論と教員のアドバイスをまとめる。	3
第5回	研究方法または制作手段の検討	予習：各自のテーマに関する分析・制作などの方法論をまとめる。復習：研究方法または制作手段の検討についてゼミ内の討論と教員のアドバイスをまとめる。	3
第6回	実験、調査、制作等の計画立案	予習：実験、調査、制作等の計画を立てる。復習：実験、調査、制作等の計画立案についてゼミ内の討論と教員のアドバイスをまとめる。	3
第7回	基礎理論のまとめ	予習：計画に沿って必要な基礎理論をまとめる。復習：基礎理論のまとめについてゼミ内の討論と教員のアドバイスをまとめる。	3
第8回	研究または制作のための諸準備	予習：計画に沿った準備内容を書き出す。復習：研究または制作のための準備についてゼミ内の討論と教員のアドバイスをまとめる。	3
第9回	予備実験、予備調査、制作など	予習：予備調査や予備制作の準備をする。復習：予備実験、予備調査、制作などについてゼミ内の討論と教員のアドバイスをまとめる。	3
第10回	予備実験、予備調査、制作などのまとめ	予習：予備調査や予備制作のまとめを準備する。復習：予備実験、予備調査、制作などのまとめについてゼミ内の討論と教員のアドバイスをまとめる。	3
第11回	中間報告書の準備	予習：中間報告書の準備を行う。復習：中間報告書の準備についてゼミ内の討論と教員のアドバイスをまとめる。	3
第12回	中間報告書の作成・提出	予習：中間報告書をまとめる。復習：中間報告書の作成・提出についてゼミ内の討論と教員のアドバイスをまとめる。	3
第13回	中間発表の準備	予習：発表の準備をする。復習：中間発表の準備についてゼミ内の討論と教員のアドバイスをまとめる。	3
第14回	中間発表 (口頭発表) と講評	予習：発表の準備をする。復習：講評を参考にリファインをする。	3
教科書・参考書等			
各研究室の教員が、研究課題の進捗状況に応じて提示する。			
成績評価方法・基準			
テーマの設定、方法や手段の妥当性。テーマの分野、性格、位置づけの認識度。進捗状況と後期への準備状況。口頭発表の明快度。以上を総合して評価する。			

10	卒業研修Ⅱ LS-D-407	必修 3単位 4年後期	
	Graduation Works and Thesis Ⅱ		
4年全組 全教員			
それぞれの教員が教員に配属する学生を担当する。			
授業の達成目標		授業形態	
特定のテーマに基づいた「論文」または「作品」を主体的にまとめる作業を通じて、「目的設定→方法の検討とその実行→結果と考察」という論理的な研究方法を修得し、活用できるようになること。		<input type="checkbox"/> 単独 (1人が全回担当) <input checked="" type="checkbox"/> 複数 (1回の授業を2人以上が一纏に担当) <input type="checkbox"/> オムニバス (各回の担当教員が異なる場合) <input type="checkbox"/> クラス分け (クラス分けで担当する)	
授業の概要		該当科目	
本科目は卒業研修の実践であり、4年間の学習の総仕上げである。具体的には、各教員の研究室に所属して、教員指導のもと、個人もしくは共同で、特定のテーマに基づいた研究または制作を行う。ここでは、研修Ⅱで行った予備実験や予備調査または制作の中間報告結果に基づき、本実験や本調査または作品制作の計画立案からその実行までを行い、結果の分析を深めるとともに、追加実験、追加調査を経て、論文の構成や制作内容を検討し、卒業論文または卒業制作としてまとめる。さらに、内容梗概を作成して口頭発表やパネル展示発表などを行う。		<input type="checkbox"/> 教職科目 (工業) <input type="checkbox"/> 教職科目 (商業) <input type="checkbox"/> 地域志向科目 <input type="checkbox"/> 実務経験のある教員担当 <input type="checkbox"/> アクティブラーニング	
実務経験を活かした教育について			
授業計画 (各回の学習内容等)			
	学習内容 (授業方法)	学習課題 (予習・復習)	時間(時)
第1回	中間報告結果の吟味とテーマの内容および方法の再検討	予習：リファインされた研修成果を準備する。復習：テーマの内容および方法の再検討についてゼミ内の討論と教員のアドバイスをまとめる。	3
第2回	実験、本調査または作品制作の計画準備	予習：調査や制作の計画準備をする。復習：実験、本調査ゼミ内の討論と教員のアドバイスをまとめる。	3
第3回	実験、本調査または作品制作の計画立案	予習：調査や制作の計画をする。復習：ゼミ内の討論と教員のアドバイスをまとめる。	3
第4回	本実験、本調査または作品制作の実施準備	予習：調査や制作の実施準備をする。復習：ゼミ内の討論と教員のアドバイスをまとめる。	3
第5回	本実験、本調査または作品制作の実施	予習：調査や制作の実施をする。復習：ゼミ内の討論と教員のアドバイスをまとめる。	3
第6回	本実験、本調査または作品制作の実施と検証	予習：調査や制作の実施結果をまとめる。復習：ゼミ内の討論と教員のアドバイスをまとめる。	3
第7回	分析と追加実験、追加調査または再制作の計画準備	予習：調査や制作の結果を踏まえ追加調査や追加制作の準備計画を行う。復習：ゼミ内の討論と教員のアドバイスをまとめる。	3
第8回	分析と追加実験、追加調査または再制作の実施	予習：追加調査や追加制作を行う。復習：ゼミ内の討論と教員のアドバイスをまとめる。	3
第9回	論文構成または制作ノート構成の検討	予習：論文や制作ノートの章立てを計画する。復習：ゼミ内の討論と教員のアドバイスをまとめる。	3
第10回	論文の総括または制作の仕上げ	予習：論文や制作のフィニッシュワークを行う。復習：ゼミ内の討論と教員のアドバイスをまとめる。	3
第11回	内容梗概の作成	予習：論文や作品制作を梗概原稿にまとめる。復習：ゼミ内の討論と教員のアドバイスをまとめる。	3
第12回	予備審査会口頭発表と講評	予習：予備審査会発表の準備を行う。復習：講評を基に、リファインや修正を行う。	3
第13回	本審査会での研究発表または制作発表の準備	予習：本審査会発表 (研究発表または制作発表) の準備を行う。復習：ゼミ内の討論と教員のアドバイスをまとめる。	3
第14回	本審査会の口頭発表と講評	予習：本審査会発表 (口頭発表) の準備を行う。復習：講評を基に、リファインや修正を行う。	3
教科書・参考書等			
各研究室の教員が、研究課題の進捗状況に応じて提示する。			
成績評価方法・基準			
実験、調査の内容およびその分析または制作の学習度。内容構成の妥当性。目的とゴールの関連度。論文または作品の完成度。内容梗概の完成度。口頭発表の明快度と完成度。以上を総合して評価する。			

11	心の理解とケア LS-B-102	必修 2単位 1年前期	
Psychological Human Care			
1年全組 講師 中井 周作			
授業の達成目標		授業形態	
安全安心生活デザイン学科での教育目標と内容を具体的に理解し、学習の動機付けを高める。		○ 単独 (1人が全回担当)	
		複数 (1回の授業を2人以上が一纏に担当)	
		オムニバス (各回の担当教員が異なる場合)	
		クラス分け (クラス分けで担当する)	
授業の概要		該当科目	
意識と無意識の世界について学び、神経症や心身症の原因や予防法を理解する。さらに様々な心理検査の実習を通して自己理解を深めていく。具体的には、ロールシャッハテストなどの性格診断テストを行いながら潜在意識についての理解を深め、心の病の原因と予防・治療法を学ぶ。いじめやニートなど、現代社会における心の病は、その原因を理解することによってはじめて解決可能となる。さまざまな心理検査の実習を通して自己理解を図り、心の安定と健康の基礎作りを学んでいく。		教職科目 (工業)	
		教職科目 (商業)	
		地域志向科目	
実務経験を活かした教育について		実務経験のある教員担当	
		アクティブラーニング	
授業計画 (各回の学習内容等)			
	学習内容 (授業方法)	学習課題 (予習・復習)	時間(時)
第1回	序章 (講義内容紹介)	心理学について予習を行う。心理学の分野に関心を持ち、講義ノートを作成し復習を行う。	4
第2回	心理学の諸領域	臨床心理学について予習を行う。臨床心理学の概要を学び、講義ノートを作成し復習を行う。	4
第3回	性格の理解 (ビッグファイブ理論)	心理テストについて予習を行う。心理テストを通し自分の性格を知り、講義ノートを作成し復習を行う。	4
第4回	性格の理解 (ロールシャッハテスト)	ロールシャッハテストについて予習を行う。心身症の検査を学び、自分の健康に当てはめる。講義ノートを作成し復習を行う。	4
第5回	性格の理解 (ゲスフーテスト)	ゲスフーテストについて予習を行う。心理テストを通し自分の性格を知り、講義ノートを作成し復習を行う。	4
第6回	アイデンティティ	アイデンティティについて予習を行う。青年期の自我について学び、講義ノートを作成し復習を行う。	4
第7回	エゴグラム実習	エゴグラムについて予習を行う。性格判断テストを通し、自分の性格を深く理解する。講義ノートを作成し復習を行う。	4
第8回	人間関係とストローク欲求と葛藤	欲求や葛藤について予習を行う。人間関係を心理学的アプローチより学ぶ。講義ノートを作成し復習を行う。	4
第9回	欲求不満	欲求不満について予習を行う。欲求不満の状態を学び、その解決策を学ぶ。講義ノートを作成し復習を行う。	4
第10回	防衛機制	防衛機制について予習を行う。防衛機制について学び、その重要性和危険性を学ぶ。講義ノートを作成し復習を行う。	4
第11回	ストレスコーピング	ストレスコーピングについて予習を行う。ストレスについて学び、その解決策を学ぶ。講義ノートを作成し復習を行う。	4
第12回	心身症とは何か	心身症について予習を行う。心身症について実態を学ぶ。講義ノートを作成し復習を行う。	4
第13回	心身症の原因・予防	心身症について予習を行う。心身症の原因を学ぶ。講義ノートを作成し復習を行う。	4
第14回	理解のまとめ	これまで学んだ知識を講義ノートを通して予習した上で、総復習し理解を深める。	4
教科書・参考書等			
自作資料。			
成績評価方法・基準			
期末テスト 60%、中間テスト 20%、授業レポート 20%、評価合計 60 点以上で合格とする。			

12	福祉まちづくり論 LS-B-108	必修 2単位 1年前期	
	Welfare Community Design 1年全組 講師 谷本裕香子		
授業の達成目標		授業形態	
<ul style="list-style-type: none"> 日本における都市計画からまちづくりへの動きを理解する 現代日本社会におけるコミュニティの福祉的な課題を理解する 地域福祉に関する基礎的な理論と方法を習得する 		<input type="radio"/> 単独 (1人が全回担当) <input type="checkbox"/> 複数 (1回の授業を2人以上が一纏に担当) <input type="checkbox"/> オムニバス (各回の担当教員が異なる場合) <input type="checkbox"/> クラス分け (クラス分けで担当する)	
授業の概要		該当科目	
<p>本講義は、2部構成となっている。前半では、まちづくりに関わる基礎的な理論や方法を知るとともに成熟社会、人口減少時代のまちのあり方、そこでの人々の暮らしへの取り組み方法を考える。後半では、福祉の視点からのまちづくりを扱う。地域福祉に関する理論や施策内容を参照しつつ、地域コミュニティにおける福祉のニーズが増大し、多様化する中で、いかなる課題が表出してきたか、それらにどう取り組むべきかを実践例をもとに学んでいく。</p>		<input type="checkbox"/> 教職科目 (工業) <input type="checkbox"/> 教職科目 (商業) <input type="checkbox"/> 地域志向科目	
実務経験を活かした教育について		<input type="radio"/> 実務経験のある教員担当	
担当者の設計の実務経験を活かした実践例の紹介を行い、企画・設計等の力を養成する。		<input type="checkbox"/> アクティブラーニング	
授業計画 (各回の学習内容等)			
	学習内容 (授業方法)	学習課題 (予習・復習)	時間(時)
第1回	<1部>都市計画とまちづくり 現代都市計画の思潮／都市計画からまちづくりへ	予習) 都市計画の視点からまちを観察する 復習) 現代都市計画の新たな課題について復習する	4
第2回	超高齢社会、人口減少社会のまちづくり	予習) 地域包括ケアについて調べてくる 復習) 空き家問題や限界集落について復習する	4
第3回	都市のマネジメント、交通まちづくり	予習) PFIについて調べてくる 復習) PFI、PPP、コミュニティビジネスについて復習する	4
第4回	防災・復興まちづくり、防犯まちづくり	予習) 防災都市について調べてくる 復習) ハザードマップや犯罪発生マップについて復習する	4
第5回	景観、環境共生のまちづくり／前半のまとめ	予習) 歴史的街並み保存について調べてくる 復習) 再生可能エネルギーや緑化の重要性について復習する	4
第6回	<2部>福祉のまちづくり 地域福祉の理念、歴史	予習) 地域福祉の理念を調べる 復習) 地域福祉の歴史について復習する	4
第7回	地域福祉の政策展開	予習) 地域福祉の政策について調べる 復習) 地域福祉の政策の内容や課題について復習する	4
第8回	地域福祉の方法	予習) 地域福祉の実践例について調べる 復習) 講義で学んだニーズキャッチや組織化について復習する	4
第9回	地域福祉を推進する人・団体	予習) 身の回りの地域福祉に関わる職業について調べる 復習) コミュニティソーシャルワーカー等の役割について復習する	4
第10回	高齢者と地域福祉	予習) 高齢者の地域生活のなかでのニーズを調べる 復習) 高齢者のニーズと課題解決に向けた取り組みを復習する	4
第11回	障害者と地域福祉	予習) 障害者の地域生活のなかでのニーズを調べる 復習) 障害者の生活を地域で支える仕組みを復習する	4
第12回	子供と地域福祉	予習) 現代社会における子供の教育に対する課題を調べる 復習) 子供の教育や発達への地域社会の役割を復習する	4
第13回	地域福祉と評価	予習) 後半の講義内容の復習をする 復習) 地域福祉の取り組みの評価について復習する	4
第14回	講習会	予習) プレゼンテーションの準備をする 復習) 他人のプレゼンを参考にしつつ自分のプレゼンを振り返る	4
教科書・参考書等			
講義の時間に毎回プリントを配布する。 参考書 上野谷加代子ほか2名「よくわかる地域福祉」, ミネルヴァ書房, 2019.3			
成績評価方法・基準			
授業内での小レポート (40%) および、中間・最終回のテスト・発表等 (60%) により総合的に判断し、評価する。 レポート・発表については、原則、翌週の授業時にフィードバックを行う。			

13	住まいの計画 LS-C-103	必修 2単位 1年前期	
	Housing Theory 1年全組 教授 武山 倫		
授業の達成目標		授業形態	
住まいづくりに関する基本的な知識やプロセスを理解するとともに、戸建て住宅のプラン（空間計画）を読み解き、計画することができる。また、現代日本および東北地方における住まいづくりの問題点とこれからの課題について理解し、これをふまえた理想の家をプランニングすることができる。		○ 単独 (1人が全回担当) ○ 複数 (1回の授業を2人以上が一組に担当) ○ オムニバス (各回の担当教員が異なる場合) ○ クラス分け (クラス分けで担当する)	
授業の概要		該当科目	
1) 住まいづくりに関する基本的な知識とプロセスについての講義 2) 戸建て住宅のグリッドプランニング手法の解説と演習 3) 現代日本および東北地方における住まいづくりの問題点とこれからの課題についての講義 当科目は、一級建築士として多くの建築設計実務に携わった教員が担当する。すなわち、プランニングから基本的性能まで、現実の住まいを計画するうえで必要な知見・技術を数多く含めながら、実践的・事例的に解説する。		○ 教職科目（工業） ○ 教職科目（商業） ○ 地域志向科目	
実務経験を活かした教育について		○ 実務経験のある教員担当	
当科目は、一級建築士としての建築設計実務に携わった教員が担当する。クライアントからの要求など住まいの計画に関わる実際的な知見・技術を含めながら、事例的に解説する。		○ アクティブラーニング	
授業計画（各回の学習内容等）			
	学習内容（授業方法）	学習課題（予習・復習）	時間(時)
第1回	住まいづくりの原点	住まいとは何か。住まいをつくることの意味はなにか。その意義・魅力と課題を考える。(予習:住まいの自己体験をメモしておく/復習:講義のなかで関心をもった事項を参考図書等で深く考察する)	4
第2回	デザインと計画	デザインと計画は、建築や住宅の分野では異なる概念であり、これを考え、また正確に把握する。(予習:計画とは何かを下調べしておく/復習:講義をもとに自分の住まいがどう計画されたかを考察する)	4
第3回	住まいの要点を発見する	住まいは、生活そのものを包み込む重要な器であり、幾つもの要点がある。これを想起し、考えていく。(予習:住まいの体験のうち良かったことや悪かったことをメモしておく/復習:講義内容のなかで関心をもった事項を参考図書等で深く考察する)	4
第4回	住まいの基礎用語	住まいの魅力や課題を考えると、幾つものキーワードに直面する。本講義では、これを学び会得する。(予習:住まいの用語の不明点をメモしておく/復習:講義のなかで触れた用語についてノートを整理し記憶する)	4
第5回	住まいをつくる、チームでつくる	住まいを一人で建てることはまずない。どんな人々が関わり、どんなコミュニケーションをとるのかを考え、理解する。(予習:建築家や大工など、住まいづくりを職業とする人々を列挙しておく/復習:講義のなかで未知だった職能や立場について深く考察する)	4
第6回	住まいづくりのルール	住まいは社会的な存在であり、法的・道義的に公正なものをつくる必要がある。これを学び考える。(予習:建築基準法とは何かを下調べしておく/復習:法体系を確認し、高学年次の学習計画を考える)	4
第7回	住まいのなりたちー構成部位	住まいを構成する部位・部材等について学び、考える。(予習:住まいの構成要素を複数スケッチしてこくる/復習:住まいの構成部位が、なぜそのような造形となっているのかを考察する)	4
第8回	住まいのなりたちー屋根と壁	住まいを構成する屋根や壁等について学び、考える。(予習:住まいの屋根や壁をスケッチしてこくる/復習:住まいの屋根や壁が、なぜそのような造形となっているのかを考察する)	4
第9回	住まいのなりたちー居間から寝室まで	住まいを構成する空間について学び、考える。(予習:住まいの間取をスケッチしてこくる/復習:住まいの間取りが、なぜそのような形となっているのかを考察する)	4
第10回	住まいのなりたちー水回り	住まいのなかの水回り空間について学び、考える。(予習:住まいの構成要素を複数スケッチしてこくる/復習:住まいの間取りが、なぜそのような形となっているのかを考察する)	4
第11回	住まいのプランニング	これまでの知識を総動員して、住まいを計画してみる。(予習:住まいの間取りや空間構成について構想を練ってくる/復習:住まいの間取りや寸法体系を確認し、自分の図面を修正する)	4
第12回	住まいと建築	住宅と建築は異なる存在である。ここではその違いをもとに、住まい特有の課題について学び、考える。(予習:住宅と大型施設やビルとの違いを考えてこくる/復習:建築学の関係書籍を一読しながら住宅特有の課題を知る)	4
第13回	住まいと環境ー健康なくらしとともに	健康なくらしを包む住まいのあり方について考える。(予習:住まいの健康被害について調べてこくる/復習:健康な住まいとは何かを考察する)	4
第14回	住まいと環境ーまとめー地球と自然にやさしく	これまでの学習内容を総括し、魅力あるくらしと住まいを構想、計画することの意義と課題を考える。(予習:これまでの受講ノートを復習しておく/復習:期末試験に備え基礎用語の確認や講義内容について復習する)	4
教科書・参考書等			
教科書 よむ住宅プランニング 株式会社学芸出版社 ISBN4-7615-2200-3			
成績評価方法・基準			
期末試験および講義中に出題するレポート等の得点をもとに、総合的に評価する。			

14	住まいの構造と材料 LS-C-111	必修 2単位 1年前期	
	Structure and Material for Residence		
1年全組 教 授 小山 祐司 非常勤講師 野津 弘 小山が第1回から第7回を担当、第7回から第14回を非常勤講師が担当する。			
授業の達成目標		授業形態	
建築物の様々な構造・工法（柱・梁構造や組積構造、剛接合構造など）とその建築材料を理解すること。さらに、木造建物の各部構法（基礎、床組、軸組、小屋組）及び外部仕上げや内部仕上げ構法を学び、建築物が構築されるしくみを理解すること。		単独 (1人が全回担当) 複数 (1回の授業を2人以上が一纏に担当) <input type="radio"/> オムニバス (各回の担当教員が異なる場合) クラス分け (クラス分けで担当する)	
授業の概要		該当科目	
先ず伝統的な石の建築物と木の建築物などを構成する構造・工法、近代以降の鉄とコンクリートによる剛接合構造・工法について学ぶ。次に、現代の木造住宅における各部構法（地業・床組・軸組・小屋組、内装、外装）の基礎を学ぶ。そして、建築物を構成する建築構造と造作材（インテリア・エクステリア）を理解し、建築デザインの基本を学ぶ。		<input type="radio"/> 教職科目（工業） 教職科目（商業） 地域志向科目	
実務経験を活かした教育について		<input type="radio"/> 実務経験のある教員担当	
担当教員は、建築士として、また建築設計事務所における設計実務に従事した実績と経験を活かして、授業において企画・設計・デザイン等の建築設計にかかわる実務への対応力を養成する。		<input type="radio"/> アクティブラーニング	
授業計画（各回の学習内容等）			
	学習内容（授業方法）	学習課題（予習・復習）	時間(時)
第1回	石の建築物の構造 古代エジプトのピラミッドからローマのドームまで	予習：ヨーロッパ古代の石造の建築物について参考書などを利用し調べておくこと。復習：配付した講義要録冊子と図版資料を利用して復習すること。	4
第2回	石の建築物の構造 ビザンチン建築のペンデンティブから中世キリスト教会堂の建築まで	予習：講義要録や参考書を基に、リントル&ポスト工法やアーチ・ヴォールト・ドーム構法について調べておくこと。復習：配付した講義要録冊子と図版資料を利用して復習すること。	4
第3回	木の建築物の構造 日本の伝統構造 軸組と小屋組の構成	予習：講義要録や参考書を基に、伝統工法による軸組構成と屋根構造について調べておくこと。復習：配付した講義要録冊子と図版資料を利用して復習すること。	4
第4回	木の建築構造 日本の近代以降の建築西洋技術の導入による構造の変化、在来工法、2×4工法について	予習：講義要録や参考書を基に、在来工法、などについて調べておくこと。復習：配付した講義要録冊子と図版資料を利用して復習すること。	4
第5回	木の建築構造 現在の木造建築の工法について 2×4、在来工法など	予習：講義要録や参考書を基に、2×4工法や在来工法について調べておくこと。復習：配付した講義要録冊子と図版資料を利用して復習すること。	4
第6回	剛接合構造 柱と梁の剛接合（ラーメン構造） 鉄骨造とRC造	予習：講義要録や参考書を基に、ラーメン構造（鉄骨造・RC造）について調べておくこと。復習：配付した講義要録冊子と図版資料を利用して復習すること。	4
第7回	前半のまとめと中間試験	予習：前半6回分の復習をし、中間試験に臨むこと。復習：試験後の解説を参考に前半6回分のまとめをおこなうこと。	4
第8回	剛接合構造 その他の構造	予習：講義要録や参考書を基に、鉄骨鉄筋コンクリート造について調べておくこと。復習：配付した講義要録冊子と図版資料を利用して復習すること。	4
第9回	現代木造住宅の各部構法 地業、基礎の構法	予習：講義要録や参考書を基に、地業と基礎について調べておくこと。復習：配付した講義要録冊子と図版資料を利用して復習すること。	4
第10回	現代木造住宅の各部構法 床組、軸組の構法	予習：講義要録や参考書を基に、床組と軸組について調べておくこと。復習：配付した講義要録冊子と図版資料を利用して復習すること。	4
第11回	現代木造住宅の各部構法 開口部、建具の構法	予習：講義要録や参考書を基に、開口部、建具について調べておくこと。復習：配付した講義要録冊子と図版資料を利用して復習すること。	4
第12回	現代木造住宅の各部構法 小屋組の構法	予習：講義要録や参考書を基に、小屋組について調べておくこと。復習：配付した講義要録冊子と図版資料を利用して復習すること。	4
第13回	現代木造住宅の各部構法 内部仕上げの構法（床、壁、天井、階段）	予習：講義要録や参考書を基に、インテリア内装について調べておくこと。復習：配付した講義要録冊子と図版資料を利用して復習すること。	4
第14回	現代木造住宅の各部構法 外部仕上げの構法（屋根、壁）	予習：講義要録や参考書を基に、エクステリア外装について調べておくこと。復習：配付した講義要録冊子と図版資料を利用して復習すること。	4
教科書・参考書等			
教科書 特に指定しない。適時、教員自作資料を配付する。 参考書 「木造建築の科学」高層建築研究会編 日刊工業新聞社 / 「図説 やさしい建築一般構造」今村仁実・田中美都 学芸出版社 / 「構造用教材」日本建築学会 / 「建築材料用教材」日本建築学会			
成績評価方法・基準			
前半6回分は中間試験、後半7回分はレポート試験を実施し、両者の成績により評価を行う。			

15	デザイン基礎演習 LS-E-105		必修 2単位 1年前期		
	Basic Practice of Shape and Modelling				
1年1組 教 授 中島 敏		1年2組 非常勤講師 川名 美宏 教 授 菊地 良覺 非常勤講師 庄子奈々絵			
授業の達成目標			授業形態		
<p>実線・鎖線／太・中・細線と文字を描き分け、立体造形と図面の関係を図面化できる。また生活環境要素の形態的特徴（寸法・質量・形状・素材・色彩）と物理的特徴を捉え、定性的・定量的に記録し、スケッチ面に表わすことができる。上記の基礎的技術を修得したうえで、課題・テーマに沿った造形的創作表現とものづくりの基本を学ぶことができる。</p>			<input type="checkbox"/>	単独 (1人が全回担当)	
			<input type="checkbox"/>	複数 (1回の授業を2人以上が一纏に担当)	
			<input type="checkbox"/>	オムニバス (各回の担当教員が異なる場合)	
			<input type="checkbox"/>	クラス分け (クラス分けで担当する)	
授業の概要			該当科目		
<p>ものや空間を理解し、図面（三角法）やイラスト（アイソメトリックやパースペクティブ）を正しく測定し表現することが出来ること、また自分で創造し作成したイラストや図面に基づき、立体的に形を表現することが出来るようになる。 授業では、実務経験のある外部講師を招き、より実践的な授業構成とする。</p>			<input type="checkbox"/>	教職科目（工業）	
			<input type="checkbox"/>	教職科目（商業）	
			<input type="checkbox"/>	地域志向科目	
実務経験を活かした教育について			<input type="checkbox"/>	実務経験のある教員担当	
<p>担当教員には、民間企業とデザイン事務所において長きに渡り実務経験に従事した実績と経験を活かして、授業において実務への対応力を養成する。</p>			<input type="checkbox"/>	アクティブラーニング	
授業計画（各回の学習内容等）					
	学習内容（授業方法）		学習課題（予習・復習）		時間(時)
第1回	デザイン技法序論		デザイン表現技法の予習と、制作に様々な技法がどう対応するかの調査と復習を行う。		4
第2回	絵画編 1 人の手のスケッチとその計測		手を測定する際の道具とその表現仕方を予習し、人の手の観察と計測について復習する。		4
第3回	絵画編 2 器のスケッチとその計測		測定する際の道具とその表現仕方を予習し、器の観察と計測について復習する。		4
第4回	造形編 1 製図線の表現		三角法の使用される製図線を予習し、正しい製図線の表現について復習する。		4
第5回	造形編 2 器の三面図作成（三角法）		三角法とはどのような作図方法かを予習し、器の製図について復習する。		4
第6回	造形編 3 器の立体図（アイソメトリック）		アイソメトリック手法とはどのような表現方法かを予習し、器の立体図について復習する。		4
第7回	応用造形工業編 1 自転車の観察と計測		測定する際の道具とその表現仕方を予習し、自転車の観察と計測について復習する。		4
第8回	応用造形工業編 2 自転車の立体図（アイソメトリック）		アイソメトリック手法とはどのような表現方法かを予習し、自転車の立体図について復習する。		4
第9回	応用造形工業編 3 自転車の三面図（三角法）		三角法とはどのような作図方法かを予習し、自転車の製図について復習する。		4
第10回	応用造形建築編 1 木造住宅の観察と計測（平面図と断面図）		木造住宅の平面図作成方法を予習し、住宅の平面図の製図について復習する。		4
第11回	応用造形建築編 2 木造住宅の平面図と断面図の作成		住宅の平面図作成方法を予習し、住宅の平面図の製図について復習する。		4
第12回	応用造形建築編 3 木造住宅の観察と計測（立面図）		木造住宅の立面図作成方法を予習し、住宅の立面図の製図について復習する。		4
第13回	応用造形建築編 4 木造住宅の立面図の作成		木造住宅の立面図作成方法を予習し、住宅の立面図の製図について復習する。		4
第14回	作品のまとめ		全体を振り返りポイントをまとめる。振り返った内容をもとに復習を行う。		4
教科書・参考書等					
<p>「建築製図」朝倉書店 プロダクト「デザインの基礎」ワークスコーポレーション</p>					
成績評価方法・基準					
提出作品の完成度での評価とする。					

16	身体生理と医科学 LS-B-301	選択 2単位 1年後期	
	Outline of Physiology and Medical Science		
1年全組 非常勤講師 古林 俊晃			
授業の達成目標		授業形態	
我々、人間が健康であるために、我々がどのような構造と機能を有しているのかを学びます。その上で、運動やスポーツとの健康の関係、またよりよく生きるための健康観を理解し、我々が人間らしく健康で明るく生きるための実践力に繋がる知識を習得します。		<input type="radio"/> 単独 (1人が全回担当) <input type="checkbox"/> 複数 (1回の授業を2人以上が一纏に担当) <input type="checkbox"/> オムニバス (各回の担当教員が異なる場合) <input type="checkbox"/> クラス分け (クラス分けで担当する)	
授業の概要		該当科目	
<p>本講義では、健康をテーマに、健康の価値観、健康に生きるための人体の構造と機能、健康であるための運動やスポーツの効果について概説します。この中には、昨今取り上げられる、身体的、精神的な健康問題をあげ、それをどのように考え、予防し、あるいは改善するのかという概念も含まれます。</p> <p>講義では、最初に前回の講義内容の確認テストを行います。また受け身の講義とならぬよう予習も重視します。予習や復習には、一步一步学ぶ生命科学の活用を勧めます (http://physiology1.org/)</p>		<input type="checkbox"/> 教職科目 (工業) <input type="checkbox"/> 教職科目 (商業) <input type="checkbox"/> 地域志向科目	
実務経験を活かした教育について		<input type="radio"/> 実務経験のある教員担当 <input type="checkbox"/> アクティブラーニング	
精神障がい者のためのデイケアでスポーツを担当していましたので、精神障がい者と運動の効果についても概説します。			
授業計画 (各回の学習内容等)			
	学習内容 (授業方法)	学習課題 (予習・復習)	時間(時)
第1回	ガイダンスと講義の進め方	高校基礎の生物と化学について事前学修をしておくこと。復習は配布資料で知識の整理に努める	4
第2回	運動に必要な人体の構造と機能 骨	予習：配布資料を確認し、「骨」に関して分からない用語を調べる 復習：学習内容の再確認。知識の整理に努める	4
第3回	運動に必要な人体の構造と機能 筋	予習：配布資料を確認し、「筋」に関して分からない用語を調べる 復習：学習内容の再確認。知識の整理に努める	4
第4回	運動に必要な人体の構造と機能 神経	予習：配布資料を確認し、「神経」に関して分からない用語を調べる 復習：学習内容の再確認。知識の整理に努める	4
第5回	運動に必要な人体の構造と機能 感覚	予習：配布資料を確認し、「感覚」に関して分からない用語を調べる 復習：学習内容の再確認。知識の整理に努める	4
第6回	運動に必要な人体の構造と機能 呼吸・循環器系	予習：配布資料を確認し、「呼吸・循環器」に関して分からない用語を調べる 復習：学習内容の再確認。知識の整理に努める	4
第7回	健康であるための人体の構造と機能 栄養素と代謝	予習：配布資料を確認し、「栄養素と代謝」に関して分からない用語を調べる 復習：学習内容の再確認。知識の整理に努める	4
第8回	健康であるための人体の構造と機能 生体防御システム	予習：配布資料を確認し、「生体防御システム」に関して分からない用語を調べる 復習：学習内容の再確認。知識の整理に努める	4
第9回	まとめと中間試験	予習：配布資料を確認し、分からない用語を調べる 復習：学習内容の再確認。知識の整理に努める	4
第10回	健康の概説 健康観・体力について	予習：配布資料を確認し、「健康観と体力」に関して分からない用語を調べる 復習：学習内容の再確認。知識の整理に努める	4
第11回	健康問題 よりよく生きるために	予習：配布資料を確認し、「健康問題」に関して分からない用語を調べる 復習：学習内容の再確認。知識の整理に努める	4
第12回	健康と運動 安全な運動と効用	予習：配布資料を確認し、「安全な運動と効用」に関して分からない用語を調べる 復習：学習内容の再確認。知識の整理に努める	4
第13回	スポーツを取り巻く環境	予習：配布資料を確認し、「運動とスポーツ」に関して分からない用語を調べる 復習：学習内容の再確認。知識の整理に努める	4
第14回	まとめと中間試験	予習：配布資料を確認し、分からない用語を調べる 復習：学習内容の再確認。知識の整理に努める	4
教科書・参考書等			
講義に必要な応じて紹介する			
成績評価方法・基準			
中間試験 (20%) と定期試験 (80%)			

17	生活と素材 LS-B-109	選択 2単位 1年後期	
	Products and Materials of Living Environment		
1年全組 教授 中島 敏 ほか			
授業の達成目標		授業形態	
生活の中で使われる様々な素材特性を知り「つかい方」と「つくり方」の両面からの知識を習得し、且つ、ものの上 来上がるまでのプロセスを知りものづくりの基本に触れ、デザインの理解度を高める。		<input type="checkbox"/> 単独 (1人が全回担当) <input type="checkbox"/> 複数 (1回の授業を2人以上が一纏に担当) <input checked="" type="checkbox"/> オムニバス (各回の担当教員が異なる場合) <input type="checkbox"/> クラス分け (クラス分けで担当する)	
授業の概要		該当科目	
仙台・宮城・東北地方を対象とした素材ごとに、物理的特性や感覚的特性をサンプル及び観察を通して知ってもらう。 またどのような生産プロセスで作られるかを知識と事例より習得し、デザイン知識の幅を広げる。さらにソーシャル デザインにおけるサステナブル（持続可能社会）の解説とその重要性にも触れる。 授業では、実務経験のある外部講師を招き、より実践的な授業構成とする。		<input type="checkbox"/> 教職科目（工業） <input type="checkbox"/> 教職科目（商業） <input type="checkbox"/> 地域志向科目 <input type="checkbox"/> 実務経験のある教員担当 <input type="checkbox"/> アクティブラーニング	
実務経験を活かした教育について			
担当教員は、空間デザイン設計の実務に従事した実績と経験を活かして、授業において企画・設計・デザイン等にかかわる実務への対応力を養 成する。・長年、伝統工芸に携わる外部講師を招き、技法を学ぶとともに、ものづくりの感性を伝える表現力を醸成する。生活用品の開発等、 多岐にわたる材料研究に従事した外部講師を招き、これからの使い手と作り手との在り様も含めた商品づくりを生産現場の中で、講義いただく。			
授業計画（各回の学習内容等）			
	学習内容（授業方法）	学習課題（予習・復習）	時間(時)
第1回	素材と歴史について（概要説明も含む）	技術や生活の変化に伴う、各種素材の歴史とその背景を予習、生活 の中でどのような素材が存在するかの復習をする。	2
第2回	金属材料とその特性について	金属材料特性の事前調査を行う予習、金属加工製品の素材の種類別 の特性を復習する。	2
第3回	金属材料とその加工方法について	金属材料の種類とその加工方法を予習、金属加工製品の素材の種類 とその加工方法について復習する。	2
第4回	金属材料とその表面処理方法について	木材の種類とその表面加工方法を予習、金属加工製品の素材と表面 仕上げ方法を復習する。	2
第5回	木材とその加工方法について	木材の素材による表面処理についての予習、木材の種類とその加工 方法を復習する。	2
第6回	木材加工製品の加工例とその解説	生活の中にある工業製品の素材とその生産方法を予習、木材加工製 品の事前調査とその素材と加工方法を復習する。	2
第7回	木材の表面処理方法について	木材加工製品の事前調査とその素材と加工方法を予習、木材の素材 による表面処理について復習する。	2
第8回	木材の表面処理事例とその解説	木材加工製品の事前調査とその素材と加工方法を予習、木材の素材 による表面処理について復習する。	2
第9回	工業製品の素材とその生産技術	プラスチック製品の事前調査とその素材と加工方法を予習、生活 の中にある工業製品の素材とその生産方法を復習する	2
第10回	プラスチック商品の加工例とその解説	再生可能素材の概念とその材料について予習、プラスチック製品 の事前調査とその素材と加工方法を復習する。	2
第11回	再生可能素材の概念とその材料について	消費社会と持続可能社会の概念とその実態について予習、再生可能 素材の概念とその材料について復習する。	2
第12回	消費社会と持続可能社会の概念とその実態	各種素材の加工方法の予習、消費社会と持続可能社会の概念とその 実態について復習する。	2
第13回	素材サンプル収集とその加工方法について	各種素材の加工方法の予習、各種素材の加工方法（素材サンプルに ついて）の復習をする。	2
第14回	ものづくりの工程についての解説とその事例（まとめ）	ものづくりの工程を予習、製品ごとの生産工程方法を復習する。	2
教科書・参考書等			
参考書 「ソーシャルデザインの教科書」村田智明 生産性出版 「工業デザインのための材料知識」岩井正二・青木弘行 日刊工業新聞社			
成績評価方法・基準			
課題レポート、まとめの試験を総合的に評価する。			

18	住まいの造形意匠 LS-C-109	選択 2単位 1年後期	
	Residential Architectural Design 1年全組 教授 大沼 正寛		
授業の達成目標		授業形態	
国内外における住まいの造形意匠の多様な事例を知り、関心を深め、説明することができる。住まいの空間・場と構成部位における造形的特徴、全体と部分の関係について、その意味・目的を理解し、説明することができる。		<input type="radio"/> 単独 (1人が全回担当) <input type="radio"/> 複数 (1回の授業を2人以上が一纏に担当) <input type="radio"/> オムニバス (各回の担当教員が異なる場合) <input type="radio"/> クラス分け (クラス分けで担当する)	
授業の概要		該当科目	
生活者や地域社会の視点にたつて空間構成やプランニングを学ぶ「住まいの計画（1年前期）」に続いて、生活を包み込むハードウェアとしての住宅建築の空間および造形意匠に関する基礎知識を概説する。住まいを観察し、その断面を理解し、部位・部材やデザインの特徴を多角的に論じる。さらに、住まいの概念を地域へと拡張し、戸外の環境、仙台・宮城・東北の特徴にも考察を広げる。このため、住宅デザイン通史、作品研究、住まいの断面および造形意匠論と全4編で構成し、住まいを観察する広がりや深みを涵養したい。		<input type="radio"/> 教職科目（工業） <input type="radio"/> 教職科目（商業） <input type="radio"/> 地域志向科目 <input type="radio"/> 実務経験のある教員担当 <input type="radio"/> アクティブラーニング	
実務経験を活かした教育について			
当科目は、一級建築士として建築設計実務や文化財等の保存業務に携わった教員が担当する。すなわち、文化・デザイン史から構成材料まで、住まいの造形意匠に関わる実際的な知見・技術を含めながら、事例的に解説する。			
授業計画（各回の学習内容等）			
	学習内容（授業方法）	学習課題（予習・復習）	時間(時)
第1回	第1編 住宅デザイン通史(1) 住まいの地理と歴史	古今東西の住まいに関心をよせ、通史概略と多様性を知る。(予習：住まいの計画を復習する／復習：講義の紹介事例を検索する)	4
第2回	第1編 住宅デザイン通史(2) 近代建築の力	近代建築の動きを概括する。(予習：教科書の近代建築史を通読しておく／復習：講義の紹介事例・人物を検索し関心を広げる)	4
第3回	第1編 住宅デザイン通史(3) 日本の住まいと建築	日本の住まいの特徴を概括する。(予習：教科書の近代建築史を通読しておく／復習：講義の紹介事例・人物を検索し関心を広げる)	4
第4回	第1編 住宅デザイン通史(4) 東北の住まいと建築	東北の住まいの特徴を概括する。(予習：身の回りの建築に関心をよせる／復習：第1編の内容を小括して再考する)	4
第5回	第2編 住宅の作品研究(1) 住空間の探求者たち	住宅研究者の歩みを概括する。(予習：前週に紹介した参考書を通読しておく／復習：講義の紹介事例をもとに関心を広げる)	4
第6回	第2編 住宅の作品研究(2) 空間の美を求めて	主要な近代の建築家の住宅作品群を概括する。(予習：教科書を通読しておく／復習：講義の紹介事例をもとに関心を広げる)	4
第7回	第2編 住宅の作品研究(3) 現代建築の潮流	主要な現代の建築家の住宅作品群を概括する。(予習：教科書を通読しておく／復習：講義の紹介事例をもとに関心を広げる)	4
第8回	第2編 住宅の作品研究(4) 仙台の住宅・町並みを観る	仙台に残る住宅や町並みを見学する。(予習：仙台の地理を把握しておく／復習：見学を含む第2編の内容を小括して再考する)	4
第9回	第3編 住まいの断面(1) 地域の住まいと屋根	地域に建つ住宅の断面の特徴を学ぶ。(予習：地域住宅を観察し記録しておく／復習：講義の紹介事例をもとに関心を広げる)	4
第10回	第3編 住まいの断面(2) 都市住宅とファサード	都市住宅の断面・立面の特徴を学ぶ。(予習：都市住宅を観察し記録しておく／復習：講義の紹介事例をもとに関心を広げる)	4
第11回	第3編 住まいの断面(3) 室内と窓、庭と構え	インテリアとエクステリアをつなぐ開口部を考える。(予習：住まいの窓を観察する／復習：第3編の内容を小括して再考する)	4
第12回	第4編 造形意匠を探る(1) 意味のある場所	床の間など住まいの特徴的な場を考える(予習：自宅や実家の大切な場所を振り返っておく／復習：自分の着眼点を再考する)	4
第13回	第4編 造形意匠を探る(2) 集まって住む	集落から集合住宅まで集住デザインの多様を考える(予習：集住とは何かを考察しておく／復習：共用空間について再考する)	4
第14回	第4編 造形意匠を探る(3) 配置と造形意匠の地域性	地域に根ざし、地域をつくる住まいのデザインを考える(予習：地域性とは何かを考える／復習：第4編の内容を小括して再考する)	4
教科書・参考書等			
西田雅嗣, 矢ヶ崎善太郎「カラー版 図説 建築の歴史: 西洋・日本・近代」学芸出版社			
成績評価方法・基準			
講義のなかで行うレポート等の素点と期末考査ワークの得点をもとに、総合的に評価する。			

19	住まいの力学基礎 LS-C-112	選択 1単位 1年後期(集中講義)	
	Basic Mechanics of Building Structure		
1年全組 非常勤講師 益野 英昌			
授業の達成目標		授業形態	
<p>住まいの安全を保つために必要な工学的知識技術の素養として、建築物に働く様々な外力・荷重と、これに対する反力・応力およびひずみ・変位といった力学的挙動を理解するために必要な力学の基礎的内容を修得する。その上で、住まいを含む建築の主要な構造モデルおよび構成部材に加わる外力・荷重と反力、内部に生じる応力の原則を理解し、梁の反力や応力に代表される構造力学問題の基礎を解くことができる。</p>		<input type="radio"/> 単独 (1人が全回担当) <input type="radio"/> 複数 (1回の授業を2人以上が一纏めに担当) <input type="radio"/> オムニバス (各回の担当教員が異なる場合) <input type="radio"/> クラス分け (クラス分けで担当する)	
授業の概要		該当科目	
<p>まず、基礎物理における力学の内容をふまえながら、力の合成・分解やつり合い、示力図、連力図、偶力、力のモーメントなどを理解する。次いで、建物の主要部材に働く外力・荷重と、力の釣合い、支点と支点反力、片持ち梁や単純梁の応力といった基本問題を解きながら理解する。授業においては、内容についての講義とともに、演習を積み重ね、理解度をチェックしながら進める。</p>		<input type="checkbox"/> 教職科目(工業) <input type="checkbox"/> 教職科目(商業) <input type="checkbox"/> 地域志向科目	
実務経験を活かした教育について		<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員担当 <input type="checkbox"/> アクティブラーニング	
授業計画(各回の学習内容等)			
	学習内容(授業方法)	学習課題(予習・復習)	時間(時)
第1回	建築物に働く力	建築物にさまざまな影響を与える荷重と外力に関する基本的な内容を理解させる。(予習:建築物に働く力について調べておく/復習:授業で行った演習内容を反復的に復習する)	1
第2回	力学的に見た建築物	実際の構造物を構造設計するうえで必要な力学上の仮定や設定について理解させる。(予習:身近にある建築物の力の流れが力学的にどのような特徴があるか直感的に判断・表現してみる。/復習:授業で行った演習内容を反復的に復習する)	1
第3回	力の基本 ・力の合成と分解 ・力の釣合い	力に関する基本的な内容を理解させる。(予習:力の流れが力学的にどのような状態にあるか直感的に判断・表現してみる/復習:授業で行った演習内容を反復的に復習する)	1
第4回	力の基本 ・力のモーメント	建築物に働く力と力のモーメントについて、その基本を学ぶ。(予習:「試してみよう」の演習や演習実験を通して力のモーメントについて事前に考察しておく/復習:授業で行った演習内容を反復的に復習する)	1
第5回	構造物と荷重および外力 ・支点と節点	実際の構造物の支点および節点を観察させ、力学上の特徴を学ぶ。(予習:実際の構造物と仮定の違いを考察しておく/復習:授業で行った演習内容を反復的に復習する)	1
第6回	構造物と荷重および外力 ・荷重および外力	建築物に働く外力・荷重や、これに対応して生じる力について、その基本を学ぶ。(予習:建築物に働く力について、教科書を予習しておく/復習:授業で行った演習内容を反復的に復習する)	1
第7回	反力	反力は、外力と支点の生じる力の釣合条件から求められることを理解させ、その求め方を習得する。(予習:単純梁と片持ち梁の簡単な模型を利用するなど、演習実験により支点と反力の関係を直感的に理解しておく/復習:授業で行った演習内容を反復的に復習する)	1
第8回	反力の求め方	同上(予習:授業で行った演習内容を反復的に予習しておく/復習:授業で行った演習内容を反復的に復習する)	1
第9回	安定・静定 ・構造物の安定・不安定	構造物に外力が作用しても構造物が形を崩したり移動してはならないことを理解し、構造物が安定であるための条件を考察する。(予習:構造物の安定・不安定について、教科書を予習しておく/復習:授業で行った演習内容を反復的に復習する)	1
第10回	安定・静定 ・構造物の静定・不静定	安定構造物には、静定・不静定があることを理解し、その見分け方を習得する。(予習:構造物の静定・不静定について、教科書を予習しておく/復習:授業で行った演習内容を反復的に復習する)	1
第11回	静定梁 ・単純梁(集中荷重)	静定梁の解き方を理解させ、軸方向力図・せん断力図および曲げモーメント図の求め方および表し方を習得。(予習:静定梁を解くことについて、教科書を予習しておく/復習:授業で行った演習内容を反復的に復習する)	1
第12回	静定梁 ・単純梁(等分布荷重)	同上(予習:授業で行った演習内容を反復的に予習しておく/復習:授業で行った演習内容を反復的に復習する)	1
第13回	静定梁 ・片持ち梁(集中荷重)	同上(予習:授業で行った演習内容を反復的に予習しておく/復習:授業で行った演習内容を反復的に復習する)	1
第14回	静定梁 ・片持ち梁(等分布荷重)	前13回までの講義内容を総括しつつ、後期「住まいの構造力学」に備え、構造モデルの基本について学ぶ。(予習:前13回までの講義内容を復習しておく/復習:演習問題を中心に、講義の全容をふりかえる)	1
教科書・参考書等			
<p>教科書:和田章ほか「First Stage シリーズ 建築構造設計概論」実教出版 このほか適時、教員自作資料を配付する。また、関数電卓を用意すること。</p>			
成績評価方法・基準			
<p>期末試験もしくはこれに相当する総合演習と、随時実施する演習により、総合的に評価する。</p>			

20	設計基礎演習 LS-E-213	選択 2単位 1年後期	
	Basic Practice of Architectural Design		
1年1組 非常勤講師 渡邊 武海 1年2組 非常勤講師 庄子奈々絵			
授業の達成目標		授業形態	
国内外の住宅設計作品に関心をもち、住空間の成立ち、構成要素を理解できる。 住宅の製図表記法を理解・習得し、正確に図解することができる。 魅力的な住空間を構想し、その特徴を捉えた立体模型を作成し、表現・伝達することができる。		<input type="checkbox"/> 単独 (1人が全回担当) <input type="checkbox"/> 複数 (1回の授業を2人以上が一纏に担当) <input type="checkbox"/> オムニバス (各回の担当教員が異なる場合) <input checked="" type="checkbox"/> クラス分け (クラス分けで担当する)	
授業の概要		該当科目	
第1部では、住宅建築の設計製図の基礎技法を習得する。第2部では、住空間の自由設計に挑戦し、創意工夫を各自行う。第3部では、模型製作・パネル制作と講評会での口頭発表を通し、表現技法を高める。		<input type="checkbox"/> 教職科目 (工業) <input type="checkbox"/> 教職科目 (商業) <input type="checkbox"/> 地域志向科目	
実務経験を活かした教育について		<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員担当 <input type="checkbox"/> アクティブラーニング	
授業では、建築士・デザイナーら、実務経験のある非常勤講師により、実践的な授業構成とする。			
授業計画 (各回の学習内容等)			
	学習内容 (授業方法)	学習課題 (予習・復習)	時間(時)
第1回	第1部 建築製図 (1) 住宅図面の読図・記号と線の練習	住宅設計製図の導入 (予習: 国内の住宅の名作を参考書から予習する/復習: 図面の表記方法、線の表現、建具の表現について復習する)	2
第2回	第1部 建築製図 (2) 住宅の平面図 (1)	住宅設計製図における平面図の表記法 (予習: 平面図の表記法について教科書を読んでおく/復習: 平面図のトレースを自習で進める)	2
第3回	第1部 建築製図 (3) 住宅の平面図 (2)	住宅設計製図における平面図の表記法 (予習: 平面図の表記法について教科書を読んでおく/復習: 平面図のトレースを自習で進める)	2
第4回	第1部 建築製図 (4) 住宅の断面図、立面図 (1)	住宅設計製図における断面図・立面図の表記法 (予習: 断面図・立面図について教科書を読んでおく/復習: トレースを自習で進める)	2
第5回	第1部 建築製図 (5) 住宅の断面図、立面図 (2)	住宅設計製図における断面図・立面図の表記法 (予習: 断面図・立面図について教科書を読んでおく/復習: トレースを自習で進める)	2
第6回	第2部 空間設計 (1) 三間立法空間のプランニング (1)	住空間の設計手法の基礎 (予習: 線の表記法の復習を兼ねつつコンセプトを考える/指導内容をもとにプランニングを進めていく)	2
第7回	第2部 空間設計 (2) 三間立法空間のプランニング (2)	住空間の設計手法の基礎 (予習: プランニングの経過をエスキースのために記しておく/プランをもとに製図に着手し課題を抽出する)	2
第8回	第2部 空間設計 (3) 三間立法空間の平面設計・製図 (1)	住空間の設計手法の基礎 (予習: 平面図の表記法の復習をしておく/設計内容の整合性をとりながら平面図の製図を自習で進めておく)	2
第9回	第2部 空間設計 (3) 三間立法空間の平面設計・製図 (2)	住空間の設計手法の基礎 (予習: 平面図の製図を自習で進めておく/断面設計との整合性を検討しながら、断面・立面計画を進める)	2
第10回	第2部 空間設計 (4) 三間立法空間の断面立面設計・製図 (3)	住空間の設計手法の基礎 (予習: 断面・立面の表記法の復習をしておく/復習: 平面・断面・立面の各図面の整合性をとり仕上げていく)	2
第11回	第2部 空間設計 (5) 三間立法空間の製図仕上	住空間の設計表現手法の習得 (予習: コンセプトを表現した空間を製図するための準備を行う/復習: 模型製作の準備をすすめておく)	2
第12回	第3部 表現技法 (1) 三間立法空間の模型製作 1	住空間の設計表現手法の習得 (予習: コンセプトを表現できる模型素材を検討する/復習: 選んだ素材の下加工をはじめておく)	2
第13回	第3部 表現技法 (2) 三間立法空間の模型製作 2	住空間の設計表現手法の習得 (予習: 設計図をもとに模型作成の準備をしておく/復習: 躯体部分の模型製作を終え、内部に着手する)	2
第14回	第3部 表現技法 (3) 三間立法空間の模型製作 3・講評会	住空間の設計表現手法の習得 (予習: 空間表現を豊かにするための要点を明確にしておく/復習: 魅力を引き出す仕上げ表現を行う)	2
教科書・参考書等			
松本正富, 政木哲也, 半海宏一, 鯉坂誠之「建築デザイン製図」学芸出版社、2018 大脇賢次「イラストでわかる建築模型のつくり方」彰国社、2007 中山繁信「スケッチ感覚でパースが描ける本」彰国社、2012			
成績評価方法・基準			
3課題の提出作品の出来映えから総合的に評価する。			

21	健康と生活支援 LS-A-107	必修 2単位 2年前期	
	Human Health Care and Life Support 2年全組 准教授 伊藤美由紀		
授業の達成目標		授業形態	
健康な方、疾患や障害をかかえる方に対して、心と身体の健康を維持するため、健康を取り戻すための安全で安心な生活を提供できるように、看護や介護について理解を深め、考えることができる。		<input type="radio"/> 単独 (1人が全回担当) <input type="radio"/> 複数 (1回の授業を2人以上が一纏に担当) <input type="radio"/> オムニバス (各回の担当教員が異なる場合) <input type="radio"/> クラス分け (クラス分けで担当する)	
授業の概要		該当科目	
現代は、高齢者や病気を抱えた人の看護や介護に携わる人間や施設、システム、住環境などが著しく変化している。これからは、専門の医療・福祉施設に任せるだけではなく、職場や家庭・地域でも、看護や介護についての基礎的な知識を持った人が、それぞれの立場で適切に対応することが求められる。この講義では、それらの考え方や技術をグループワークや実習を通してわかりやすく実践的に学ぶ。		<input type="checkbox"/> 教職科目 (工業) <input type="checkbox"/> 教職科目 (商業) <input type="checkbox"/> 地域志向科目	
実務経験を活かした教育について		<input type="radio"/> 実務経験のある教員担当 <input type="radio"/> アクティブラーニング	
総合病院で看護師の実務経験のある教員が、様々な疾病や障害のある個人や家族を支援した経験を活かし、健康寿命を延ばすための支援方法を建築や生活員のデザインにつなげられるよう教授する。			
授業計画 (各回の学習内容等)			
	学習内容 (授業方法)	学習課題 (予習・復習)	時間(時)
第1回	看護とデザインとは	看護とは、個人や家族・地域社会が健康で、できる限り質の高い生活ができるための支援的活動であることを学び、デザインと関連付ける。少子高齢社会について予習する。復習として、配付資料を再読すること。	4
第2回	健康と看護：病気や障害とは!?	高齢化社会の現状と課題を知り、健康や病気について関心を持ち社会問題に関連付ける。健康問題について予習する。復習として、配付資料を再読すること。	4
第3回	食への援助	消化器の機能と障害について学び、食に関する健康問題に関心を持ち社会問題に関連付ける。食生活や消化器について予習する。復習として、配付資料を再読すること。	4
第4回	動作や移動への援助	運動器の機能と障害について学び、身体の動きや運動に関心を持ち社会問題に関連付ける。運動器について予習する。復習として、配付資料を再読すること。	4
第5回	高齢者の健康と支援 (1)：加齢に伴う変化とは!?	高齢化社会と個々の心身の変化について関心を持ち、加齢による心身の変化を知る。高齢者問題について予習する。復習として、配付資料を再読すること。	4
第6回	高齢者の健康と支援 (2)：加齢に伴う変化と看護	加齢による心身の変化と日常生活の変化、それに対する支援方法を考える。高齢者問題について予習する。復習として、配付資料を再読すること。	4
第7回	高齢者の健康と支援 (3)：高齢者体験実習ガイダンス	加齢による心身の変化と日常生活に対する実習をイメージし、具体的な計画を立案する。高齢者問題について予習する。復習として、配付資料を再読すること。	4
第8回	高齢者の健康と支援 (4)：高齢者体験実習	実習計画内容と加齢による心身の変化を対応させて考え、実際に行った実習内容での理解をまとめる。高齢者問題について予習する。復習として、配付資料を再読すること。	4
第9回	成人の健康と支援 (1)：がんとは!?	がんについて関心を持ち、がんを抱える患者や社会について学ぶ。悪性新生物 (がん) について予習する。復習として、配付資料を再読すること。	4
第10回	成人の健康と支援 (2)：がん患者への支援	がんを抱える患者やその家族への支援方法について考える悪性新生物 (がん) について予習する。復習として、配付資料を再読すること。	4
第11回	成人の健康と支援 (3)：生活習慣病と看護	生活習慣病について関心を持ち、生活習慣病を抱える患者や社会について学び、支援方法を考える。生活習慣病について予習する。復習として、配付資料を再読すること。	4
第12回	こどもの健康と支援 (1)：こどもの発達	こどもの発達や生活や行為に関心を持ち、実際の行動と発達課題を当てはめて考える。少子化について予習する。復習として、配付資料を再読すること。	4
第13回	こどもの健康と支援 (2)：発達課題と支援	こどもの発達や生活、実際の行動と発達課題から支援方法を考える。子どもの発達について予習する。復習として、配付資料を再読すること。	4
第14回	ヒューマンエラーとリスクマネジメント	日常生活の中での事故を具体的に考え、事故を分析することを学ぶ。事故事例について予習する。復習として、配付資料を再読すること。	4
教科書・参考書等			
自作資料。参考書はその都度紹介する。			
成績評価方法・基準			
授業レポートや体験実習実施前中後レポートを用いて総合的に評価する。			

22	地域防災論 LS-A-110	必修 2単位 2年前期	
	Studies of Local Disaster Mitigation 2年全組 准教授 畠山 雄豪		
授業の達成目標		授業形態	
都市や農山漁村など地域の防災について学び、その知識をわが身の安全・安心や地域社会に活かせるようにすることをめざす。		<input type="radio"/> 単独 (1人が全回担当) <input type="radio"/> 複数 (1回の授業を2人以上が一纏に担当) <input type="radio"/> オムニバス (各回の担当教員が異なる場合) <input type="radio"/> クラス分け (クラス分けで担当する)	
授業の概要		該当科目	
災害発生の原因、拡大の背景、応急対応のしくみなど災害発生から対応までについて東日本大震災における仙台など東北の事例、阪神・淡路大震災、新潟県中越地震など主に過去の地震災害事例から解説する。またグループディスカッションなどを通して災害について自ら考えられるようにする。これらを通して災害の地域構造について理解を深めていく。		<input type="radio"/> 教職科目 (工業) <input type="radio"/> 教職科目 (商業) <input type="radio"/> 地域志向科目 <input type="radio"/> 実務経験のある教員担当 <input type="radio"/> アクティブラーニング	
実務経験を活かした教育について			
担当教員は、これまで自治体において防災面を含めた地域社会の課題活動の調査研究に従事していた経験があり、その実績と経験を授業に還元して対応力の養成を図る。			
授業計画 (各回の学習内容等)			
	学習内容 (授業方法)	学習課題 (予習・復習)	時間(時)
第1回	災害とは (ガイダンス)	災害とはどのような条件、要素で発生するかについて考える。(予習:各自で考えてくこと/復習:授業の内容をふまえて東日本大震災なども当てはまるか確認する)	4
第2回	災害の種類	地震、水害、土砂災害、雪害などの特徴について (予習:ハザードの違いについて調べておく/復習:宮城県など東北地方で過去に発生した災害について確認しておく)	4
第3回	災害発生と対応の流れ	災害発生に関する一連の対応について学ぶ (予習:自分の身の回りどどんな対応が必要か考えておくこと/復習:講義で作成したノートを見直し、災害発生から次の災害への備えまでの流れを確認しておくこと)	4
第4回	災害対応力	自助、共助、公助などの備え、助け合い・支え合いについて (予習:過去の災害における自助、共助、公助の事例を調べておく/復習:自分自身で行える自助の事例を考え、講義ノートに書き加える)	4
第5回	大規模災害の特徴	東日本大震災などどのような被害や問題が生じたか (予習:東日本大震災で受講学生自身が体験した被災状況等を整理、箇条書きしておく/復習:板書等を筆写した講義ノートを読み返し、自身の体験以外の被災形態や問題について理解する)	4
第6回	都市災害の特徴	都市災害について阪神・淡路大震災や東日本大震災における仙台市の事例などから学ぶ (予習:「帰宅困難者」とはどのような意味か調べておく/復習:大学から自宅まで徒歩による経路や距離、休憩場所等を地図で確認する)	4
第7回	農山漁村における災害の特徴	中山間地域など非都市部における災害の特徴について (予習:新潟県中越地震、岩手・宮城内陸地震の被害特徴について調べる/復習:都市災害と比較したときの共通点と相違点を整理しておくこと)	4
第8回	災害対応 (災害対策本部の役割)	地域における初動対応の拠点となる災害対策本部について (予習:災害対策本部とは何を行う場所、機能なのか調べておく/復習:住んでいる地域の地域防災計画から災害対策本部がどのように記述、位置づけられているか確認する)	4
第9回	災害対応 (医療など)	情報収集や発信、救急・救命医療など災害発生直後に重要な対応について (予習:トリアージの意味について調べておく/復習:消防や救急の広域ネットワーク、相互応援などについて自分の住んでいる地域ではどのようなか調べておく)	4
第10回	災害対応 (避難所について)	避難所の開設と運営について (予習:自宅の周辺ではどこが指定避難所になっているか調べる/復習:避難所の開設から運営についての流れを復習しておくこと)	4
第11回	災害弱者について	災害弱者への配慮、対応について (予習:災害弱者とはどのような人を対象としているのか調べておく/復習:作成したノートなどから福祉避難所とはいつ頃から登場し、どのような特徴や課題があるか説明できるようにしておく)	4
第12回	災害ボランティアについて	災害ボランティアの活動内容や環境整備、留意点など (予習:各自が経験した災害ボランティアの内容をまとめておく/復習:ボランティアコーディネーターの役割について説明できるようにする)	4
第13回	仮住まい (応急仮設住宅) について	住宅を失った被災者が住宅再建が行われるまでの生活について理解する (予習:みなし仮設住宅とはどのようなものか調べておく/復習:仮住まいで留意すべき点についてまとめる)	4
第14回	災害への備え	これまでの講義を振り返る (予習:自分自身で行う災害への備えなどについてまとめておくこと/復習:地域全体を通して備えておく必要性について作成したノートなどから理解の定着に努めること)	4
教科書・参考書等			
『被災地デイズ』(弘文堂)			
成績評価方法・基準			
学期末の筆記試験、レポート、各回の予復習(ノートの整理等)を総合的に評価する。			

23	デザイン史 LS-B-204	選択 2単位 2年前期	
	History of Design 2年全組 教授 梅田 弘樹		
授業の達成目標		授業形態	
デザインを行う上で最低限必要な教養としてのデザインの歴史を学ぶ。すなわち歴史の延長である今現在においてデザインを行う際の指針となるような知識を各時代のデザイン思想とその成果の中から見出し学び取る。		<input type="radio"/> 単独 (1人が全回担当) <input type="radio"/> 複数 (1回の授業を2人以上が一纏に担当) <input type="radio"/> オムニバス (各回の担当教員が異なる場合) <input type="radio"/> クラス分け (クラス分けで担当する)	
授業の概要		該当科目	
19世紀から現在に至るデザイン史の流れを人物とムーブメントを軸に、概ね時系列順に紹介する。題材はヨーロッパのプロダクトデザインを中心に、時にアメリカや日本の、また空間デザインやグラフィックデザインまでを含む。各時代のデザインムーブメントを当時の社会背景と対比することと、それぞれの様式が今日のデザインに影響を与えている例を確認することで、現代あるいはこれからの社会に対して行うデザインに活用できる生きた知識としての歴史の習得を目指す。		<input type="checkbox"/> 教職科目 (工業) <input type="checkbox"/> 教職科目 (商業) <input type="checkbox"/> 地域志向科目	
実務経験を活かした教育について		<input type="radio"/> 実務経験のある教員担当 <input type="radio"/> アクティブラーニング	
授業計画 (各回の学習内容等)			
	学習内容 (授業方法)	学習課題 (予習・復習)	時間(時)
第1回	ガイダンス：デザイン史を学ぶ意義	予習：身の回りのものとデザインとの関連について考える。 復習：配付資料などを確認してレポートを書く。	4
第2回	予備知識：ヨーロッパの地理・歴史・文化の概観	予習：ヨーロッパの地図を見て主要な国の場所を確認しておく。 復習：配付資料などを確認してレポートを書く。	4
第3回	アーツ・アンド・クラフツ運動	予習：アーツ・アンド・クラフツ運動に関連するキーワードについて調べる。 復習：配付資料などを確認してレポートを書く。	4
第4回	アール・ヌーヴォー	予習：アール・ヌーヴォーに関連するキーワードについて調べる。 復習：配付資料などを確認してレポートを書く。	4
第5回	バウハウス	予習：バウハウスに関連するキーワードについて調べる。 復習：配付資料などを確認してレポートを書く。	4
第6回	アール・デコ・ロシア構成主義	予習：アール・デコ、ロシア構成主義に関連するキーワードについて調べる。 復習：配付資料などを確認してレポートを書く。	4
第7回	モダニズム・合理主義	予習：モダニズム・合理主義に関連するキーワードについて調べる。 復習：配付資料などを確認してレポートを書く。	4
第8回	アメリカ：コマーシャルリズムとデザイン	予習：アメリカのデザインに関連するキーワードについて調べる。 復習：配付資料などを確認してレポートを書く。	4
第9回	日本：工芸と大企業のデザイン	予習：日本の工芸とデザインに関連するキーワードについて調べる。 復習：配付資料などを確認してレポートを書く。	4
第10回	20世紀後半のデザイン	予習：20世紀後半のデザインに関連するキーワードについて調べる。 復習：配付資料などを確認してレポートを書く。	4
第11回	ポストモダンとそれ以降	予習：ポストモダンに関連するキーワードについて調べる。 復習：配付資料などを確認してレポートを書く。	4
第12回	北欧のデザイン	予習：北欧のデザインに関連するキーワードについて調べる。 復習：配付資料などを確認してレポートを書く。	4
第13回	現在とこれから	予習：現在のデザインに関連するキーワードについて調べる。 復習：配付資料などを確認してレポートを書く。	4
第14回	まとめと試験	予習：試験に備え、これまでの授業内容をまとめる。 復習：試験問題でわからなかったところを調べる。	4
教科書・参考書等			
参考書 世界デザイン史カラー版 阿部公正ほか著 美術出版社 デザイン史を学ぶクリティカル・ワーズ橋本優子ほか編 フィルムアート社			
成績評価方法・基準			
毎回の講義後に課されるレポートの内容と、期末試験の点数を総合的に評価する。			

24	インテリアデザイン LS-C-206	選択 2単位 2年前期	
	Interior Design		
2年全組 教授 武山 倫			
授業の達成目標		授業形態	
インテリアデザインは、空間を室内側からとらえ、生活する人間の側に立って思考し造形する行為である。このため、人間の心理や行動といったソフト面から、人間的スケールでとらえた規模・形態・素材などのハード面まで、広範な知識を総動員する必要がある。当科目では、これを体系的に学び、基礎知識を身につけるとともに、室内空間計画の基礎的な技術を修得することをめざす。		<input type="radio"/> 単独 (1人が全回担当) <input type="radio"/> 複数 (1回の授業を2人以上が一纏に担当) <input type="radio"/> オムニバス (各回の担当教員が異なる場合) <input type="radio"/> クラス分け (クラス分けで担当する)	
授業の概要		該当科目	
以下の5編で構成する。 1) 歴史編：インテリアデザインの発生から近現代の日本／西洋の住まい・インテリアまで、その変遷過程を概説する。2) デザイン原論編：美しく快適な環境をデザインするための造形原論の要点を概説する。3) 人間工学編：住まいやインテリアの各種要素の規模形態を導出する人間工学と人体寸法、および安全性や空間の心理、形・色・テクスチャーについて解説する。4) エレメント編：家具、テキスタイル、照明、材料と仕上について解説する。5) 材料構法編：インテリアの材料と構法について解説する。		<input type="radio"/> 教職科目 (工業) <input type="radio"/> 教職科目 (商業) <input type="radio"/> 地域志向科目	
実務経験を活かした教育について		<input type="radio"/> 実務経験のある教員担当	
当科目は、一級建築士、インテリアデザイナーとして、実務に携わった教員が担当する。すなわち、文化・デザイン史から構成材料まで、インテリアデザインに関わる実際的な知見・技術を含めながら、事例的に解説する。		<input type="radio"/> アクティブラーニング	
授業計画 (各回の学習内容等)			
	学習内容 (授業方法)	学習課題 (予習・復習)	時間(時)
第1回	インテリアデザインとは何か：歴史編 (1)	インテリアデザインの基本事項と講義予定について概説する。(予習：指定教科書を見ておく／復習：講義をもとに自宅のインテリアを確認する)	4
第2回	日本の住まいとインテリア・家具の変遷：歴史編 (2)	日本の住まいとインテリア・家具の変遷について概説する。(予習：指定教科書を見ておく／復習：講義をもとに自宅の和室空間を確認する)	4
第3回	西洋の住まいとインテリア・家具の変遷：歴史編 (3)	西洋の住まいとインテリア・家具の変遷について概説する。(予習：指定教科書を見ておく／復習：講義をもとに自宅の洋室空間を確認する)	4
第4回	デザインの流れと日本の現代家具	スκανジナビア・アメリカ・イタリア・西ドイツ・ポストモダンの流れと署名デザイナーの作品を知る (予習：指定教科書を見ておく／復習：講義をもとに参考図書に掲載された作品群を鑑賞・評価する)	4
第5回	人間工学と人体寸法	設計に必要な人間工学と人体寸法について学ぶ。(予習：指定教科書を見ておく／復習：講義をもとに参考図書に掲載された作品群を鑑賞・評価する)	4
第6回	家具・設備への人間工学の応用	椅子・ベッド・室内の高さ寸法について学ぶ。(予習：指定教科書を見ておく／復習：講義をもとに参考図書に掲載された作品群を鑑賞・評価する)	4
第7回	インテリアの安全性	人間工学と人体および生理について概説する。(予習：指定教科書を見ておく／復習：講義をもとに自宅の家具や設備と人体寸法を確認する)	4
第8回	形・色・テクスチャーの心理	デザインの三要素を知り、見え方の心理と色彩の効果について考察する。(予習：指定教科書を見ておく／復習：講義をもとに自宅の人間の尺度と空間の心理について再考する)	4
第9回	人間的尺度と空間の心理	モデュロールと木割りを学び行動動作特性と退陣距離などの心理について考察する。(予習：指定教科書を見ておく／復習：講義をもとに自宅の形・色・テクスチャーと心理について再考する)	4
第10回	家具デザイン：インテリアエレメント (1)	家具デザインについて名作といわれる作品を知る (予習：指定教科書を見ておく／復習：講義をもとに汎用されている家具や設備について再考する)	4
第11回	家具とテキスタイル：インテリアエレメント (2)	インテリアデザインの要素 (エレメント) として、家具とテキスタイルのデザインの基礎を学ぶ。(予習：指定教科書を見ておく／復習：講義をもとに自宅の家具やテキスタイルのデザインを観察・考察する)	4
第12回	照明とサイン：インテリアエレメント (3)	インテリアデザインの要素 (エレメント) として、照明とサインのデザインの基礎を学ぶ。(予習：指定教科書を見ておく／復習：講義をもとに自宅の照明や市街地のサインのデザインを観察・考察する)	4
第13回	グリーン・アート：インテリアエレメント (4)	インテリアデザインにおける材料と仕上の基礎を学ぶ。(予習：指定教科書を見ておく／復習：講義をもとに自宅のインテリアエレメントの材料・仕上を観察・考察する)	4
第14回	インテリアデザイン・まとめ	これまでの講義内容を総括し、インテリアデザインへの関心を深める。(予習：講義ノートを再読しておく／復習：講義内容を総括し試験等に備える)	4
教科書・参考書等			
「インテリアデザイン教科書」 彰国社 ISBN978-4-395-00890-2			
成績評価方法・基準			
毎回のミニ演習および期末試験等をもとに総合的に評価する。			

25	住環境の基礎科学 LS-C-207	必修 2単位 2年前期	
	Basic Science of Building Environment		
2年全組 准教授 高木 理恵			
授業の達成目標		授業形態	
建築環境工学の基礎として、住まいの環境に影響を及ぼす自然環境の特性、住まいの環境に関わる物理現象とその基本法則、快適な環境条件について理解する。また、暖かくて涼しい住まい、湿気のない住まいを実現するための手法、暖冷房と換気の計画の重要性、省エネルギー計画の必要性などを考察する。		○ 単独 (1人が全回担当)	
		○ 複数 (1回の授業を2人以上が一纏に担当)	
		○ オムニバス (各回の担当教員が異なる場合)	
		○ クラス分け (クラス分けで担当する)	
授業の概要		該当科目	
住まいは過酷な自然環境の中につくられる一種のシェルターと捉えることができ、生活空間に適切な物理的環境をデザインするための学問が「建築環境工学」である。本講では、住まいを取り巻く自然環境に対する理解を深めるとともに、自然環境の物理的環境要素である熱や空気をどのように利用または制御して快適で健康的な住まいの環境を作り出すのかを取り上げながら、建築環境工学の基礎となる事項を学ぶ。		○ 教職科目 (工業)	
		○ 教職科目 (商業)	
		○ 地域志向科目	
実務経験を活かした教育について		○ 実務経験のある教員担当	
		○ アクティブラーニング	
授業計画 (各回の学習内容等)			
	学習内容 (授業方法)	学習課題 (予習・復習)	時間(時)
第1回	自然環境の利用と制御 (1) 気候要素と生活	予習として、自分の身の周りの自然環境の要素について調べる。復習として、授業で配付された資料を再読し、自然環境の利用と制御の意義についておさらいする。課題が出された場合は期限までに提出する。	4
第2回	自然環境の利用と制御 (2) 太陽エネルギーと太陽位置	予習として、太陽位置を学ぶことの意義について調べる。復習として、授業で配付された資料を再読し、太陽位置の求め方についておさらいする。課題が出された場合は期限までに提出する。	4
第3回	自然環境の利用と制御 (3) 日照と日影	予習として、日照と日影について調べる。復習として、授業で配付された資料を再読し、住まいの計画で日照と日影を考える意義についておさらいする。課題が出された場合は期限までに提出する。	4
第4回	自然環境の利用と制御 (4) 日照調整計画とブリーズソレイユ	予習として、冬の日差し確保と夏の日射遮へいの意義について調べる。復習として、授業で配付された資料を再読し、ブリーズソレイユの種類と効果についておさらいする。課題が出された場合は期限までに提出する。	4
第5回	暖かくて涼しい住まい (1) 熱環境と生活	予習として、自分の身の周りの熱環境問題について調べる。復習として、授業で配付された資料を再読し、住まいの熱環境を学習する意義についておさらいする。課題が出された場合は期限までに提出する。	4
第6回	暖かくて涼しい住まい (2) 伝熱の3つのプロセス	予習として、伝熱の基本法則について調べる。復習として、授業で配付された資料を再読し、伝熱の3つのプロセスについておさらいする。課題が出された場合は期限までに提出する。	4
第7回	暖かくて涼しい住まい (3) 熱伝達と熱貫流	予習として、住まいで生じている伝熱について調べる。復習として、授業で配付された資料を再読し、壁体を貫流する熱量と室内側の壁表面温度の計算方法についておさらいする。課題が出された場合は期限までに提出する。	4
第8回	暖かくて涼しい住まい (4) 熱負荷	予習として、室内の熱損失と熱取得について調べる。復習として、授業で配付された資料を再読し、熱負荷および暖房と室温の関係についておさらいする。課題が出された場合は期限までに提出する。	4
第9回	暖かくて涼しい住まい (5) 暖冷房計画とパッシブデザイン	予習として、パッシブデザインを含む暖冷房の方法について調べる。復習として、授業で配付された資料を再読し、省エネルギーを実現する暖冷房計画についておさらいする。課題が出された場合は期限までに提出する。	4
第10回	暖かくて涼しい住まい (6) 暖かくて涼しい住まいに関する考察	予習として、暖かくて涼しい住まいを実現する手法について考える。復習として、授業で配付された資料を再読し、暖かくて涼しい住まいを実現する手法についておさらいする。課題が出された場合は期限までに提出する。	4
第11回	湿気のない住まい (1) 相対湿度と絶対湿度	予習として、自分の身の周りの湿度環境問題について調べる。復習として、授業で配付された資料を再読し、湿り空気の状態と湿度の表し方についておさらいする。課題が出された場合は期限までに提出する。	4
第12回	湿気のない住まい (2) 結露防止	予習として、水の状態変化と結露のメカニズムについて調べる。復習として、授業で配付された資料を再読し、空気線図の読み方と結露を防止するための方法についておさらいする。課題が出された場合は期限までに提出する。	4
第13回	湿気のない住まい (3) 湿気のない住まいに関する考察	予習として、湿気のない住まいを実現する手法について考える。復習として、授業で配付された資料を再読し、湿気のない住まいを実現する手法についておさらいする。課題が出された場合は期限までに提出する。	4
第14回	まとめと試験	予習として、全ての授業内容を整理する。復習として、試験問題をおさらいする。	4
教科書・参考書等			
参考書 田中俊六ほか：最新建築環境工学 井上書院			
成績評価方法・基準			
課題レポートの提出と試験で総合的に判断する。			

26	住まいの構造力学 LS-C-208	選択 2単位 2年前期	
	Mechanics of Building Structure		
2年全組 非常勤講師 益野 英昌			
授業の達成目標		授業形態	
前期「住まいの力学基礎」に続いて、住まいの安全を保つために必要な工学的知識技術を身につける。その上で、多様な構造設計に対応でき、問題解決能力を持つ建築技術者の育成をめざし、安全で合理的な建築物をつくるのに必要な基礎的な知識と技術を習得する。さらに、許容応力度等計算に関する知識と技術を習得させ、資格試験にも対応できる知識と能力を身につける。		<input type="radio"/> 単独 (1人が全回担当) <input type="radio"/> 複数 (1回の授業を2人以上が一纏に担当) <input type="radio"/> オムニバス (各回の担当教員が異なる場合) <input type="radio"/> クラス分け (クラス分けで担当する)	
授業の概要		該当科目	
まず、梁材やトラス、ラーメンといった構造力学モデルとその応力について、演習問題を解きながら学ぶ。的挙動について学ぶ。次いで、応力が生じている部材の断面に着目し、設計に必要な各種係数・数値等を学ぶ。さらに、外力に対する力学的挙動としてのたわみや座屈に触れ、構造設計の学びに必要な基礎知識・技術を修得していく。		<input type="checkbox"/> 教職科目 (工業) <input type="checkbox"/> 教職科目 (商業) <input type="checkbox"/> 地域志向科目 <input type="checkbox"/> 実務経験のある教員担当 <input type="checkbox"/> アクティブラーニング	
実務経験を活かした教育について			
授業計画 (各回の学習内容等)			
	学習内容 (授業方法)	学習課題 (予習・復習)	時間(時)
第1回	静定ラーメン ・片持梁系ラーメン	「住まいの力学基礎」に続き、構造力学モデルとその応力に関する基礎知識を学び、以降の準備とする。(予習:住まいの力学基礎の学習内容を復習しておく/復習:教科書・参考書を一読し学習計画をたてる)	4
第2回	静定ラーメン ・単純梁系ラーメン	静定ラーメンの解き方を理解し、軸方向力図・せん断力図および曲げモーメント図の求め方および表し方を習得する。(予習:教科書・参考書を一読しておく/復習:演習内容とその解法を反復的に復習する)	4
第3回	静定ラーメン ・3ピン式のラーメン	同上 (予習:教科書・参考書を一読しておく/復習:演習内容とその解法を反復的に復習する)	4
第4回	静定トラス ・トラス部材に生じる力	トラス構造の考え方と特性を理解し、力の釣合条件からトラス部材に生じる力を求めることができる。(予習:教科書・参考書を一読しておく/復習:演習内容とその解法を反復的に復習する)	4
第5回	静定トラス ・節点法 ・切断法	節点法と切断法について理解し、各部材の応力が解けるようにする。(予習:教科書・参考書を一読しておく/復習:演習内容とその解法を反復的に復習する)	4
第6回	構造材料の力学的性質 ・応力度 ・ひずみ度	部材の断面に作用する力と変形に関する基本的事項について考察を深めさせ、部材の強さと変形の両面から部材の断面計算を理解させる。(予習:教科書・参考書を一読しておく/復習:演習内容とその解法を反復的に復習する)	4
第7回	構造材料の力学的性質 ・弾性体の性質 ・材料の強さと許容応力度	構造部材の断面に着目し、生じている応力・応力度の基礎概念について、演習を交えて学ぶ。(予習:教科書・参考書を一読しておく/復習:演習内容とその解法を反復的に復習する)	4
第8回	断面積・図心・断面1次モーメント	構造部材の断面に着目し、断面積・図心・断面1次モーメントの基礎概念について、演習を交えて学ぶ。(予習:教科書・参考書を一読しておく/復習:演習内容とその解法を反復的に復習する)	4
第9回	断面2次モーメント・断面係数・断面2次半径	構造部材の断面に着目し、断面2次モーメント・断面係数・断面2次半径の基礎概念について、演習を交えて学ぶ。(予習:教科書・参考書を一読しておく/復習:演習内容とその解法を反復的に復習する)	4
第10回	部材に生じる応力度 ・曲げモーメントを生じる部材	曲げ材の断面に生じる応力度を求められるようにし、その安全性について検討できるようにする。(予習:教科書・参考書を一読しておく/復習:演習内容とその解法を反復的に復習する)	4
第11回	部材に生じる応力度 ・引張力を生じる部材	引張材の断面に生じる応力度を求められるようにし、その安全性について検討できるようにする。(予習:教科書・参考書を一読しておく/復習:演習内容とその解法を反復的に復習する)	4
第12回	部材に生じる応力度 ・圧縮力を生じる部材	圧縮材の断面に生じる応力度を求められるようにし、その安全性について検討できるようにする。(予習:教科書・参考書を一読しておく/復習:演習内容とその解法を反復的に復習する)	4
第13回	梁の変形 ・たわみとたわみ角 ・モールの定理	梁の長さや断面、支点の支持条件により、たわみおよびたわみ角の生じ方が変化することを理解し、モールの定理を用いて、たわみとたわみ角を求めることができるようにする。(予習:教科書・参考書を一読しておく/復習:演習内容とその解法を反復的に復習する)	4
第14回	地震被害と耐震・免震・制振構造の原理 構造設計について	構造力学および耐震・免震・制振構造設計の概要について理解し、構造設計の実際について考察しながら、これまでの学習内容を総括する。(予習:前14回の学習内容をふりかえっておく/復習:15回の学習内容をふりかえり、とくに力学問題の解法を反復的に復習する)	4
教科書・参考書等			
教科書:和田章ほか「First Stage シリーズ 建築構造設計概論」実教出版 このほか適時、教員自作資料を配付する。また、関数電卓を用意すること。			
成績評価方法・基準			
期末試験もしくはこれに相当する総合演習と、随時実施する演習により、総合的に評価する。			

27	設計CAD演習 I LS-E-313		選択 2単位 2年前期
	Architectural Design and CAD Practice I		
2年全組 教 授 小山 祐司 2年1組 非常勤講師 渡邊 武海 2年2組 非常勤講師 庄子奈々絵			
授業の達成目標			授業形態
住宅建築構法の基礎を理解し、配置・平面・断面・立面・展開の各図面や、屋根・開口・階段等が整合した設計図面をまとめることができること。 住宅設計図をCADで正確に描画し、図版レイアウトや色調、写真等に美的感性をもち、適切なアプリケーションツールを使用して、美しいプレゼンテーション・ボードを作成できること。			<input type="checkbox"/> 単独 (1人が全回担当) <input type="checkbox"/> 複数 (1回の授業を2人以上が一纏めに担当) <input type="checkbox"/> オムニバス (各回の担当教員が異なる場合) <input checked="" type="checkbox"/> クラス分け (クラス分けで担当する)
授業の概要			該当科目
住宅レベルの建築図面の種類を学び、相互に整合する図面の重要性を演習形式で学ぶ。次にこれをCADに移し替え、その操作法を学び、製図していく。また、これらをコンテンツとしたレイアウト図面の作成法を学び、そのセンスを磨く。 授業では、実務経験のある外部講師を招き、より実践的な授業構成とする。			<input type="checkbox"/> 教職科目 (工業) <input type="checkbox"/> 教職科目 (商業) <input type="checkbox"/> 地域志向科目
実務経験を活かした教育について			<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員担当 <input type="checkbox"/> アクティブラーニング
授業計画 (各回の学習内容等)			
	学習内容 (授業方法)	学習課題 (予習・復習)	時間(時)
第1回	手書き編1：平面プランニング	予習：平面図について配付資料を基に理解する。復習：教員のアドバイスをまとめ、不十分な箇所を補う。	2
第2回	手書き編2：各階の整合と断面計画	予習：断面図について理解する。復習：教員のアドバイスをまとめ、不十分な箇所を補う。	2
第3回	手書き編3：立面図と外構	予習：正面と側面の立面図および配置図について理解する。復習：教員のアドバイスをまとめ、不十分な箇所を補う。	2
第4回	手書き編4：階段と開口と屋根・庇	予習：階段断面、窓や戸口、屋根形状について理解する。復習：教員のアドバイスをまとめ、不十分な箇所を補う。	2
第5回	CAD編1：操作法の基礎	建築CADについて参考図書を読んで予習を行い、操作法の基礎について復習を行う。	2
第6回	CAD編2：平面図	予習：平面図について配付資料をもとに予習する。復習：図面上の諸要素の表現について理解するように復習する。	2
第7回	CAD編3：断面と立面	予習：断面図と立面図について配付資料をもとに予習する。復習：図面上の諸要素の表現について理解するように復習する。	2
第8回	CAD編4：展開	予習：室内展開図について配付資料をもとに予習する。復習：図面上の諸要素の表現について理解するように復習する。	2
第9回	CAD編5：各部詳細	予習：詳細図について配付資料をもとに予習する。復習：図面上の諸要素の表現について理解するように復習する。	2
第10回	CAD編6：レンダリング	予習：レンダリング手法を予習する。復習：教員のアドバイスを基にリファイン作業を行う。	2
第11回	CAD編7：外構・添景その他	予習：添景描写手法を予習する。復習：教員のアドバイスを基にリファイン作業を行う。	2
第12回	DTP編1：Illustrator	予習：プレゼンボードにまとめる内容を精査し、Illustrator表現の予習。復習：教員のアドバイスを基に、不十分な箇所を補う。	2
第13回	DTP編2：Photoshop	予習：Photoshop表現の予習。復習：教員のアドバイスを基に、不十分な箇所を補う。	2
第14回	DTP編4：レイアウト図面の講評会	予習：プレゼンボードを作成する。復習：講評を基にリファインし、ポートフォリオを作成する。	2
教科書・参考書等			
教科書 必要に応じて教員自作資料のプリントを配付する。 参考書 増田奏「住まいの解剖図鑑」エクスナレッジ、2009 松下希和「住宅・インテリアの解剖図鑑」エクスナレッジ、2011 日本建築学会編「第2版コンパクト建築設計資料集成 <住居>」丸善、2006			
成績評価方法・基準			
複数の課題に対する提出作品により総合的に評価する。			

28	地域看護論 LS-B-205	選択 2単位 2年後期	
	Regional Nursing and Community Support		
2年全組 准教授 伊藤美由紀 ほか			
授業の達成目標		授業形態	
在宅での高齢者や療養者の生活をデザインするために、その社会的背景を理解し、治療や療養をする方とともに家族全体を援助の対象とした支援方法を理解する。		<input type="radio"/> 単独 (1人が全回担当) <input type="radio"/> 複数 (1回の授業を2人以上が一緒に担当) <input type="radio"/> オムニバス (各回の担当教員が異なる場合) <input type="radio"/> クラス分け (クラス分けで担当する)	
授業の概要		該当科目	
多くの高齢者や療養者が、住み慣れた家庭や地域でできる限り過ごしたいと願っている。介護保健制度も在宅や地域での生活を重視した支援体制の確立を目指している。社会的背景を理解し、在宅や地域での高齢者や療養者の生活を支えるためには、病気や障害を持った方だけに注目するのではなく、一単位としての家族全体を援助の対象としたケアが求められる。この講義では、特に宮城や仙台の方策を事例に挙げ、それらの考え方や技術をわかりやすく話す。授業では、実務経験のある外部講師を招き、より実践的な授業構成とする。		<input type="checkbox"/> 教職科目 (工業) <input type="checkbox"/> 教職科目 (商業) <input type="radio"/> 地域志向科目 <input type="radio"/> 実務経験のある教員担当 <input type="checkbox"/> アクティブラーニング	
実務経験を活かした教育について			
総合病院で看護師の実務経験のある教員が、様々な疾病や障害のある個人や家族を支援した経験を活かし、健康寿命を延ばすための支援方法を建築や生活員のデザインにつなげられるよう教授する。			
授業計画 (各回の学習内容等)			
	学習内容 (授業方法)	学習課題 (予習・復習)	時間(時)
第1回	家庭や地域で健康に暮らすということ	子どもから高齢者の発達や心身の変化、病気や障害について健康と生活支援で学んだことをふりかえり予習をする。復習として自宅や地域で療養する人についてまとめる。	4
第2回	家庭や地域での支援とは何か!?	介護保険制度について予習する。復習として介護保険制度と自分の身の回りの人との関連を整理する。	4
第3回	地域で療養する人を支える保健・医療・福祉	医療や福祉について予習する。復習として地域医療や福祉と自分の身の回りの人との関連を整理する。	4
第4回	認知症とケア	認知症と社会問題について予習する。復習として認知症の支援や社会問題解決に向けて復習する。	4
第5回	認知症を地域で支える	認知症サポーターについて予習する。復習として認知症サポーターについての配付資料を再読する。	4
第6回	基本的生活行動とケア (1) : 移動の援助	身体機能に障害がある生活について予習する。復習として (1) : 移動の援助についての配付資料を再読する。	4
第7回	基本的生活行動とケア (2) : 清潔の援助	身体機能に障害がある生活について予習する。復習として (2) : 清潔の援助についての配付資料を再読する。	4
第8回	基本的生活行動とケア (3) : 食事と排泄の援助	身体機能に障害がある生活について予習する。復習として (3) : 食事と排泄の援助についての配付資料を再読する。	4
第9回	リハビリテーションと支援	身体機能に障害がある生活について予習する。復習としてリハビリテーションと看護についての配付資料を再読する。	4
第10回	子どもと子育て世帯の支援	子育て世帯の抱える課題について予習する。復習として子育て世帯の抱える課題について整理する。	4
第11回	地域介護支援の現状とこれから	地域包括支援センター地域包括ケアシステムについて予習する。復習として地域包括ケアシステムについて整理する。	4
第12回	救急や災害時の支援	防災減災と社会問題について予習する。復習として防災減災の支援や社会問題解決に向けて復習する。	4
第13回	笑いの効用	笑いと健康について予習する。復習として日常生活の笑いの効果について整理する。	4
第14回	心理的危機やストレス状況とケア	心身の病気について予習する。復習として心身の病気と家族支援について整理する。	4
教科書・参考書等			
自作資料 参考書はその都度紹介する。			
成績評価方法・基準			
レポートや試験を用いて評価する。			

29	福祉住環境 LS-A-202	選択 2単位 2年後期	
	Welfare Housing Design 2年全組 講師 谷本裕香子		
授業の達成目標		授業形態	
<ul style="list-style-type: none"> ユニバーサルデザインの考え方を理解し、説明できる まちや建築物をユニバーサルデザインの視点から評価できる さまざまな障害の存在とそれに伴う住環境の問題点を理解する 住環境の改善案を提示できる 		<input type="radio"/> 単独 (1人が全回担当) <input type="radio"/> 複数 (1回の授業を2人以上が一纏に担当) <input type="radio"/> オムニバス (各回の担当教員が異なる場合) <input type="radio"/> クラス分け (クラス分けで担当する)	
授業の概要		該当科目	
<p>本講義では、生活環境を、住居や公共交通機関、公共施設などに代表される物理的環境のみならず、福祉制度や施策といった制度的環境、あるいは家族や介護者、専門家、当事者等、人的環境の視点からも捉え、障害者や高齢者の自立した生活が保障されるための生活環境整備・改善の支援について学習する。中間・最終回にグループワークを行う。</p>		<input type="radio"/> 教職科目 (工業) <input type="radio"/> 教職科目 (商業) <input type="radio"/> 地域志向科目	
実務経験を活かした教育について		<input type="radio"/> 実務経験のある教員担当 <input type="radio"/> アクティブラーニング	
担当者設計の実務経験を活かし、具体的な改善事例を紹介しながら、企画・設計等の力を養成する。			
授業計画 (各回の学習内容等)			
	学習内容 (授業方法)	学習課題 (予習・復習)	時間(時)
第1回	日本社会と福祉住環境	予習) 自分の住環境を意識して観察する 復習) 日本の福祉住環境について復習する	4
第2回	ユニバーサルデザインの概説	予習) ユニバーサルデザインについて調べる 復習) ユニバーサルデザインの歴史と考え方を復習する	4
第3回	建築物のユニバーサルデザイン	予習) 身の回りの建築物のユニバーサルデザインを観察する 復習) 建築物のユニバーサルデザインについて復習する	4
第4回	公共施設のユニバーサルデザイン	予習) 身の回りの公共施設のユニバーサルデザインを観察する 復習) 公共施設のユニバーサルデザインを復習する	4
第5回	まちのユニバーサルデザイン	予習) 通学経路におけるユニバーサルデザインを観察する 復習) 道路、公園、交通機関のユニバーサルデザインを復習する	4
第6回	ユニバーサルデザインの評価	予習) 大学構内におけるユニバーサルデザインを観察する 復習) ユニバーサルデザインの評価の視点を復習する	4
第7回	講評会 (ユニバーサルデザイン)	予習) プレゼンテーションにおけるアイデアの伝え方を予習する 復習) プレゼンテーション手法を復習する	4
第8回	住み続けられる住環境 1 : 現代のライフスタイルや家族構成	予習) 近年のライフスタイルの変化について予習する 復習) ライフスタイルや家族構成に合った住まいについて復習する	4
第9回	住み続けられる住環境 2 : 高齢者・認知症高齢者	予習) 高齢者・認知症高齢者の住まいの問題点について予習する 復習) 高齢者のための環境改善について復習する	4
第10回	住み続けられる住環境 3 : 住環境整備の基本技術	予習) 高齢者向けに住宅改修をした事例を調べる 復習) 住環境整備のための基本技術について復習する	4
第11回	住み続けられる住環境 4 : 障害者について	予習) 障害者の住まいの問題点について予習する 復習) 障害者のための環境改善について復習する	4
第12回	住み続けられる住環境 5 : 住宅の安全	予習) 家庭内事故にはどういったものがあるのか調べる 復習) 住まいの地震被害や家庭内事故について復習する	4
第13回	福祉住環境と地域+住まいのレポート出題	予習) これまでの講義内容を復習する 復習) 住宅の改善案について復習する	4
第14回	講評会 (住環境整備)	予習) プレゼンテーションの練習を複数回行う 復習) プレゼンテーション手法を復習する	4
教科書・参考書等			
講義の時間に毎回プリントを配付する。 参考書 田中直人「建築・都市のユニバーサルデザイン」, 彰国社, 2012.11 児玉桂子「超高齢社会の福祉居住環境」, 中央法規, 2009.11			
成績評価方法・基準			
授業内での小レポート (40%) および、中間・最終回のグループワーク等 (60%) により総合的に判断し、評価する。 レポート・グループワークについては、原則、翌週の授業時にフィードバックを行う。			

30	プロジェクトデザイン	LS-B-302	必修 2単位 2年後期
	Project Management		
2年全組 教授 岸本 誠司 准教授 畠山 雄豪			
授業の達成目標		授業形態	
プロジェクトのデザインとマネジメントについての基礎的な知識を身につける。プロジェクトの実施に伴う各種の評価手法について理解する。実践例を通して、実行的なプランニングの手法の理解を深める。		<input type="checkbox"/> 単独 (1人が全回担当) <input type="checkbox"/> 複数 (1回の授業を2人以上が一纏に担当) <input type="radio"/> オムニバス (各回の担当教員が異なる場合) <input type="checkbox"/> クラス分け (クラス分けで担当する)	
授業の概要		該当科目	
地域で実践されている各種プロジェクト事例を題材に、プロジェクトの計画、準備、実施、評価の各フェーズにおいて必要な手法や知識を身につける。さらに、プロジェクトを進めるうえで必要な、運営の仕組みや住民参加などのプロジェクト管理や関係者の参加のすめかたについても学んでいく。また、計画や評価の段階で重要となる各指標の理解やデータ収集分析の方法についても適宜紹介していく。なお、とりあげるプロジェクトには東北や宮城で実施されるものを含む。授業では、実務経験のある外部講師を招き、より実践的な授業構成とする。		<input type="checkbox"/> 教職科目 (工業) <input type="checkbox"/> 教職科目 (商業) <input type="radio"/> 地域志向科目 <input type="radio"/> 実務経験のある教員担当 <input type="checkbox"/> アクティブラーニング	
実務経験を活かした教育について		担当教員は、地域社会の課題を市民協働で取り組む活動や自治体において防災面を含めた地域社会の課題活動に従事しており、その実績と経験を授業に還元して対応力の養成を図る。	
授業計画 (各回の学習内容等)			
	学習内容 (授業方法)	学習課題 (予習・復習)	時間(時)
第1回	プロジェクトデザインの基本的な段階	プロジェクトと計画との違いを予習する。プロジェクト実施するにあたり、各段階の基本的な作業や内容を理解し、復習する。	4
第2回	プロジェクトに関わる運営組織のネットワーク	プロジェクトを運営とはどのようなものかを予習する。運営する各主体のネットワーク化の手法と影響について学び、それを復習する。	4
第3回	プロジェクトの目的とプロセスのデザイン	プロジェクトの目的とはなにかを予習する。目的の設定と、短期、中期、長期的なタイムスパンごとの目標設定の方法を学び、復習する。	4
第4回	プロジェクトの参加のデザイン	プロジェクトの参加の代表的な方法を予習する。関係者や住民を含めたプロジェクトの参加者との協働デザインの手法を学び、復習する。	4
第5回	プロジェクトの評価およびリスクマネジメント	プロジェクトの具体的な結果、リスクについて予習する。結果に関する指標、リスクの評価やそれへの対応の仕方を学び、評価と改善の方法について学び、復習する。	4
第6回	都市におけるプロジェクトの目的とプロセスデザイン	都市部におけるまちづくりプロジェクトの代表例を予習する。目的設定とプロセスのデザインを実践例を通して学び、復習する。	4
第7回	都市におけるプロジェクトの参加とネットワークのデザイン	都市部におけるまちづくりプロジェクトにおいてかかわる主体について予習する。参加と協働ネットワークのデザインを実践例を通して学び、復習する。	4
第8回	都市におけるプロジェクトのリスクマネジメントと評価	都市部におけるまちづくりプロジェクトの結果や生じるリスクを予習する。プロジェクトの事後評価とリスクマネジメントを実践例を通して学び、復習する。	4
第9回	中山間地域におけるプロジェクトの目的とプロセスデザイン	中山間地域におけるプロジェクトにおける代表例を予習する。目的設定とプロセスのデザインを実践例を通して学び、復習する。	4
第10回	中山間地域におけるプロジェクトの参加とネットワークのデザイン	中山間地域におけるプロジェクトにおいてかかわる主体について予習する。参加と協働ネットワークのデザインを実践例を通して学び、予習する。	4
第11回	中山間地域におけるプロジェクトのリスクマネジメントと評価	中山間地域におけるプロジェクトの結果や生じるリスクを予習する。事後評価とリスクマネジメントを実践例を通して学び、復習する。	4
第12回	広域的なプロジェクトの目的とプロセスデザイン	広域にわたる生態系維持プロジェクトにおける代表例を予習する。目的設定とプロセスのデザインを実践例を通して学び、復習する。	4
第13回	広域的なプロジェクトの参加とネットワークのデザイン	広域にわたる生態系維持プロジェクトにおいてかかわる主体について予習する。参加と協働ネットワークのデザインを実践例を通して学び、復習する。	4
第14回	広域的なプロジェクトのリスクマネジメントと評価	広域にわたる生態系維持プロジェクトの結果や生じるリスクを予習する。事後評価とリスクマネジメントを実践例を通して学び、復習する。	4
教科書・参考書等			
プリント等参考資料を配付予定。			
成績評価方法・基準			
レポートや試験を用いて評価する			

31	ランドスケープデザイン LS-A-201	必修 2単位 2年後期	
	Landscape Design		
2年全組 教授 大沼 正寛			
授業の達成目標		授業形態	
<p>公共空間などを設計するランドスケープデザインは、欧米では建築と同等に重要とされているが、我が国においては、その一部が林学や造園学等と結びつけられ、本来の統合的な学術として位置づけられて来なかった印象がある。本学科では、これを「環境と生活の双方から統合的にアプローチする空間造形学術」と再定義する。すなわち、植生・水系・風土など「環境」がつくるランドスケープ、産業・文化をふくむ「生活」がつくるランドスケープの双方に視野を広げ、統合的に考えることが重要である。こうした観点にたち、眼前の地域とその「景」を適切に読み解き、創出・育成・持続のためのデザインを構想することができるようになることを目標とする。</p>		<input type="radio"/> 単独 (1人が全回担当) <input type="radio"/> 複数 (1回の授業を2人以上が一纏に担当) <input type="radio"/> オムニバス (各回の担当教員が異なる場合) <input type="radio"/> クラス分け (クラス分けで担当する)	
授業の概要		該当科目	
<p>環境と生活の双方から空間造形のありようをみつめ、東北・宮城・仙台に焦点をあてながら事例的に学ぶ。各編においては、有形・無形の地域資源や構成要素を「見る」力を養うとともに、「創る」力の涵養にも資するよう、造園学・建築学などに関わる技術論を交えていく。なお、必要に応じてゲストスピーカーを招くことがある。</p>		<input type="checkbox"/> 教職科目 (工業) <input type="checkbox"/> 教職科目 (商業) <input type="radio"/> 地域志向科目 <input type="radio"/> 実務経験のある教員担当 <input type="checkbox"/> アクティブラーニング	
実務経験を活かした教育について			
<p>本科目では、受講者の多様性に鑑みて、当該領域により深い関心をもつ受講者向けに、一級建築士として関わった実務経験をもとにした実例紹介を交え、測量術・設計術につながるような技術的知識も加えていく。</p>			
授業計画 (各回の学習内容等)			
	学習内容 (授業方法)	学習課題 (予習・復習)	時間(時)
第1回	生活のなかの景 (世界のまち・むら、東北・宮城・仙台の景の特徴に関心を寄せる)	諸概念と関連領域の理解 (予習:基礎用語について辞書等を用いて調べる/復習:世界各地の都市・農村景観への関心を深める)	
第2回	景を観る学と術 (景を理解する「学」と、ランドスケープに関わる「術 (仕事)」について学ぶ)	風景の再発見、造園系職能の理解 (予習:ルネサンス期の芸術略史について調べておく/復習:造園学に関する参考図書を読む)	4
第3回	地図と測量学(ランドスケープの理解に必要な基礎知識・技術の基本を学ぶ)	地図・測量等の基礎的理解 (予習:身の回りの地図について調べておく/復習:地形図の読図方法を習得する)	4
第4回	景観と緑水土 (地形・水系・植生・樹木などの造園学・自然地理学・林学的な要点を学ぶ)	植生・植栽の考察 (予習:緑地空間等の成立ちや特徴について調べておく/復習:身の回りの樹木等を描画・理解する)	4
第5回	公共系の景観育成 (公園、国立公園、庭園にはどのようなものがあるか、寺と神社の違いは何かを学ぶ)	公共景観の理解 (予習:公園、緑地、社寺などの具体例を調べる/復習:講義の例示内容と身の回りの具体例を比較再考する)	4
第6回	住環境と景観育成 (家と庭、生業、配置、維持管理など、住まいのエクステリアデザインを学ぶ)	住環境系景観の理解 (予習:住まいの周辺環境と構成要素に関心を寄せる/住宅配置計画の要点を把握できるよう復習する)	4
第7回	生業景の東北 (農林漁業など生業がつくる景—生業景—について東北各地の事例とともに学ぶ)	生業と景観の関連性 (予習:職住併設住宅の事例を身近なモデルから選ぶ/復習:生業場の構成を図的に理解する)	4
第8回	生業文化遺産 (特色ある地域資源である文化的景観、産業遺産について学ぶ)	生業・無形資源と文化遺産の理解 (予習:文化的景観について調べておく/復習:東北各地の生業文化遺産を総覧する)	4
第9回	観光学の視点 (観光とは何か、人々の交流を生み出す場づくりにはどのようなものがあるかを考察する)	観光と景観の諸課題 (予習:観光とは何かを調べておく/復習:講義の紹介事例をもとに関心を広げる)	4
第10回	風景を描く眼 (小説・映画・漫画などに描かれた風景にはどのようなものがあるかを考察する)	物語と風景の理解 (予習:感情が投影される空間を想起しておく/復習:物語とシーン・景の事例知識を涵養する)	4
第11回	歴史的景観の保全 (歴史的な文化財や町並み、制度・団体について学ぶ)	町並みの制度と計画 (予習:歴史的町並みについて調べておく/復習:講義の紹介事例をもとに関心を広げる)	4
第12回	農山漁村の環境保全 (農山漁村の景の特徴と環境保全、これに関わる都市交流について学ぶ)	山林の活用保全 (予習:日本の森林の現状について調べておく/復習:講義の紹介事例をもとに関心を広げる)	4
第13回	集落の持続と主体 (空き家活用や移住定住など、集落が持続するための実践について学ぶ)	都市と農村の将来構想と空間造形 (予習:移住・定住について調べておく/復習:第3部の内容を小括して再考する)	4
第14回	景観・環境デザインのゆくえ (場所・時間・人間など、これからの景の形成と環境デザインを考える)	東北の風景づくり (予習:東北地方の特徴について調べておく/復習:これまでの全講義を総括して再考する)	4
教科書・参考書等			
指定しない。			
成績評価方法・基準			
各編に提示する事例学習ワークの提出・達成状況および期末考査ワーク等の得点をもとに、総合的に評価する。			

32	住まいの文化史 LS-C-209	選択 2単位 2年後期	
	History and Culture of Dwelling Houses 2年全組 教授 小山 祐司		
授業の達成目標		授業形態	
居住空間を中心とした空間造形及び空間概念の変容について、そのバックグラウンドとともに理解できること。居住空間に関わる諸現象・諸概念を基礎的専門用語を用いて記述できること。		<input type="radio"/> 単独 (1人が全回担当) <input type="radio"/> 複数 (1回の授業を2人以上が一纏に担当) <input type="radio"/> オムニバス (各回の担当教員が異なる場合) <input type="radio"/> クラス分け (クラス分けで担当する)	
授業の概要		該当科目	
日本における住まいを中心に、その生活様式や空間に対する感性の変遷を、古代から現代までについて概説する。更に、西欧の住まいとの比較も行う。これらを通して、住まいにおける、より質の高いアメニティーの在り方を考える。具体的には、まず、古代から近代そして現代までの居住空間がどのように変容してきたのかを学び、現代の住まいの在り様を考える。更に、空間概念の変遷を、①主体と客体の空間構成の変化、②ハレとケの分節と「しつらい」による場の転換、③上位・下位、表・奥などの空間序列や空間概念、④モダニズム以後の空間概念、などを中心にして考える。さらに、江戸時代の多様な住まいの展開の事例として、東北地方と宮城県や仙台市近郊の住宅遺構について学ぶ。		<input type="radio"/> 教職科目 (工業) <input type="radio"/> 教職科目 (商業) <input type="radio"/> 地域志向科目	
実務経験を活かした教育について		<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員担当 <input type="checkbox"/> アクティブラーニング	
授業計画 (各回の学習内容等)			
	学習内容 (授業方法)	学習課題 (予習・復習)	時間(時)
第1回	住宅の今日的な問題点について	予習:日本の現代住宅について参考書などを利用し調べておくこと。復習:配付した講義要録冊子と図版資料を利用して復習すること。	4
第2回	住宅における空間デザイン手法について	予習:講義要録や参考書を基に、住宅の空間デザインについて調べておくこと。復習:配付した図版資料を利用して復習すること。	4
第3回	原始時代から奈良時代	予習:講義要録や参考書を基に、奈良時代までの住宅について調べておくこと。復習:配付した図版資料を利用して復習すること。	4
第4回	平安時代における寝殿造の完成と変容	予習:講義要録や参考書を基に、寝殿造りまでの住宅について調べておくこと。復習:配付した図版資料を利用して復習すること。	4
第5回	平安時代における空間概念ハレとケ、礼について	予習:講義要録や参考書を基に、寝殿造りにおけるハレとケについて調べておくこと。復習:配付した図版資料を利用して復習すること。	4
第6回	中世における主殿造について	予習:講義要録や参考書を基に、主殿づくり住宅について調べておくこと。復習:配付した図版資料を利用して復習すること。	4
第7回	中世における主殿造から書院造への変容	予習:講義要録や参考書を基に、書院造りまでの住宅について調べておくこと。復習:配付した図版資料を利用して復習すること。	4
第8回	中世から近世における空間概念 上と下について	予習:講義要録や参考書を基に、書院造りにおける「上と下」について調べておくこと。復習:配付した図版資料を利用して復習すること。	4
第9回	中世から近世における空間概念 表と奥について	予習:講義要録や参考書を基に、書院造りにおける「表と奥」について調べておくこと。復習:配付した図版資料を利用して復習すること。	4
第10回	草庵茶室と数寄屋造について	予習:講義要録や参考書を基に、茶室と数寄屋について調べておくこと。復習:配付した図版資料を利用して復習すること。	4
第11回	近世における様々な階層の居住空間の様態農民と町人の住まい	予習:講義要録や参考書を基に、江戸時代の種々の住宅について調べておくこと。復習:配付した図版資料を利用して復習すること。	4
第12回	近世における様々な階層の居住空間の様態侍の住まい	予習:講義要録や参考書を基に、江戸時代の侍住宅について調べておくこと。復習:配付した図版資料を利用して復習すること。	4
第13回	近代における西欧化から住宅改良へ	予習:講義要録や参考書を基に、日本の近代住宅について調べておくこと。復習:配付した図版資料を利用して復習すること。	4
第14回	まとめと試験	予習:第13回までの講義内容を復習し試験の準備を行うこと。復習:試験の講評を参考に不十分だった内容を復習すること。	4
教科書・参考書等			
教科書 特に指定しない。適時、教員自作資料を配付する。 参考書 「日本デザイン論」伊藤ていじ著 SD 選書 「日本建築の空間」井上充夫著 SD 選書 「図説・近代日本住宅史」内田青蔵 他著 鹿島出版会			
成績評価方法・基準			
まとめの試験 (定期試験) により評価を行う。			

33	住まいの環境工学 LS-C-302	選択 2単位 2年後期	
	Engineering of Energy Saving House 2年全組 准教授 高木 理恵		
授業の達成目標		授業形態	
音、光、色彩の物理量としての表し方とその意味、それらの物理量と人間の感覚量との関係、音環境と光環境のデザインに必要な計算方法（残響計算、照明計算など）について理解する。また、空気のきれいな住まい、静かな住まい、明るい住まいを実現するための手法、住まいの色彩計画などを考察する。		○ 単独 (1人が全回担当)	
		○ 複数 (1回の授業を2人以上が一纏めに担当)	
		○ オムニバス (各回の担当教員が異なる場合)	
		○ クラス分け (クラス分けで担当する)	
授業の概要		該当科目	
住まいは過酷な自然環境の中につくられる一種のシェルターと捉えることができ、生活空間に適切な物理的環境をデザインするための学問が「建築環境工学」である。本講では、自然環境の物理的環境要素である空気、音、光をどのように利用または制御して快適で健康的な住まいの環境を作り出すのかを取り上げる。		○ 教職科目（工業）	
		○ 教職科目（商業）	
		○ 地域志向科目	
実務経験を活かした教育について		○ 実務経験のある教員担当	
		○ アクティブラーニング	
授業計画（各回の学習内容等）			
	学習内容（授業方法）	学習課題（予習・復習）	時間(時)
第1回	空気のきれいな住まい（1）室内空気汚染とシックハウス	予習として、自分の身の周りの空気環境問題について調べる。復習として、授業で配付された資料を再読みし、室内空気汚染物質とシックハウス問題についておさらいする。課題が出された場合は期限までに提出する。	4
第2回	空気のきれいな住まい（2）換気計画の重要性	予習として、換気の意義について調べる。復習として、授業で配付された資料を再読みし、換気の種類と方式についておさらいする。課題が出された場合は期限までに提出する。	4
第3回	第3回：学習内容：静かな住まい（1）音と聴覚	予習として、自分の身の周りの音環境問題について調べる。復習として、授業で配付された資料を再読みし、音の性質についておさらいする。課題が出された場合は期限までに提出する。	4
第4回	静かな住まい（2）音の三要素とその表し方	予習として、音の三要素について調べる。復習として、授業で配付された資料を再読みし、音の物理量としての表し方とその意味、その物理量と人間の感覚量との関係についておさらいする。課題が出された場合は期限までに提出する。	4
第5回	静かな住まい（3）室内音響	予習として、室内で正しい音情報を得るための方法について調べる。復習として、授業で配付された資料を再読みし、室内音響における残響の重要性と残響計算法についておさらいする。課題が出された場合は期限までに提出する。	4
第6回	静かな住まい（4）騒音の評価	予習として、住まいにおける騒音問題について調べる。復習として、授業で配付された資料を再読みし、騒音の評価と防止策についておさらいする。課題が出された場合は期限までに提出する。	4
第7回	静かな住まい（5）音環境のデザイン	予習として、音環境のデザインについて考える。復習として、授業で配付された資料を再読みし、静かな住まいを実現する手法についておさらいする。課題が出された場合は期限までに提出する。	4
第8回	明るい住まい（1）光と視環境	予習として、自分の身の周りの光環境問題について調べる。復習として、授業で配付された資料を再読みし、光の性質、物理量としての表し方とその意味、その物理量と人間の感覚量についておさらいする。課題が出された場合は期限までに提出する。	4
第9回	明るい住まい（2）昼光光源と採光	予習として、太陽による昼間の明るさの表し方について調べる。復習として、授業で配付された資料を再読みし、昼光率と採光率の計算法についておさらいする。課題が出された場合は期限までに提出する。	4
第10回	明るい住まい（3）人工光源と照明	予習として、人工光源の種類と用途について調べる。復習として、授業で配付された資料を再読みし、人工光源を用いた照明設計法についておさらいする。課題が出された場合は期限までに提出する。	4
第11回	明るい住まい（4）グレアとその防止	予習として、快適な光環境について考える。復習として、授業で配付された資料を再読みし、グレアとその防止策についておさらいする。課題が出された場合は期限までに提出する。	4
第12回	明るい住まい（5）光環境のデザイン	予習として、光環境のデザインについて考える。復習として、授業で配付された資料を再読みし、明るい住まいを実現する手法についておさらいする。課題が出された場合は期限までに提出する。	4
第13回	住まいの色彩計画	予習として、自分の身の周りの色彩の問題について調べる。復習として、授業で配付された資料を再読みし、色彩の心理的な効果とデザインについておさらいする。課題が出された場合は期限までに提出する。	4
第14回	まとめと試験	予習として、全ての授業内容を整理する。復習として、試験問題をおさらいする。	4
教科書・参考書等			
参考書 田中俊六ほか：最新建築環境工学 井上書院 乾 正男：建築の色彩設計 鹿島出版会			
成績評価方法・基準			
課題レポートの提出と試験で総合的に判断する。			

34	心理・行動と社会調査 LS-B-305		選択 2単位 3年前期
	Social Research with Psychology and Behavioristics		
3年全組 講師 中井 周作			
授業の達成目標			授業形態
思考力の学習について具体的方法の理解と実習を通して身につけること。社会心理学の知識を学ぶこと。また社会問題の解決に対する調査方法と社会心理学の知見の適用・応用方法を身につけること。社会問題の捉え方を学ぶ。			○ 単独 (1人が全回担当)
			複数 (1回の授業を2人以上が一纏に担当)
			オムニバス (各回の担当教員が異なる場合)
			クラス分け (クラス分けで担当する)
授業の概要			該当科目
知情意の発達過程を概説し、とくに思考力の発達を実習を通して理解を深める。また心の発達については幼児期から青年期まで発達課題の観点から解説する。個人の発達の観点から心理学を学ぶとともに集団の心理（社会心理学）の知見を解説する。最後に社会に潜在している問題を調査より明らかにし、社会心理学を用いたアプローチよりその問題の解決策を探り、より安全で安心で快適な生活を営める社会のあり方を追求します。			教職科目（工業）
			教職科目（商業）
			地域志向科目
実務経験を活かした教育について			実務経験のある教員担当
			アクティブラーニング
授業計画（各回の学習内容等）			
	学習内容（授業方法）	学習課題（予習・復習）	時間(時)
第1回	序章	心の理解とケアの講義ノートをもとに予習を行う。「心の理解とケア」で学んだ心理学の理論や検査を振り返る。講義ノートを作成し復習をする。	4
第2回	心の発達	発達心理学について予習を行う。発達心理学の概要を学ぶ。心の発達について講義ノートを作成し復習をする。	4
第3回	幼児期における人格形成	幼児期について予習する。幼児期の課題と自分の生活を当てはめて考える。幼児期における人格形成について講義ノートを作成し復習をする。	4
第4回	児童期における人格形成	児童期について予習する。児童期の課題と自分の生活を当てはめて考える。児童期における人格形成について講義ノートを作成し復習をする。	4
第5回	青年期における人格形成	青年期について予習する。青年期の課題と自分の生活を当てはめて考える。青年期における人格形成について講義ノートを作成し復習をする。	4
第6回	学習理論と行動療法	学習理論と行動療法について予習を行う。学習理論、行動療法について学ぶ。学習理論と行動療法について講義ノートを作成し復習をする。	4
第7回	社会心理学の概要	社会心理学について予習を行う。社会心理学の知識を学ぶ。社会心理学の概要について講義ノートを作成し復習をする。	4
第8回	集団の心理	集団の心理について予習を行う。集団の心理の知識を学ぶ。集団の心理について講義ノートを作成し復習をする。	4
第9回	社会問題（社会的ジレンマ）	社会的ジレンマについて予習を行う。社会問題の構造を学ぶ。社会問題（社会的ジレンマ）について講義ノートを作成し復習を行う。	4
第10回	社会調査方法の概要	社会調査について予習を行う。社会調査の概要を学ぶ。社会調査方法の概要について講義ノートを作成し復習を行う。	4
第11回	アンケート調査の概要	アンケートについて予習を行う。アンケート調査方法の概要を学ぶ。アンケート調査の概要について講義ノートを作成し復習を行う。	4
第12回	ヒアリング調査・フィールド調査	ヒアリング調査・フィールド調査について予習を行う。ヒアリング調査・フィールド調査方法の概要を学ぶ。ヒアリング調査・フィールド調査について講義ノートを作成し復習を行う。	4
第13回	調査事例の紹介（アンケート調査）	調査事例（アンケート調査）を探し予習を行う。調査事例を学ぶ。調査事例の紹介（アンケート調査）について講義ノートを作成し復習を行う。	4
第14回	理解のまとめ	講義ノートを用いて予習を行う。これまで学んだ知識を講義ノートを通して総復習し、理解を深める。	4
教科書・参考書等			
自作資料。			
成績評価方法・基準			
期末テスト 40%、中間テスト 40%、授業レポート 20%、評価合計 60 点以上で合格とする。			

35	復旧復興まちづくり LS-B-303	選択 2単位 3年前期	
	Disaster Recovey and Reconstruction		
3年全組 准教授 畠山 雄豪 ほか			
授業の達成目標		授業形態	
災害からの復旧、復興過程で発生すること、留意すべきことを理解し、復旧活動や復興活動に寄与できる知識を得て、災害発生時に地域のまちづくりにおいて実践できる意欲や行動力を身につけることを目標とする。		○ 単独 (1人が全回担当)	
		○ 複数 (1回の授業を2人以上が一緒に担当)	
		○ オムニバス (各回の担当教員が異なる場合)	
		○ クラス分け (クラス分けで担当する)	
授業の概要		該当科目	
災害からの復旧、復興過程について何が起きるのか、どのようなことに考慮する必要があるのかまちづくりの視点から理解する。近年発生した災害からの復旧、復興に関わるまちづくりの事例についていくつか取り上げることを予定している。特に東日本大震災については、集落移転など現在課題となっている事象を取り上げ、宮城県内で学ぶ大学生として知識を高めるとともに、被災地で自ら貢献できることを考えていく。		○ 教職科目 (工業)	
		○ 教職科目 (商業)	
		○ 地域志向科目	
実務経験を活かした教育について		○ 実務経験のある教員担当	
担当教員は、これまで自治体において防災面を含めた地域社会の課題活動の調査研究に従事していた経験があり、その実績と経験を授業に還元して対応力の養成を図る。		○ アクティブラーニング	
授業計画 (各回の学習内容等)			
	学習内容 (授業方法)	学習課題 (予習・復習)	時間(時)
第1回	復旧と復興の違い	復旧と復興の違いについて各自の考えをまとめておくこと。講義終了後は作成したノートを読み返しておくこと。	4
第2回	災害復旧事業	比較的短期間で実施される災害復旧事業の効果と課題について (予習:事前に提示されたキーワードについて調べること / 復習:授業で作成したノートを読み返すこと)	4
第3回	復興感について	過去の災害事例から人々はどういう事象で復興を認識しているのかを紹介する (予習:事前に提示されたキーワードについて調べること / 復習:授業で作成したノートを読み返すこと)	4
第4回	住宅再建について	災害からのさまざまな住宅再建の方法について (予習:事前に提示されたキーワードについて調べること / 復習:授業で作成したノートを読み返すこと)	4
第5回	住宅の自力再建について	自力による住宅再建について (予習:事前に提示されたキーワードについて調べること / 復習:授業で作成したノートを読み返すこと)	4
第6回	基盤整備がともなう住宅再建	防災集団移転促進事業、小規模住宅地区改良事業など (予習:事前に提示されたキーワードについて調べること / 復習:授業で作成したノートを読み返すこと)	4
第7回	災害公営住宅について	阪神・淡路大震災、新潟中越地震、東日本大震災などの災害公営住宅・復興公営住宅 (予習:事前に提示されたキーワードについて調べること / 復習:授業で作成したノートを読み返すこと)	4
第8回	復興まちづくり (地域としての取り組み)	地域としての復興へのとりくみ、まちづくり協議会など (予習:事前に提示されたキーワードについて調べること / 復習:授業で作成したノートを読み返すこと)	4
第9回	復興まちづくり (復興人材について)	地域復興支援員など復興に関わる人材、しくみについて (予習:事前に提示されたキーワードについて調べること / 復習:授業で作成したノートを読み返すこと)	4
第10回	復興基金等財政的支援のしくみ	復興基金など災害復興のための財政支援制度について (予習:事前に提示されたキーワードについて調べること / 復習:授業で作成したノートを読み返すこと)	4
第11回	復興と地域経済	過去の事例から地域経済の取り組みについて (予習:事前に提示されたキーワードについて調べること / 復習:授業で作成したノートを読み返すこと)	4
第12回	学生等若者による復興支援・活動について	学生として復興過程でどのような支援、活動ができるのか (予習:事前に提示されたキーワードについて調べること / 復習:授業で作成したノートを読み返すこと)	4
第13回	災害経験の伝承等・事前復興について	語り部、災害遺構など災害の経験や教訓の発信、伝承について・事前復興という考え方について (予習:事前に提示されたキーワードについて調べること / 復習:授業で作成したノートを読み返すこと)	4
第14回	災害復興に関する総括	一連の復旧や復興に関する概念、事例について振り返る (予習:これまで作成した講義ノートを読み返しておくこと / 復習:災害復旧・復興の流れと意味について自身の言葉で説明できるようにしておくこと)	4
教科書・参考書等			
必要に応じて授業等で紹介予定。			
成績評価方法・基準			
原則として定期試験により評価する。なお補足的にレポート、ノート提出などを課す場合もある。			

36	ユニバーサルデザイン	LS-A-203	必修 2単位 3年前期
	Universal Design 3年全組 教授 中島 敏 ほか		
授業の達成目標		授業形態	
わが国は、もののデザインや品質、さらに安全性での評価の高いことで諸外国から受け入れている。そして高齢化社会を迎えている現代社会では、高齢者と福祉、障がい者と福祉の概念のもとに、安全性やユニバーサルデザインの手法が大きく関わっている。この授業では、ものの安全の考え方とユニバーサルデザインを理解できることを目標とする。		<input type="checkbox"/> 単独 (1人が全回担当) <input type="checkbox"/> 複数 (1回の授業を2人以上が一纏に担当) <input type="checkbox"/> オムニバス (各回の担当教員が異なる場合) <input type="checkbox"/> クラス分け (クラス分けで担当する)	
授業の概要		該当科目	
高齢者社会の生活空間では、生活に必要な道具とそれらを取り込んでいる外部空間や内部空間が存在しているが、高齢者や障がい者にとって決して使いやすい道具や空間のデザインが十分に備わっているとは言い難い。従って、これから益々弱者に相応しい道具や空間のデザインが要求される。講義では生活の中で使用している様々な道具とそれらを取り囲んでいる空間を紹介しつつ、ものの安全とユニバーサル型のデザインに相応しいかを解説する。真に安全で安心で豊かな社会形成のためのあるべき姿の基礎をここでは学ぶ。授業では、実務経験のある外部講師を招き、より実践的な授業構成とする。		<input type="checkbox"/> 教職科目 (工業) <input type="checkbox"/> 教職科目 (商業) <input type="checkbox"/> 地域志向科目 <input type="checkbox"/> 実務経験のある教員担当 <input type="checkbox"/> アクティブラーニング	
実務経験を活かした教育について		担当教員には、民間企業とデザイン事務所において長きに渡り実務経験に従事した実績と経験を活かして、授業において実務への対応力を養成する。	
授業計画 (各回の学習内容等)			
	学習内容 (授業方法)	学習課題 (予習・復習)	時間(時)
第1回	高齢者や障がい者の生活道具に関する概論	製品の安全とその事業者の責任についての関係を予習 / 高齢者や障がい者の実態調査と実際の道具との関係を復習する。	2
第2回	製品による事故防止のための消費者のあり方	「P L 検定」の予習 / 製品による事故防止のための消費者の対応についての復習をする。	2
第3回	製品の事故防止のまとめと「P L 検定」学習	道具とバリアフリーの実態調査と実際の道具とP L の関係を予習 / 「P L 検定」の復習をする。	2
第4回	製品の安全の考え方と事業者の責任	製品による事故防止のための事業者の対応についての予習 / 製品の安全とその事業者の責任についての関係を復習する。	2
第5回	製品による事故防止のための事業者のあり方	製品による事故防止のための消費者の対応についての予習 / 製品による事故防止のための事業者のあり方を復習をする。	2
第6回	製品事故の具体的な事例の分析と対応策	製品による事故防止のための消費者のあり方についての予習 / 製品事故の具体的な事例の分析と対応策についての復習をする。	2
第7回	道具のユニバーサルデザインとそのP L とは	道具とバリアフリーの実態調査と実際の道具との関係を予習 / 道具とバリアフリーの実態調査と実際の道具とP L の関係を復習する。	2
第8回	移動式日用品の事例とその解説	固定式日用品の実態把握と日用品を使用した際の関係を予習 / 移動式日用品の実態把握と日用品を使用した際の関係を復習する。	2
第9回	固定式日用品の事例とその解説	高齢者や障がい者の生活する空間についての関係を予習 / 固定式日用品の実態把握と日用品を使用した際の関係を復習する。	2
第10回	高齢者や障がい者の生活空間に関する概論	生活空間のバリアフリーを自分の生活との関係での予習 / 高齢者や障がい者の生活する空間についての関係を復習する。	2
第11回	生活空間のバリアフリーとは	生活空間のユニバーサルデザインを居住生活との関係での予習 / 生活空間のバリアフリーを自分の生活との関係での復習をする。	2
第12回	生活空間のユニバーサルデザインとは	外部公共空間をバリアフリーにする道具との関係を予習 / 生活空間のユニバーサルデザインを居住生活との関係での復習をする。	2
第13回	生活空間 (外部公共空間) と道具との関係事例	全体を振り返り、試験についての予習 / 外部公共空間をバリアフリーにする道具との関係を復習する。	2
第14回	まとめとレポート作成	全体を振り返りまとめを行う。また、各自レポート作成をして全体の振り返りとする。	2
教科書・参考書等			
「ユニバーサルデザインの教科書」中川聡 日経P B社 「住環境のB F / U D」野村歡 彰国社 「ユニバーサルデザイン」川内美彦 学芸出版社			
成績評価方法・基準			
課題レポート、まとめの試験を総合的に評価する。			

37	都市計画 LS-C-304	選択 2単位 3年前期	
	City and Regional Planning		
3年全組 非常勤講師 田川 浩司			
授業の達成目標		授業形態	
人々の暮らしを包み込む様々な地域と、より高密度に集合・連動する都市。都市の複雑な事象を把握するには、世界から日本まで、その風土・産業・制度、まちづくり、コミュニティ論に至る広範な知識を必要とする。本講義では、現代の都市計画とその制度を概説しつつ、身近な地方都市・仙台のまちづくり事例を採りあげ、そのかたちとくみを説明できるようになることを目標とする。		<input type="radio"/> 単独 (1人が全回担当) <input type="radio"/> 複数 (1回の授業を2人以上が一纏に担当) <input type="radio"/> オムニバス (各回の担当教員が異なる場合) <input type="radio"/> クラス分け (クラス分けで担当する)	
授業の概要		該当科目	
序論2回、各論10回、都市計画へのアプローチ(方法論)2回及び総集編で構成する。2回の序論では都市計画の基礎概念、歴史的経緯、代表的思潮を学び、都市計画学の全体像を把握することを目的とする。続く各論では、都市計画を構成する各分野について基礎的内容を学び、これらが身近な街の有り様にどのように影響を与えているか、そして直面している現代的課題について考察を深める。都市計画へのアプローチ(方法論)では、個別分野に通底する都市計画の実践として参加と協働のまちづくりの進め方、そして近年の特徴的な動きである「点」のデザインとマネジメントから都市を変えていこうという試みについて触れる。		<input type="checkbox"/> 教職科目(工業) <input type="checkbox"/> 教職科目(商業) <input type="radio"/> 地域志向科目 <input type="radio"/> 実務経験のある教員担当 <input type="checkbox"/> アクティブラーニング	
実務経験を活かした教育について			
本授業は、都市コンサルタント会社等において再開発などを担当した経験のある教員による講義として、実例を挙げで解説することがある。			
授業計画(各回の学習内容等)			
	学習内容(授業方法)	学習課題(予習・復習)	時間(時)
第1回	都市計画を学ぶ	序論(1)。都市計画学分野の広がり理解し、自らのまちを考える。(予習:何を学ぶか目的意識を持つ/復習:自らの関心と都市計画との接点を考える)	4
第2回	都市と都市計画	序論(2)。都市のとらえ方、近代以前と近代都市計画の違いを学ぶ。(予習:都市とは何か関連講義資料を通読する/復習:近代都市計画の主な思潮を復習する)	4
第3回	都市の構成と土地利用計画	各論(1)。日本/仙台の市街地の構成、土地利用計画の考え方を学ぶ。(予習:仙台市の人口構成、地図を予習しておく/復習:土地利用計画について復習する)	4
第4回	建築物のコントロール	各論(2)。市街地の建物のコントロール方法や制度を学ぶ。(予習:容積率等、基礎用語を予習する/復習:身近な街での建築物のコントロール手法を観察する)	4
第5回	地区スケールの計画・ルール	各論(3)。都市と建物の中間にある「地区」の計画やルールを学ぶ。(予習:建築協定、地区計画等を予習する/復習:地区スケールの計画の生かされ方を観察する)	4
第6回	都市の再生と交通システム	各論(4)。交通計画と交通需要、まちづくりとの連関を学ぶ。(予習:仙台市の道路鉄道計画を考察する/復習:それらが身近な街にどう生かされているか観察する)	4
第7回	住環境	各論(5)。住宅政策史、高齢化・人口減少下の住環境マネジメントについて学ぶ(予習:身近な住環境課題を観察する/復習:住環境改善に向けた方策を考察する)	4
第8回	都市と自然	各論(6)。都市緑地の機能、計画史、パークマネジメントについて学ぶ(予習:好きな緑地景観とその理由を考えておく/復習:都市緑地保全について復習する)	4
第9回	都市防災	各論(7)。都市災害と現行の制度について学ぶ。(予習:都市災害についての時事を調べておく/復習:身近な防災・減災への都市計画的対応を観察する)	4
第10回	都市防災(東日本大震災からの復興まちづくり)	各論(8)。東日本大震災の被害と、復興まちづくりの考え方、実際例を学ぶ(予習:復興過程への疑問を考えておく/復習:身近な街へどう生かされているか観察する)	4
第11回	都市の景観まちづくり	各論(9)。都市景観の構成要素、景観まちづくりと法制度について学ぶ(予習:好きな都市景観とその理由を考えておく/復習:身近な街の景観を観察する)	4
第12回	市街地開発事業と都市再生	各論(10)。土地区画整理事業、市街地再開発事業、最近の潮流を学ぶ(予習:印象に残る都市開発事業を調べておく/復習:身近な都市開発事業例を観察する)	4
第13回	参加・協働のまちづくり	都市計画へのアプローチ(1)。政府、市民、民間の協力・協働と、その方法や制度について学ぶ(予習:協働事例について調べておく/復習:参加・協働の広げ方を考察する)	4
第14回	コトのデザイン/場所のマネジメント	都市計画へのアプローチ(2)。小さな空間づくりや場所のマネジメントの動向を学ぶ(予習:身近にある都市の面白い動きを見つける/復習:それらが都市に及ぼす影響を考察する)	4
教科書・参考書等			
「初めて学ぶ都市計画 第二版」市ヶ谷出版社 2018年			
成績評価方法・基準			
筆記試験、レポート等を総合的に評価する予定			

38	住まいの設備計画 LS-C-305		選択 2単位 3年前期
	House Equipment Design		
3年全組 教授 武山 倫 ほか			
授業の達成目標			授業形態
空気調和設備、給排水衛生設備、電気設備の仕組み、設備の省エネルギー計画の必要性を理解し、住まいの設計を行う際に各設備の位置づけを考察できるようになる。			<input type="checkbox"/> 単独 (1人が全回担当) <input type="checkbox"/> 複数 (1回の授業を2人以上が一纏めに担当) <input checked="" type="checkbox"/> オムニバス (各回の担当教員が異なる場合) <input type="checkbox"/> クラス分け (クラス分けで担当する)
授業の概要			該当科目
<p>「住環境の基礎科学」「住まいの環境工学」で学んだ生活空間の環境デザインと関連づけながら、快適で健康的な住まいの環境を作り出すために必要な空気調和設備、日々の生活に必要な給排水衛生設備、電気設備について基礎事項を学び、設備の省エネルギー計画の必要性に対する理解を深める。</p> <p>授業では、実務経験のある外部講師を招き、より実践的な授業構成とする。</p>			<input type="checkbox"/> 教職科目 (工業) <input type="checkbox"/> 教職科目 (商業) <input type="checkbox"/> 地域志向科目
実務経験を活かした教育について			<input checked="" type="checkbox"/> 実務経験のある教員担当 <input type="checkbox"/> アクティブラーニング
本科目では、一級建築士ら、実務経験のある外部講師を招き、より実践的な授業構成とする。			
授業計画 (各回の学習内容等)			
	学習内容 (授業方法)	学習課題 (予習・復習)	時間(時)
第1回	住まいの設備の概要	予習として、自分の住まいの設備について調べる。復習として、授業で配付された資料を再読し、講義の目的と設備計画の意義についておさらいする。課題が出された場合は期限までに提出する。	4
第2回	空気調和設備 (1) 空気調和設備の概要	予習として、自分の身の周りにおける空気調和設備について調べる。復習として、授業で配付された資料を再読し、空気調和設備の役割についておさらいする。課題が出された場合は期限までに提出する。	4
第3回	空気調和設備 (2) 空気調和プロセス	予習として、「住環境の基礎科学」で学んだ空気線図の読み方を確認する。復習として、授業で配付された資料を再読し、暖房・冷房時の空気線図上の動きについておさらいする。課題が出された場合は期限までに提出する。	4
第4回	空気調和設備 (3) 熱負荷の計算法	予習として、「住環境の基礎科学」で学んだ熱負荷について確認する。復習として、授業で配付された資料を再読し、暖房負荷と冷房負荷の計算法についておさらいする。課題が出された場合は期限までに提出する。	4
第5回	給排水衛生設備 (1) 給排水衛生設備の概要	予習として、自分の身の周りにおける給排水衛生設備について調べる。復習として、授業で配付された資料を再読し、給排水衛生設備の役割についておさらいする。課題が出された場合は期限までに提出する。	4
第6回	給排水衛生設備 (2) 給水設備と給湯設備の種類と特徴	予習として、自分の身の周りにおける給水設備と給湯設備の種類について調べる。復習として、授業で配付された資料を再読し、給水設備と給湯設備の種類と特徴についておさらいする。課題が出された場合は期限までに提出する。	4
第7回	給排水衛生設備 (3) 排水の種類と排水方式	予習として、自分の身の周りにおける排水設備について調べる。復習として、授業で配付された資料を再読し、排水の種類と排水方式についておさらいする。課題が出された場合は期限までに提出する。	4
第8回	電気設備 (1) 電気設備の概要	予習として、自分の身の周りにおける電気設備について調べる。復習として、授業で配付された資料を再読し、電気設備の役割についておさらいする。課題が出された場合は期限までに提出する。	4
第9回	電気設備 (2) 照明・コンセント設備	予習として、自分の身の周りにおける照明・コンセント設備について調べる。復習として、授業で配付された資料を再読し、照明・コンセント設備の種類としくみについておさらいする。課題が出された場合は期限までに提出する。	4
第10回	電気設備 (3) 自動制御・省エネ設備	予習として、自分の身の周りにおける照明・コンセント設備について調べる。復習として、授業で配付された資料を再読し、照明・コンセント設備の種類としくみについておさらいする。課題が出された場合は期限までに提出する。	4
第11回	防災・省エネ (1)	予習として、自分の身の周りにおける省エネルギー設備について調べる。復習として、授業で配付された資料を再読し、省エネルギー設備の意義と種類についておさらいする。課題が出された場合は期限までに提出する。	4
第12回	防災・省エネ (2)	予習として、自分の身の周りにおける省エネルギー設備について調べる。復習として、授業で配付された資料を再読し、省エネルギー設備の意義と種類についておさらいする。課題が出された場合は期限までに提出する。	4
第13回	防災・省エネ (3)	予習として、自分の身の周りにおける自然エネルギー利用設備について調べる。復習として、授業で配付された資料を再読し、自然エネルギー利用設備の意義と種類についておさらいする。課題が出された場合は期限までに提出する。	4
第14回	まとめと最終レポート	予習として、全ての授業内容を整理する。復習として、最終課題を振り返る。	4
教科書・参考書等			
教科書 伏見 建・朴 賛弼：やさしい建築設備 学芸出版社 参考書「建築の設備」入門編集委員会編著：「建築の設備」入門 彰国社 日本建築学会編：建築環境工学用教材 設備編 日本建築学会			
成績評価方法・基準			
課題レポートの提出で判断する。			

39	住まいの材料実験 I LS-C-210	選択 1単位 3年前期	
	Experiments in Building Materials I		
3年全組 非常勤講師 北辻 政文			
授業の達成目標		授業形態	
建築物の構造材料として用いられるコンクリート・鋼材の基本的な性質を経験的に理解する。また、各材料の試験方法及びデータのまとめ方を習得する。		<input type="checkbox"/> 単独 (1人が全回担当) <input checked="" type="checkbox"/> 複数 (1回の授業を2人以上が一纏に担当) <input type="checkbox"/> オムニバス (各回の担当教員が異なる場合) <input type="checkbox"/> クラス分け (クラス分けで担当する)	
授業の概要		該当科目	
コンクリート、鋼材を対象として、これらに求められている「構造安全性に係わる性質」について、所定の材料試験を実際に行いながら、経験的に学んでゆく。また、実験で得られたデータをもとにして、外力に対する性状を把握するための様々な項目について、計算演習を行いながら、実践的に学ぶ。		<input type="checkbox"/> 教職科目 (工業) <input type="checkbox"/> 教職科目 (商業) <input type="checkbox"/> 地域志向科目 <input type="checkbox"/> 実務経験のある教員担当 <input type="checkbox"/> アクティブラーニング	
実務経験を活かした教育について			
授業計画 (各回の学習内容等)			
	学習内容 (授業方法)	学習課題 (予習・復習)	時間(時)
第1回	プロローグ	これまでに学んだ建築構造材料の特質に関する部分について復習しておく。	1
第2回	コンクリート材料および鉄筋コンクリートの特性	「コンクリート材料および鉄筋コンクリート」について参考書をもとに予習する。	1
第3回	コンクリートの調合設計法	教科書の「調合設計」に関する項を参照しながら予習する。講義の際に記したデータをまとめながら復習する。	1
第4回	鋼材の種類と性質	教科書の「鋼材の種類と性質」に関する項を参照しながら予習する。講義の際に記したデータをまとめながら復習する。	1
第5回	鋼材の引張試験① (測定)	教科書の「鋼材の引張試験」に関する項を参照しながら予習する。講義の際に記したデータをまとめながら復習する。	1
第6回	鋼材の引張試験② (測定・計算)	教科書の「鋼材の引張試験」に関する項を参照しながら予習する。講義の際に記したデータをまとめながら復習する。	1
第7回	コンクリートの練り混ぜおよび打設	教科書の「練り混ぜと打設」に関する項を参照しながら予習する。講義の際に記したデータをまとめながら復習する。	1
第8回	フレッシュコンクリートの試験および供試体の作製	教科書の「フレッシュコンクリート」に関する項を参照しながら予習する。講義の際に記したデータをまとめながら復習する。	1
第9回	コンクリートの1週強度試験	教科書の「1週強度試験」に関する項を参照しながら予習する。講義の際に記したデータをまとめながら復習する。	1
第10回	コンクリートの強度と W/C および養生	教科書の「W/C および養生」に関する項を参照しながら予習する。講義の際に記したデータをまとめながら復習する。	1
第11回	コンクリートの4週強度試験 (圧縮強度・引張強度)	教科書の「4週強度試験」に関する項を参照しながら予習する。講義の際に記したデータをまとめながら復習する。	1
第12回	コンクリートの4週強度試験 (静性係数の測定)	教科書の「弾性係数の測定」に関する項を参照しながら予習する。講義の際に記したデータをまとめながら復習する。	1
第13回	鉄筋コンクリートの特徴	鉄筋コンクリートがなぜ万能な材料構法とされているか、参考書をもとに予習する。講義データをまとめながら復習する。	1
第14回	材料実験 I のまとめ	これまでの内容をレビューしながらまとめの予習をする。これまでの内容をレビューしながら総復習をする。	1
教科書・参考書等			
教科書 日本建築学会編「建築材料実験用教材」 参考書 「建築材料」 嶋津孝之他 森北出版			
成績評価方法・基準			
演習やレポートの得点などにより、総合的に評価する。			

40	建築デザイン演習 LS-E-408		選択 2単位 3年前期	
	Practice of Architectural Design			
3年全組 教 授 大沼 正寛 非常勤講師 未 定				
授業の達成目標			授業形態	
2つの住宅の設計課題を通して、身近な空間のスケール感を養うとともに、設計に必要な情報の収集、発想具現化の方法を学ぶ。建物の配置計画、平面計画、立・断面計画、空間に対応する架構方法について適切に判断する方法を学ぶ。敷地環境（仙台市内）と建築および地域の関係についても学ぶ。			単独 (1人が全回担当)	
			複数 (1回の授業を2人以上が一纏に担当)	
			オムニバス (各回の担当教員が異なる場合)	
			クラス分け (クラス分けで担当する)	
授業の概要			該当科目	
人間にとって欠くことのできない空間として居住空間がある。本演習では単体の居住空間（住宅など）や集合的な居住空間（寮施設や集合住宅など）を課題とし、住まいの空間構成、複数の住まいが集合する際の集合原理やその空間構成について実践的に学ぶ。演習を通して基本的な設計プロセスを学ぶ。課題分析から、資料収集、構想の具体化、設計図作成、プレゼンテーションまでの一連の作業を体得する。並行して開講される「建築計画Ⅱ（講義）」、「インテリアデザイン（講義）」や「ランドスケープデザイン（演習）」とも関連させ、建築と建築内外の空間を連続的に発想できること、それらを設計図面として表現できることを目標とする。			教職科目（工業）	
			教職科目（商業）	
			地域志向科目	
実務経験を活かした教育について			<input type="radio"/>	実務経験のある教員担当
担当教員は、建築士としての実績と経験を活かして、企画・設計・デザイン等の建築設計にかかわる実務への対応力を養成する。			<input type="radio"/>	アクティブラーニング
授業計画（各回の学習内容等）				
	学習内容（授業方法）	学習課題（予習・復習）		時間(時)
第1回	課題全体解説「住宅（戸建て）」	シラバス等で課題概要を予習する。説明された課題内容を復習する。		2
第2回	課題テーマ「住宅（戸建て）」に関連した住宅の情報収集	予習として類似事例等を収集する。類似事例等を復習する。		2
第3回	「住宅（戸建て）」の対象となる敷地調査と分析	予習として前回指導された内容を基に敷地調査と分析を実施する。指導された内容を復習する。		2
第4回	「住宅（戸建て）」構想案の検討（配置計画・平面のゾーニング）	予習として前回指導された内容を基に構想案の配置計画・ゾーニングを実施する。指導された内容を復習する。		2
第5回	「住宅（戸建て）」構想案の検討（立面・断面・屋根形状の検討）	予習として前回指導された内容を基に構想案の立面・断面・屋根形状の検討を実施する。指導された内容を復習する。		2
第6回	「住宅（戸建て）」構想案の検討（配置計画・平面・断面の検討）	予習として前回指導された内容を基に構想案の配置計画・平面・断面の検討を検討する。指導された内容を復習する。		2
第7回	「住宅（戸建て）」構想案のプレゼンテーション	予習として前回指導された内容を基に構想案のプレゼンテーションを検討する。指導された内容を復習する。		2
第8回	課題全体解説「住宅（集合）」	シラバス等で課題概要を予習する。説明された課題内容を復習する。		2
第9回	課題テーマ「住宅（集合）」に関連した住宅の情報収集	予習として類似事例等を収集する。類似事例等を復習する。		2
第10回	「住宅（集合）」の対象となる敷地調査と分析	予習として前回指導された内容を基に敷地調査と分析を実施する。指導された内容を復習する。		2
第11回	「住宅（集合）」構想案の検討（配置計画・平面のゾーニング）	予習として前回指導された内容を基に構想案の配置計画・ゾーニングを実施する。指導された内容を復習する。		2
第12回	「住宅（集合）」構想案の検討（立面・断面・屋根形状の検討）	予習として前回指導された内容を基に構想案の立面・断面・屋根形状の検討を実施する。指導された内容を復習する。		2
第13回	「住宅（集合）」構想案の検討（配置計画・平面・断面の検討）	予習として前回指導された内容を基に構想案の配置計画・平面・断面の検討を検討する。指導された内容を復習する。		2
第14回	「住宅（集合）」構想案のプレゼンテーションと講評	予習として前回指導された内容を基に構想案のプレゼンテーションを検討する。指導された内容を復習する。		2
教科書・参考書等				
教科書 「建築設計製図教材」東北工業大学 「コンパクト・設計資料集成」日本建築学会編 丸善				
成績評価方法・基準				
2つの課題を50%ずつの配分で総合評価し、合計60点以上を合格とする。提出締め切りに遅れた課題は受理しない。2つの課題については、途中のエスキースの進め方、提出課題の完成度、プレゼンテーション技術などにより評価する。				

41	公衆衛生学 LS-B-306	選択 2単位 3年後期	
	Public Health		
3年全組 非常勤講師 吉田 裕人			
授業の達成目標		授業形態	
健康と社会、環境を相互に関連させながら理解できるようになる。具体的には、衣食住、労働環境、家庭、学校、職場、地域、地球全体までの広範囲な「環境」と保健、医療、福祉の「制度とサービス」が相互に関連して成り立っている社会システムが、「健康」とどのような枠組みや組織の中でつながっているのかを理解し、様々な状況変化に対応した評価方法や健康支援が必要な対象者への情報伝達の方法について考えられる基礎的能力を養う。		<input type="radio"/> 単独 (1人が全回担当) <input type="radio"/> 複数 (1回の授業を2人以上が一緒に担当) <input type="radio"/> オムニバス (各回の担当教員が異なる場合) <input type="radio"/> クラス分け (クラス分けで担当する)	
授業の概要		該当科目	
少子・高齢化の進む我が国では、健康をキーワードとした社会のしくみや安全に生活するための環境について、いままです以上に重要視する状況となっている。このような社会情勢の中、人口構造や疾病構造の変化や社会経済システムの変化に伴い、保健医療の内容も生命倫理から健康づくりの方策まで幅広く理解していく必要がある。本講義では、健康の維持と増進を求めて展開される様々な計画や活動の基本となるものの見方や考え方、具体的な方法を基盤として、個々の状況や問題を理解していくための知識を習得する。そのための法律、基準値などその時々々の社会状況により変化する可能性の高い情報や統計数値を外観しながら学習を進めていく。		<input type="checkbox"/> 教職科目 (工業) <input type="checkbox"/> 教職科目 (商業) <input type="checkbox"/> 地域志向科目 <input type="checkbox"/> 実務経験のある教員担当 <input type="checkbox"/> アクティブラーニング	
実務経験を活かした教育について			
授業計画 (各回の学習内容等)			
	学習内容 (授業方法)	学習課題 (予習・復習)	時間(時)
第1回	授業の概要説明	予習として健康の諸問題に対して自身の考えや対策について考えておくこと。配付した資料の内容を復習し、興味を持った点については各自で詳細を調べ整理する。	4
第2回	保健統計、衛生の主要指標	保健統計、衛生の主要指標をキーワードとして情報を収集し予習とする。配付した資料の内容を復習し、保健統計、衛生の主要指標において興味を持った点については各自で詳細を調べ整理する。	4
第3回	疫学	疫学をキーワードとして情報を収集し予習とする。配付した資料の内容を復習し、疫学において興味を持った点については各自で詳細を調べ整理する。	4
第4回	疾病予防と健康管理概論	疾病予防と健康管理概論をキーワードとして情報を収集し予習とする。配付した資料の内容を復習し、疾病予防と健康管理概論において興味を持った点については各自で詳細を調べ整理する。	4
第5回	生活習慣病の予防	生活習慣病の予防をキーワードとして情報を収集し予習とする。配付した資料の内容を復習し、生活習慣病の予防において興味を持った点については各自で詳細を調べ整理する。	4
第6回	環境保健	環境保健をキーワードとして情報を収集し予習とする。配付した資料の内容を復習し、環境保健において興味を持った点については各自で詳細を調べ整理する。	4
第7回	地域保健と保健行政	地域保健と保健行政をキーワードとして情報を収集し予習とする。配付した資料の内容を復習し、地域保健と保健行政において興味を持った点については各自で詳細を調べ整理する。	4
第8回	母子保健	母子保健をキーワードとして情報を収集し予習とする。配付した資料の内容を復習し、母子保健において興味を持った点については各自で詳細を調べ整理する。	4
第9回	学校保健	学校保健をキーワードとして情報を収集し予習とする。配付した資料の内容を復習し、学校保健において興味を持った点については各自で詳細を調べ整理する。	4
第10回	労働衛生	労働衛生をキーワードとして情報を収集し予習とする。配付した資料の内容を復習し、労働衛生において興味を持った点については各自で詳細を調べ整理する。	4
第11回	老人保健・福祉	老人保健・福祉をキーワードとして情報を収集し予習とする。配付した資料の内容を復習し、老人保健・福祉において興味を持った点については各自で詳細を調べ整理する。	4
第12回	精神保健	精神保健をキーワードとして情報を収集し予習とする。配付した資料の内容を復習し、精神保健において興味を持った点については各自で詳細を調べ整理する。	4
第13回	保健医療制度と法規	保健医療制度と法規をキーワードとして情報を収集し予習とする。配付した資料の内容を復習し、保健医療制度と法規において興味を持った点については各自で詳細を調べ整理する。	4
第14回	まとめと試験	これまでに配付した資料の内容すべてを復習し、試験の準備する。	4
教科書・参考書等			
毎回の授業では資料を配付する。 参考書 シンプル衛生公衆衛生学 2019 (南江堂) 厚生省の指標増刊・国民衛生の動向 2018/2019 (厚生統計協会)			
成績評価方法・基準			
試験の成績を踏まえて総合的に評価する。			

42	社会福祉論	LS-A-307	選択 2単位 3年後期
	Social Welfare		
3年全組 非常勤講師 末田 耕司 伊藤美由紀 ほか			
授業の達成目標			授業形態
日本における社会福祉を理解し、誰もが一住民として地域社会で生活するための課題とその解決の状況や、社会的包摂に向けた現代的意義を学ぶ。また講義全般を通じて、子どもや高齢者、障害や疾病がある生活者なども含めた共生型の地域社会のありかたを考える力を身につける。多様な福祉分野について興味を深め、理解するきっかけとし、将来のそれぞれの学びの意欲につなげられるよう工夫できる。			<input type="checkbox"/> 単独 (1人が全回担当) <input type="checkbox"/> 複数 (1回の授業を2人以上が一緒に担当) <input type="radio"/> オムニバス (各回の担当教員が異なる場合) <input type="checkbox"/> クラス分け (クラス分けで担当する)
授業の概要			該当科目
誰もが社会の構成員として、地域で暮らすことは、当然の権利である。しかしながら、歴史的背景や制度の未熟さ、支援体制の不足により、いまだその実現にほど遠いのが、社会の実状である。この現状を変えるには、多様な問題群をまずは認識し、その根本にはいかなる要因があるのかを理解しながら、様々な視点に立って考える力が求められる。本講義では、社会福祉に関して多様な角度から理解を進めると共に、地域社会での暮らし方をテーマごとに論じていく。授業では、実務経験のある外部講師を招き、より実践的な授業構成とする。基礎知識の学習、ゲストスピーカーの講義、振り返りを通し、理解を深め、友人との意見の交換や共有を通して知識の幅を広げる授業とする。			<input type="checkbox"/> 教職科目 (工業) <input type="checkbox"/> 教職科目 (商業) <input type="checkbox"/> 地域志向科目 <input type="radio"/> 実務経験のある教員担当 <input type="checkbox"/> アクティブラーニング
担当教員は、福祉団体において長きに渡り障害者の支援・指導に従事した実績と経験を活かして、授業に還元する。			
実務経験を活かした教育について			
担当教員は、社会福祉士として、障害者の支援・指導に従事した実績と経験を活かし、より実践的な授業構成とする。			
授業計画 (各回の学習内容等)			
	学習内容 (授業方法)	学習課題 (予習・復習)	時間(時)
第1回	ガイダンス：福祉について	福祉について予習する。シラバスを読んで授業の目的を理解する。復習として、配布資料を読む。	4
第2回	社会保障制度概要と社会福祉制度概要	社会保障制度と社会福祉制度を予習する。社会福祉における制度について学び、配布資料を読み復習する。	4
第3回	子どもと福祉	子どもと福祉について予習する。日本の子どもを取りまく環境を福祉の視点で学び、配布資料を読み復習する。	4
第4回	貧困を考える	貧困について予習する。日本の取り組みについて法の目的と概要を学び、復習する。	4
第5回	障がい者と福祉	障がい者差別の具体的な事例を予習する。差別解消法制定の背景を学び、重要概念である合理的配慮について理解し、復習する。	4
第6回	地域共生社会	行政の障害者福祉担当部署の仕事を予習する。障害者福祉を提供する様々な事業主体やその体系について学びとともに、当事者組織の意義と役割について理解し、復習する。	4
第7回	ゲストスピーカーの講演：障がい者の福祉	身体、知的、精神の3障害のおおまかな区別を予習する。障害の特徴と、そのほかの種類の種類について学び、復習する。	4
第8回	ゲストスピーカーの講演：障がい者の就労	障害者の雇用の実態について知識を深め、就労へ向けた企業や地域の取り組みについて学ぶ。	4
第9回	ゲストスピーカーの講演：障がい者とスポーツ	障がい者スポーツについて予習する。障害者の生活におけるスポーツの役割と意義について学び、復習する。	4
第10回	ゲストスピーカーの講演：福祉機器	バリアフリーとは何かを簡単に予習する。新バリアフリー法の概要について学び、移動の自由を保障するバリアフリーの取り組みについて学び復習する。	4
第11回	ゲストスピーカーの講演：心の障害と福祉	心の障害について予習する。心の障害への支援に向けた取り組みについて学び、復習する。	4
第12回	ゲストスピーカーの講演：高齢者の福祉	高齢者のくらしの課題について予習する。支援の内容を理解し、居住を支援する取り組みについて学び、復習する。	4
第13回	地域社会の仕組みと住民の役割	地域における福祉的な取り組みについて予習する。地域社会での福祉的な取り組みの実態について理解し復習する。	4
第14回	日本における社会福祉についてまとめ	これまでの講義内容を予習する。日本における社会福祉の現状と課題をまとめ、今後の社会福祉の姿について考えて、復習する。	4
教科書・参考書等			
大曾根寛、小澤温 (2005)『障害者福祉論』放送大学出版			
成績評価方法・基準			
授業中に実施する小レポートと、まとめの試験で評価する。			

43	公民と自治 LS-A-308	選択 2単位 3年後期	
	Civics and Community Governance		
3年全組 教 授 岸本 誠司 非常勤講師 並河 浩一			
授業の達成目標		授業形態	
地方自治という身近な社会・政治システムの意義と目的、機能を理解し、地域社会の一員としてその社会的役割が担える力を身に着けられるようにする。		<input type="checkbox"/> 単独 (1人が全回担当) <input type="checkbox"/> 複数 (1回の授業を2人以上が一纏に担当) <input type="radio"/> オムニバス (各回の担当教員が異なる場合) <input type="checkbox"/> クラス分け (クラス分けで担当する)	
授業の概要		該当科目	
日々の平和で豊かな生産と暮らしを支えるための重要な社会基盤のひとつに民主的な制度によって運営される地方自治制度がある。その制度の原理や歴史的成立の背景などを基にその具体的運用の実態について、東日本大震災の復興の取組の成果も交えて講話する。授業では、実務経験のある外部講師を招き、より実践的な授業構成とする。		<input type="checkbox"/> 教職科目 (工業) <input type="checkbox"/> 教職科目 (商業) <input type="radio"/> 地域志向科目 <input type="radio"/> 実務経験のある教員担当	
実務経験を活かした教育について		<input type="radio"/> アクティブラーニング	
地方自治体の財政運営、条例制定、政策立案、経済福祉対策、などの事務が地方自治制度の原理原則を踏まえて具体的にどのように行われているかについて経験を踏まえて解説する。			
授業計画 (各回の学習内容等)			
	学習内容 (授業方法)	学習課題 (予習・復習)	時間(時)
第1回	ガイダンス/社会と政府の成立について	予習：T・ホブズの主権論について情報収集しておくこと。 復習：社会の意義、政治共同体、主権について整理確認すること。	4
第2回	民主主義の原理 1 権力分立について	予習：J・ハリントンの権力分立について情報収集しておくこと。 復習：権力の分散、抑制の意義について整理確認すること。	4
第3回	民主主義の原理 2 議会制民主主義について	予習：J・ロックの市民政府論について情報収集しておくこと。 復習：権力行使の目的と統治の意味について整理確認すること。	4
第4回	地方自治のあらましについて	予習：地方自治の意義、歴史について情報収集しておくこと。 復習：地方自治の実態について整理確認すること。	4
第5回	地方自治制度 1 地方公共団体の役割について	予習：地方自治体の存立目的について情報収集しておくこと。 復習：地方自治対の役割について整理確認すること。	4
第6回	地方自治制度 2 地方議会と執行機関について	予習：地方自治の二元代表制について情報収集しておくこと。 復習：地方自治の権力の抑制の意義について整理確認すること。	4
第7回	地方自治制度 3 地方議会について	予習：地方議会の組織や権限等について情報収集しておくこと。 復習：地方議会の機能と運営の実態について整理確認すること。	4
第8回	地方自治制度 4 首長・執行機関について	予習：地方自治体の執行機関の権限等について情報収集しておくこと。 復習：地方自治体の執行権の機能と実態について整理確認すること。	4
第9回	地方自治制度 5 住民について	予習：地方自治体の住民の権利と義務について情報収集しておくこと。 復習：地方自治体の住民の権利の重要性について整理確認すること。	4
第10回	地方自治制度 6 条例と情報公開について	予習：地方自治体の立法制度と情報公開について情報収集しておくこと。 復習：地方自治体の立法とその運用、情報管理について整理確認すること。	4
第11回	地方自治制度 7 地方財政について	予習：地方自治体の福祉政策と財政制度について情報収集しておくこと。 復習：地方財政の意義と実態について整理確認すること。	4
第12回	地方自治と経済政策について 1	予習：地方衰退の実態・要因について情報収集しておくこと。 復習：地方衰退と国の経済政策との関連について整理確認すること。	4
第13回	地方自治と経済政策について 2	予習：地方衰退対策について情報収集しておくこと。 復習：地方衰退対策の考え方について整理確認すること。	4
第14回	東日本大震災復興への取組	予習：震災復興計画策定の合意形成の問題点について情報収集しておくこと。 復習：非常時の政策合意形成の在り方について整理確認すること。	4
教科書・参考書等			
地方自治の原理、原則や運用に関し、文献や各自治体、総務省、復興庁等のHP等で情報収集に努め講義に臨むこと。テキストは自作のもので対応する。参考書はガイダンスで情報提供する。			
成績評価方法・基準			
課題レポートを総合的に評価する。			

44	地域産業論 LS-A-309	必修 2単位 3年後期	
	Regional Works and Industry		
3年全組 教 授 岸本 誠司 非常勤講師 冬木 勝仁			
授業の達成目標		授業形態	
地域風土にねざしたくらしと、これを支える生産の意味を理解するとともに、有形無形の地域資源を評価することができる。また、その資源を活用した実践的事例についての知識を深め、とくに仙台・宮城・東北における活用展開を構想することができる。		<input type="checkbox"/> 単独 (1人が全回担当) <input type="checkbox"/> 複数 (1回の授業を2人以上が一纏に担当) <input type="checkbox"/> オムニバス (各回の担当教員が異なる場合) <input type="checkbox"/> クラス分け (クラス分けで担当する)	
授業の概要		該当科目	
現代の地域社会では、地域内外の人々がくらしや生産の場面で協働しながら、豊かなコミュニティを形成することが求められており、とりわけ、少子高齢化・人口減少が課題となっている地域においては、周囲の自然環境までを含めた持続可能性が喫緊の課題となっている。本講義では、国内外における有形無形の地域資源の活用事例を紹介し、主に農山漁村のくらしの実像、その可能性と課題について、基礎知識を養う。事例は、主に仙台・宮城・東北の各地から求め、今後の地域資源活用方法についても考察を深めていく。		<input type="checkbox"/> 教職科目 (工業) <input type="checkbox"/> 教職科目 (商業) <input type="checkbox"/> 地域志向科目 <input type="checkbox"/> 実務経験のある教員担当 <input type="checkbox"/> アクティブラーニング	
実務経験を活かした教育について			
担当者は民間団体、NPOなどで活動し、若者の起業等にも関わってきたことから、そうした経験をふまえて解説する。			
授業計画 (各回の学習内容等)			
	学習内容 (授業方法)	学習課題 (予習・復習)	時間(時)
第1回	持続可能な地域社会における生産・生業・産業	講義の導入として、生産・生業・産業を複眼的に学ぶ意義を考える。予習：くらしと生産とは何かを考察しておく／復習：講義をもとに対象地域を地図等で確認する	4
第2回	有形無形の地域資源とその活用実践	くらしと生産を構築するための有形無形の地域資源について概説する。予習：地域資源として考えられるものを列挙する／復習：講義をもとに地元の有形無形資源を情報整理する	4
第3回	山林・中山間地域－地域資源と活用実践の事例的学習(1)	山林・中山間地域の資源と活用実践について事例的に学習する。予習：山林・中山間地域とは何かを調べておく／復習：講義内容を確認し参考図書山林・中山間地域についてを一読する	4
第4回	里山地域－地域資源と活用実践の事例的学習(2)	里山地域の資源と活用実践について事例的に学習する。予習：里山地域とは何かを調べておく／復習：講義内容を確認し参考図書の里山地域についてを一読する	4
第5回	田園地域－地域資源と活用実践の事例的学習(3)	田園地域の資源と活用実践について事例的に学習する。予習：田園地域とは何かを調べておく／復習：講義内容を確認し参考図書の田園地域についてを一読する	4
第6回	漁村地域－地域資源と活用実践の事例的学習(4)	漁村地域の資源と活用実践について事例的に学習する。予習：漁村地域とは何かを調べておく／復習：講義内容を確認し参考図書の漁村地域についてを一読する	4
第7回	中心市街地－地域資源と活用実践の事例的学習(5)	中心市街地の資源と活用実践について事例的に学習する。予習：中心市街地とは何かを調べておく／復習：講義内容を確認し参考図書の中心市街地についてを一読する	4
第8回	歴史的まちなみ－地域資源と活用実践の事例的学習(6)	歴史的まちなみの資源と活用実践について事例的に学習する。予習：歴史的まちなみとは何かを調べておく／復習：講義内容を確認し参考図書の歴史的まちなみについてを一読する	4
第9回	海外の市街地－地域資源と活用実践の事例的学習(7)	海外の市街地における資源と活用実践について事例的に学習する。予習：海外の市街地について関心を広げておく／復習：講義内容を確認し参考図書の海外の市街地についてを一読する	4
第10回	海外の農山漁村－地域資源と活用実践の事例的学習(8)	海外の農山漁村における資源と活用実践について事例的に学習する。予習：海外の農山漁村について関心を広げておく／復習：講義内容を確認し参考図書の海外の農山漁村についてを一読する	4
第11回	仙台・宮城・東北－地域資源と活用実践の事例的学習(9)	仙台・宮城・東北における資源と活用実践について事例的に学習する。予習：仙台・宮城・東北について関心を広げておく／復習：講義内容を確認し参考図書の仙台・宮城・東北についてを一読する	4
第12回	地域資源の活用方法	これまでの事例的学習をもとに、地域資源の活用方法について比較考察を行う。予習：これまでの学習事例を列挙整理しておく／復習：定性的データの比較法について復習する	4
第13回	地域のソフト的価値と「見える化」	これまでの事例的学習をもとに、地域のソフト的価値をどう伝えるかを考察・演習する。予習：各事例のソフト的データを整理しておく／復習：演習したソフト的データの視覚的表現を改善する	4
第14回	地域のハード的価値と「見える化」	これまでの事例的学習をもとに、地域のハード的価値をどう伝えるかを考察・演習する。予習：各事例のハード的データを整理しておく／復習：演習したハード的データの視覚的表現を改善する	4
教科書・参考書等			
毎回の講義において次週以降の講義に関する資料および文献検索等の指示を行う。			
成績評価方法・基準			
講義で行うミニレポートと期末試験等により総合的に評価する。			

45	都市と住宅の法制度 LS-C-310	選択 2単位 3年後期	
	Law Systems for Housing and City Planning		
3年全組 教授 竹内 泰			
授業の達成目標		授業形態	
建築関連法規を読んで理解する基本的読解力の養成。 建築に関わる主要な法令概要の理解。 簡単な具体例に対して一定の判断を下すことのできる能力の養成。		<input type="radio"/> 単独 (1人が全回担当) <input type="checkbox"/> 複数 (1回の授業を2人以上が一纏に担当) <input type="checkbox"/> オムニバス (各回の担当教員が異なる場合) <input type="checkbox"/> クラス分け (クラス分けで担当する)	
授業の概要		該当科目	
建築物の設計において不可欠である法規についての講義である。主に、建築基準法、建築士法を扱うが、関連する諸法についても触れる。自らが構想する建築を具体的に設計するにあたって、必ず守るべき最低限のルールについて理解できることを目指す。講義においては、より深い理解が得られることを目指し、諸法規の成立から変遷過程なども織り込みながら、また具体的な適用事例とも照らし合わせ、社会における実態とも関連づけながら丁寧に解説する。		<input type="checkbox"/> 教職科目 (工業) <input type="checkbox"/> 教職科目 (商業) <input type="checkbox"/> 地域志向科目	
実務経験を活かした教育について		<input type="radio"/> 実務経験のある教員担当	
担当教員は、建築設計事務所における設計実務に従事した実績と経験を活かして、授業において実務への対応力を養成する。		<input type="checkbox"/> アクティブラーニング	
授業計画 (各回の学習内容等)			
	学習内容 (授業方法)	学習課題 (予習・復習)	時間(時)
第1回	「建築法規」授業ガイダンスと法令集の使い方	予習・復習とも教科書を基に行うこと。必要な事項を教科書内に書き込み独自のノートを兼ねる。	4
第2回	建築関係法令に関する基本用語/用語に関する演習	予習：前回の講義内容や予習課題を理解しておく。復習：予習課題の解説を確認し理解を深める。	4
第3回	建築基準法 一般構造規定1 (敷地、面積、居室の環境等の規定) / 一般構造規定に関する演習	予習：前回の講義内容や予習課題を理解しておく。復習：予習課題の解説を確認し理解を深める。	4
第4回	同法 一般構造規定2 (各種構造、建築設備等の規定) / 一般構造規定に関する演習	予習：前回の講義内容や予習課題を理解しておく。復習：予習課題の解説を確認し理解を深める。	4
第5回	同法 集団規定1 (用途地域、道路、建蔽率、容積率等の規定) / 集団規定に関する演習	予習：前回の講義内容や予習課題を理解しておく。復習：予習課題の解説を確認し理解を深める。	4
第6回	同法 集団規定2 (高さ、日影の規定) / 集団規定に関する演習	予習：前回の講義内容や予習課題を理解しておく。復習：予習課題の解説を確認し理解を深める。	4
第7回	同法 集団規定3 (防火・準防火地域等の規定) / 集団規定に関する演習	予習：前回の講義内容や予習課題を理解しておく。復習：予習課題の解説を確認し理解を深める。	4
第8回	同法 防火の規定1 (用語、耐火性能、特殊建築物等の規定) / 防火の規定に関する演習	予習：前回の講義内容や予習課題を理解しておく。復習：予習課題の解説を確認し理解を深める。	4
第9回	同法 防火の規定2 (法22条区域、防火区画、内装制限等の規定) / 防火の規定に関する演習	予習：前回の講義内容や予習課題を理解しておく。復習：予習課題の解説を確認し理解を深める。	4
第10回	同法 避難の規定1 (用語、避難経路等の規定) / 避難の規定に関する演習	予習：前回の講義内容や予習課題を理解しておく。復習：予習課題の解説を確認し理解を深める。	4
第11回	同法 避難の規定2 (非常用の避難設備等の規定) / 避難の規定に関する演習	予習：前回の講義内容や予習課題を理解しておく。復習：予習課題の解説を確認し理解を深める。	4
第12回	同法 構造強度規定 (構造総則、構造規定) / 構造関連規定に関する演習	予習：前回の講義内容や予習課題を理解しておく。復習：予習課題の解説を確認し理解を深める。	4
第13回	建築士法ほか (建設業法、消防法、都市計画法等の規定)	予習：前回の講義内容や予習課題を理解しておく。復習：予習課題の解説を確認し理解を深める。	4
第14回	消防法ほか (品確法、バリアフリー法、耐震改修促進法の規定)	予習：前回の講義内容や予習課題を理解しておく。復習：予習課題の解説を確認し理解を深める。	4
教科書・参考書等			
教科書1 図説/やさしい建築法規 学芸出版社 (2020年版以降のもの) 教科書2 建築関連法令集 (2020年版以降のもの) 法改正に対応している最新のものを購入する事。 その他 授業中に配付する資料			
成績評価方法・基準			
定期試験、毎回の予復習課題レポートに基づき成績評価する。必要最低限の内容を理解していることを合格基準とする。内容理解の程度、応用力の程度により成績評価する。			

46	地域環境の保全とエネルギー	LS-C-409	選択 2単位 3年後期
	Energy and Ecology of Regional Environment		
3年全組 非常勤講師 向井 康夫			
授業の達成目標		授業形態	
地域を取り巻く環境の理解のため、地球システム（気圏・水圏・地圏）と地域との関わりを理解し、環境保全および省資源・省エネルギーのために、私達自身が地域で考え対処しなければならないことを学ぶ。		<input type="radio"/> 単独 (1人が全回担当) <input type="radio"/> 複数 (1回の授業を2人以上が一纏に担当) <input type="radio"/> オムニバス (各回の担当教員が異なる場合) <input type="radio"/> クラス分け (クラス分けで担当する)	
授業の概要		該当科目	
近年の産業経済社会の変化、とくに情報技術の飛躍的な発展は、我々の生活様式を多様化させる一方で、都市といわず農村といわず、生活水準だけは横並びの高度化を求める傾向を作り出し、その結果、エネルギー消費を増大させ、全体として地域環境の保全とは逆行する環境上の悪循環を招いている。そこで、本講では、地域環境を良好に維持しながら環境負荷を低減できるような生活デザイン手法について、環境共生の考え方を織り交ぜながら解説する。		<input type="radio"/> 教職科目（工業） <input type="radio"/> 教職科目（商業） <input type="radio"/> 地域志向科目 <input type="radio"/> 実務経験のある教員担当 <input type="radio"/> アクティブラーニング	
実務経験を活かした教育について			
授業計画（各回の学習内容等）			
	学習内容（授業方法）	学習課題（予習・復習）	時間(時)
第1回	地域と環境	予習として、自分の身の周りの地域と環境について調べる。復習として、授業で配付された資料を再読み、地域と環境の関わりについておさらいする。課題が出された場合は期限までに提出する。	4
第2回	気圏の概要	予習として、気圏について調べる。復習として、授業で配付された資料を再読み、気圏の構造と循環についておさらいする。課題が出された場合は期限までに提出する。	4
第3回	大気汚染と地域	予習として、大気汚染問題について調べる。復習として、授業で配付された資料を再読み、大気汚染と地域の関わり、大気汚染の防止策についておさらいする。課題が出された場合は期限までに提出する。	4
第4回	地球温暖化とエネルギー消費	予習として、地球温暖化問題について調べる。復習として、授業で配付された資料を再読み、地球温暖化とエネルギー消費の関わり、地球温暖化の防止策についておさらいする。課題が出された場合は期限までに提出する。	4
第5回	水圏の概要	予習として、水圏について調べる。復習として、授業で配付された資料を再読み、水圏の構造と循環についておさらいする。課題が出された場合は期限までに提出する。	4
第6回	水汚染と地域	予習として、水汚染問題について調べる。復習として、授業で配付された資料を再読み、水汚染と地域の関わり、水汚染の防止策についておさらいする。課題が出された場合は期限までに提出する。	4
第7回	地圏の概要	予習として、地圏について調べる。復習として、授業で配付された資料を再読み、地圏の構造と循環についておさらいする。課題が出された場合は期限までに提出する。	4
第8回	土壌汚染・資源循環と地域	予習として、土壌汚染問題について調べる。復習として、授業で配付された資料を再読み、土壌汚染・資源循環と地域の関わり、土壌汚染の防止策、省資源の意義についておさらいする。課題が出された場合は期限までに提出する。	4
第9回	生態系保全と地域	予習として、生態系について調べる。復習として、授業で配付された資料を再読み、生態系と地域の関わり、生態系保全の意義についておさらいする。課題が出された場合は期限までに提出する。	4
第10回	地域景観の保全	予習として、自分の身の周りの地域景観について調べる。復習として、授業で配付された資料を再読み、地域景観の保全の意義についておさらいする。課題が出された場合は期限までに提出する。	4
第11回	都市のインフラ・ストラクチャー	予習として、自分の身の周りのインフラ・ストラクチャーについて調べる。復習として、授業で配付された資料を再読み、都市のインフラ・ストラクチャーのしくみについておさらいする。課題が出された場合は期限までに提出する。	4
第12回	気候風土と地域のデザイン	予習として、自分の身の周りの気候風土について調べる。復習として、授業で配付された資料を再読み、気候風土と地域のデザインの関わりについておさらいする。課題が出された場合は期限までに提出する。	4
第13回	気候風土と住まいのデザイン	予習として、気候風土と自分の住まいのデザインの関わりについて考える。復習として、授業で配付された資料を再読み、気候風土と住まいのデザインの関わりについておさらいする。課題が出された場合は期限までに提出する。	4
第14回	環境共生のための生活デザイン まとめ	予習として、環境共生の意義について調べる。復習として、授業で配付された資料を再読み、環境共生のための生活デザインの手法についておさらいする。全授業のまとめを行う。	4
教科書・参考書等			
教科書 「ニッポン景観論」(アレックス・カー) 「里山資本主義」(澤谷浩介) 以上2点 参考書等 「地球環境建築のすすめ」(日本建築学会編) 「歩きたくなるまちづくり」(伊藤滋) ほかに適宜資料を配付します。			
成績評価方法・基準			
課題レポートの提出で判断する。			

47	住まいの材料実験Ⅱ LS-C-211	選択 1単位 3年後期	
	Experiments in Finishing Materials Ⅱ		
3年全組 非常勤講師 北辻 政文			
授業の達成目標		授業形態	
建築物の構造材料および仕上材料に用いる木材の特質を学ぶ。また、仕上材料として用いられているボード類の基本的な性質を経験的に理解する。さらに、各ボードの試験方法及びデータのまとめ方を習得する。		<input type="checkbox"/> 単独 (1人が全回担当) <input checked="" type="checkbox"/> 複数 (1回の授業を2人以上が一纏に担当) <input type="checkbox"/> オムニバス (各回の担当教員が異なる場合) <input type="checkbox"/> クラス分け (クラス分けで担当する)	
授業の概要		該当科目	
主に住宅の構造材料および仕上材料に用いる木材の特質を学ぶため、曲げ試験などを通してその性状を実験にて確かめる。また、仕上材料として用いられているボード類を対象として、「曲げ強度」、「耐水性」、「難燃性」などの試験を行い、それらのデータのまとめ方や計算演習を通して、各性質のとらえ方や解釈の仕方を経験的に学ぶ。		<input type="checkbox"/> 教職科目 (工業) <input type="checkbox"/> 教職科目 (商業) <input type="checkbox"/> 地域志向科目 <input type="checkbox"/> 実務経験のある教員担当 <input type="checkbox"/> アクティブラーニング	
実務経験を活かした教育について			
授業計画 (各回の学習内容等)			
	学習内容 (授業方法)	学習課題 (予習・復習)	時間(時)
第1回	プロローグ	これまでに学んだ木材および建築仕上材料の特質に関する部分について復習しておく。	1
第2回	実験の用具と環境	実験に必要な用具について参考書をもとに予習する。講義の際に記したスケッチなどをまとめながら復習する。	1
第3回	木材の曲げ試験① (測定)	教科書の「木材の曲げ試験」に関する項を参照しながら予習する。講義の際に記した講義ノートをもとめながら復習する。	1
第4回	木材の曲げ試験② (測定)	教科書の「木材の曲げ試験」に関する項を参照しながら予習する。講義の際に記した講義ノートをもとめながら復習する。	1
第5回	木材の曲げ試験③ (計算)	教科書の「木材の曲げ試験」に関する項を参照しながら予習する。講義の際に記した講義ノートをもとめながら復習する。	1
第6回	木材の曲げ試験④ (計算)	教科書の「木材の曲げ試験」に関する項を参照しながら予習する。講義の際に記した講義ノートをもとめながら復習する。	1
第7回	ボード類の曲げ試験① (測定)	教科書の「ボードの曲げ試験」に関する項を参照しながら予習する。講義の際に記した講義ノートをもとめながら復習する。	1
第8回	ボード類の曲げ試験② (測定)	教科書の「ボードの曲げ試験」に関する項を参照しながら予習する。講義の際に記した講義ノートをもとめながら復習する。	1
第9回	ボード類の曲げ試験③ (観察)	教科書の「ボードの曲げ試験」に関する項を参照しながら予習する。講義の際に記した講義ノートをもとめながら復習する。	1
第10回	ボード類の曲げ試験④ (観察)	教科書の「ボードの曲げ試験」に関する項を参照しながら予習する。講義の際に記した講義ノートをもとめながら復習する。	1
第11回	ボード類の難燃性試験① (測定)	教科書の「ボードの難燃性」に関する項を参照しながら予習する。講義の際に記した講義ノートをもとめながら復習する。	1
第12回	ボード類の難燃性試験② (観察)	教科書の「ボードの難燃性」に関する項を参照しながら予習する。講義の際に記した講義ノートをもとめながら復習する。	1
第13回	ボード類の耐水試験① (測定) (観察)	教科書の「ボードの耐水性」に関する項を参照しながら予習する。講義の際に記した講義ノートをもとめながら復習する。	1
第14回	まとめ	これまでの内容をレビューしながら、まとめのための予習をする。これまでの内容をレビューしながら総復習をする。	1
教科書・参考書等			
教科書 日本建築学会編「建築材料実験用教材」 参考書 「建築材料」 嶋津孝之他 森北出版			
成績評価方法・基準			
演習やレポートの得点などにより、総合的に評価する。			

48	設計CAD演習Ⅱ LS-E-410		選択 2単位 3年後期
	Architectural Design and CAD Practice Ⅱ		
3年全組	教 授 武山 倫 教 授 大沼 正寛 非常勤講師 野津 弘	非常勤講師 渡邊 武海 非常勤講師 庄子奈々絵	
授業の達成目標			授業形態
都市計画的観点に配慮し、短時間に諸条件を満たした住宅設計をまとめ、各種図面を作成することができる。地域の可能性や課題に着眼し、斬新な発想をもって、その解決法を建築設計図面に表現し、説得力ある提案書としてまとめ、解説することができる。			<input type="checkbox"/> 単独 (1人が全回担当) <input type="checkbox"/> 複数 (1回の授業を2人以上が一纏に担当) <input type="checkbox"/> オムニバス (各回の担当教員が異なる場合) <input type="checkbox"/> クラス分け (クラス分けで担当する)
授業の概要			該当科目
即日設計課題3題。コンペを想定した創作性のつよい設計課題2題。仙台・宮城・東北の諸課題や地域性を念頭におきながら課題を構成する。授業では、実務経験のある外部講師を招き、より実践的な授業構成とする。			<input type="checkbox"/> 教職科目 (工業) <input type="checkbox"/> 教職科目 (商業) <input type="checkbox"/> 地域志向科目
実務経験を活かした教育について			<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員担当 <input type="checkbox"/> アクティブラーニング
当科目は、一級建築士としての建築設計に携わった教員が担当する。すなわち、計画、構法から構成材料まで、設計に関わる実際的な知見・技術を含めながら、創作性の高い提案をまとめることができるよう指導する。			
授業計画 (各回の学習内容等)			
	学習内容 (授業方法)	学習課題 (予習・復習)	時間(時)
第1回	ガイダンス・社会と都市と建築	古今東西の建築デザイン史と、発想、構想の重要性を学ぶ。(予習:ワークに先立ち構想を練る/復習:設計製図内容を改善し手を入れる)	2
第2回	第1ルール・即日設計演習1	公衆便所を併設した公園の東屋を設計する。(予習:ワークに先立ち構想を練る/復習:設計製図内容を改善し手を入れる)	2
第3回	第1ルール・即日設計演習2	空き店舗を利用した和風カフェを設計する。(予習:ワークに先立ち構想を練る/復習:設計製図内容を改善し手を入れる)	2
第4回	第1ルール・即日設計演習3	県産品を展示する仮設パビリオンを設計する。(予習:ワークに先立ち構想を練る/復習:設計製図内容を改善し手を入れる)	2
第5回	第1ルール・即日設計演習4 講評会	3作から代表作を選んで発表する。	2
第6回	第2ルール・創作設計1-1	問題の発見と建築企画 (予習:ワークに先立ち構想を練る/復習:設計製図内容を改善し手を入れる)	2
第7回	第2ルール・創作設計1-2	構想とドローイング (予習:ワークに先立ち構想を練る/復習:設計製図内容を改善し手を入れる)	2
第8回	第2ルール・創作設計1-3	建築企画書の提示 (予習:ワークに先立ち構想を練る/復習:設計製図内容を改善し手を入れる)	2
第9回	第2ルール・創作設計2-1	問題の発見と建築企画 (予習:ワークに先立ち構想を練る/復習:設計製図内容を改善し手を入れる)	2
第10回	第2ルール・創作設計2-2	構想とドローイング (予習:ワークに先立ち構想を練る/復習:設計製図内容を改善し手を入れる)	2
第11回	第2ルール・創作設計2-3	建築企画書の提示 (予習:ワークに先立ち構想を練る/復習:設計製図内容を改善し手を入れる)	2
第12回	第2ルール・創作設計総合講評会	2作品から代表作を発表 (予習:講評会の発表内容を練る/復習:発表における反省点をみつけ改善する)	2
第13回	第3ルール・プレゼンテーション図面の作成	上記全てのなかから代表作を選んで製図、描画 (予習:ワークに先立ち構想を練る/復習:設計製図内容を改善し手を入れる)	2
第14回	第3ルール・プレゼンテーション図面の作成	図面を掲示して、学科外の教員・学生らに解説し講評を受ける。(予習:講評会の発表内容を練る/復習:発表における反省点をみつけ改善する)	2
教科書・参考書等			
増田奏「住まいの解剖図鑑」エクスナレッジ、2009 松下希和「住宅・インテリアの解剖図鑑」エクスナレッジ、2011 日本建築学会編「第2版コンパクト建築設計資料集成 <住居>」丸善、2006			
成績評価方法・基準			
各回の提出作品のポイントを総合的に評価する。			

49	NPO論 LS-A-311	選択 2単位 4年前期	
	Non-Profit Organization		
3年全組 教授 岸本 誠司 非常勤講師 未 定			
授業の達成目標		授業形態	
<p>昨今、民間と行政の垣根を越えて公益的な活動を行う団体の活躍が目覚ましい。とくに、多様な人々の安全安心な生活を維持向上させ、地域社会を円滑に運営していくうえで、もはや非営利団体の活用は不可欠の存在となっている。本講義では、この観点にたち、主に東北・宮城・仙台等で実践を重ねている非営利活用の多様に触れ、向き合っている社会的課題、解決のための方法論、官民含めた協力関係、マネジメント手法などの実際を学び、多様な立場の人々が社会を運営していく意義と手法を体得することを目標とする。</p>		<input type="radio"/> 単独 (1人が全回担当) <input type="radio"/> 複数 (1回の授業を2人以上が一纏に担当) <input type="radio"/> オムニバス (各回の担当教員が異なる場合) <input type="radio"/> クラス分け (クラス分けで担当する)	
授業の概要		該当科目	
<p>地域の価値を高める地域振興系の活動、誰一人取り残さないための地域福祉系活動、環境問題やSDGsに照らした環境保全系の活動など、NPOの活動フィールドは多岐にわたる。これらを総覧しつつ、実際的課題にフォーカスし、相互に考察を行っていく。</p>		<input type="radio"/> 教職科目 (工業) <input type="radio"/> 教職科目 (商業) <input type="radio"/> 地域志向科目 <input type="radio"/> 実務経験のある教員担当 <input type="radio"/> アクティブラーニング	
実務経験を活かした教育について			
<p>担当者は民間団体、NPOなどで活動し、若者の起業等にも関わってきたことから、そうした経験をふまえて解説する。</p>			
授業計画 (各回の学習内容等)			
	学習内容 (授業方法)	学習課題 (予習・復習)	時間(時)
第1回	ガイダンス (公民とNPO・NGOの概要)	予習：NPOとは何かを調べておく 復習：国際NGOについて調べる	4
第2回	NPOとボランティア	予習：ボランティアの多様性について調べておく 復習：NPOとボランティアの相違性について再考する	4
第3回	震災復興とNPO	予習：震災復興における市民活動を調べておく 復習：東日本大震災におけるNPO活動を総括する	4
第4回	地域福祉とNPO	予習：地域福祉における市民活動を調べておく 復習：福祉の現場におけるNPO活動を総括する	4
第5回	多様な人々の参画とNPO	予習：弱者支援に関する市民活動を調べておく 復習：障がい者支援等のNPO活動を総括する	4
第6回	考察・セクタとステークホルダー	予習：これまでの各種事例をふりかえっておく 復習：講義・ディスカッション内容を総括する	4
第7回	地域環境の保全とNPO	予習：SDGsに関わる市民活動を調べておく 復習：環境保全系のNPO活動を総括する	4
第8回	地域の価値向上とNPO	予習：地域活性化における市民活動を調べておく 復習：価値共創におけるNPO活動を総括する	4
第9回	企業CSRとNPO	予習：企業CSRについて調べておく 復習：企業の各種活動とNPOとの関係等を総括する	4
第10回	考察・NPOによる地域振興論	予習：これまでの各種事例をふりかえっておく 復習：講義・ディスカッション内容を総括する	4
第11回	NPOをとりまく諸制度	予習：NPOにかかる法制度を調べておく 復習：諸制度の活用法について再考する	4
第12回	社会システム・制度と地域固有の課題	予習：市民活動の功罪について多様な記事を調べておく 復習：総論と個別解について総括する	4
第13回	地域コミュニティの再構築	予習：コミュニティやネットワークについて調べておく 復習：地域コミュニティの基礎論を総括する	4
第14回	NPO論のまとめ	予習：これまでの各種事例をふりかえっておく 復習：講義・ディスカッション内容を総括する	4
教科書・参考書等			
<p>教科書：自作製作もので対応する。 参考書：その都度対応する。</p>			
成績評価方法・基準			
<p>レポートを総合的に評価する。</p>			

50	住まいの施工と積算 LS-C-312	選択 2単位 4年前期	
	Building Construction and Estimation		
4年全組 非常勤講師 野津 弘			
授業の達成目標		授業形態	
住宅・建築を具現化するための建築施工・建築施工管理および建築積算について、その考え方と基礎知識・技術を修得し、当該関連分野における探求力を涵養するとともに、実務遂行力の素地を形成する。		○ 単独 (1人が全回担当)	
		○ 複数 (1回の授業を2人以上が一纏に担当)	
		○ オムニバス (各回の担当教員が異なる場合)	
		○ クラス分け (クラス分けで担当する)	
授業の概要		該当科目	
建築施工の概要、管理の実際、工種と職種、契約と見積および積算手法について、具体的な資料や施工写真を見ながら学習する。 授業では、実務経験のある外部講師を招き、より実践的な授業構成とする。		○ 教職科目 (工業)	
		○ 教職科目 (商業)	
		○ 地域志向科目	
実務経験を活かした教育について		○ 実務経験のある教員担当	
担当教員は、建築士として、また建築設計事務所における設計実務に従事した実績と経験を活かして、授業において企画・設計・デザイン等の建築設計にかかわる実務への対応力を養成する。		○ アクティブラーニング	
授業計画 (各回の学習内容等)			
	学習内容 (授業方法)	学習課題 (予習・復習)	時間(時)
第1回	建築施工・建築施工管理・建築積算	住宅を含む建築物の施工と管理および積算に関する基礎概念を学ぶ。(予習: シラバスおよび教科書・参考書等を一読しておく/復習: 講義をもとに基礎用語を整理し復習する)	4
第2回	工種と職種	建築施工における工種と職種に関する基礎概念、建築技術者の特徴について学ぶ。(予習: 教科書・参考書等を一読し、建築職人について事前に考察しておく/復習: 講義をもとに工種と職種について復習する)	4
第3回	建設事業における契約・見積	建設事業のしくみ、ステークホルダーと、これを取り結び契約および見積のしくみについて学ぶ。(予習: 教科書・参考書等を一読しておく/復習: 講義をもとに契約と見積について復習する)	4
第4回	建築施工の計画と管理/監理	建築施工における計画と管理/監理に関する基礎概念について学ぶ。(予習: 教科書・参考書等を一読し、建築職人について事前に考察しておく/復習: 講義をもとに工種と職種について復習する)	4
第5回	各種工事 (1) 仮設工事	建築施工における各種工事のうち、仮設工事の実際について学ぶ。(予習: 教科書・参考書等を一読しておく/復習: 講義をもとに今回の学習内容について復習する)	4
第6回	各種工事 (2) 土工事・地業工事	建築施工における各種工事のうち、土工事・地業工事の実際について学ぶ。(予習: 教科書・参考書等を一読しておく/復習: 講義をもとに今回の学習内容について復習する)	4
第7回	各種工事 (3) 鉄筋コンクリート工事・鉄骨工事	建築施工における各種工事のうち、鉄筋コンクリート工事・鉄骨工事の実際について学ぶ。(予習: 教科書・参考書等を一読しておく/復習: 講義をもとに今回の学習内容について復習する)	4
第8回	各種工事 (4) 木工事・木質系工事	建築施工における各種工事のうち、木工事・木質系工事の実際について学ぶ。(予習: 教科書・参考書等を一読しておく/復習: 講義をもとに今回の学習内容について復習する)	4
第9回	各種工事 (5) 内外装工事・仕上工事	建築施工における各種工事のうち、内外装工事・仕上工事の実際について学ぶ。(予習: 教科書・参考書等を一読しておく/復習: 講義をもとに今回の学習内容について復習する)	4
第10回	各種工事 (6) 設備その他附帯工事	建築施工における各種工事のうち、設備その他附帯工事の実際について学ぶ。(予習: 教科書・参考書等を一読しておく/復習: 講義をもとに今回の学習内容について復習する)	4
第11回	積算の基礎 (1) 建築工事のマネジメントと人件費の考え方	建築工事の全体的なマネジメントについて考察し、とくに人工と人件費の考え方について学ぶ。(予習: 教科書・参考書等を一読しておく/復習: 講義をもとに今回の学習内容について復習する)	4
第12回	積算の基礎 (2) 鉄筋コンクリート工事における部材の数量化	建築積算の具体例として、とくに鉄筋コンクリート工事における部材の数量化を題材として、その扱いと概算を体験的に学ぶ。(予習: 教科書・参考書等を一読しておく/復習: 講義をもとに今回の学習内容について復習する)	4
第13回	積算の基礎 (3) 木造住宅における部材の数量化	建築積算の具体例として、とくに木造住宅における部材の数量化を題材として、木扱いと材積および工事費の関係を体験的に学ぶ。(予習: 教科書・参考書等を一読しておく/復習: 講義をもとに今回の学習内容について復習する)	4
第14回	積算の基礎 (4) 仕上工事における材料の数量化 施工と積算のまとめ。	建築積算の具体例として、とくに仕上工事における材料の数量化を題材として、工事面積の扱いや人工数の計算を体験的に学ぶ。施工と積算のまとめ。(予習: 教科書・参考書等を一読しておく/復習: 講義をもとに今回の学習内容について復習する)	4
教科書・参考書等			
[建築構法] 市ヶ谷出版 内田祥哉・他 [建築施工] 彰国社 建築施工教科書研究会			
成績評価方法・基準			
授業中に出席する課題レポートをもとに、総合的に評価する。			

51	基礎セミナー I	LS-F-001	必修 1単位 1年前期
	Home Seminar I		
1年全組 全教員			
授業の達成目標		資料を収集・整理し、ゼミのグループでその結果をまとめ、学年全員の前で発表するための作業を行う。その過程を通して、大学における主体的な学習の仕方、生活デザインの基本的課題について認識できるようになることを目標とする。	授業形態
			○ 単独 (1人が全回担当)
			○ 複数 (1回の授業を2人以上が一纏に担当)
			○ オムニバス (各回の担当教員が異なる場合)
授業の概要		各教員がそれぞれ数人の学生を担当する少人数ゼミナールである。学生は、週一度のセミナーに出席して、担当教員から、大学における主体的な学習の仕方や自律的な生活の仕方を始めとするキャンパスライフ全般についてアドバイスを受けるとともに、担当教員の専門に応じて、安心して安全な生活デザインの入門的な課題について学習する。その上で、学科共通の課題および個々の教員の課題に沿った生活デザインツアーを実施するために、グループでディスカッションやプレゼンテーションを行い、企画を練り上げ、実行する。	該当科目
			教職科目 (工業)
			教職科目 (商業)
			地域志向科目
実務経験を活かした教育について			実務経験のある教員担当
			アクティブラーニング
授業計画 (各回の学習内容等)			
	学習内容 (授業方法)	学習課題 (予習・復習)	時間(時)
第1回	全体セミナー (ガイダンス)	これからの大学生活について、キャンパスライフやシラバスを読んで予習復習する。	1
第2回	全体セミナー (学生生活)	これからの大学生活について、キャンパスライフやシラバスを読んで予習復習する。	1
第3回	全体セミナー (教務関係)	履修登録や教務関係について、キャンパスライフやシラバスを読んで予習復習する。	1
第4回	全体セミナー (適正検査の解説)	適正検査について予習を行う。適正検査の結果を受け、自己分析を行う。自己分析結果を復習する。	1
第5回	全体セミナー (振り返り)	これまでのセミナーをまとめることで予習を行う。これまでのセミナーの内容を振り返り、復習する。	1
第6回	キャリア教育 (ガイダンスの確認)	進路について自分で調べ、予習を行う。取得できる資格や進路を確認する。キャリアについて復習を行う。	1
第7回	個別セミナー (文献調査)	新聞や日頃の関心を持つ文献を予習する。不足している文献を集める。集めた文献をもとに復習を行う。	1
第8回	個別セミナー (フィールド調査計画)	調査の進め方を自分なりに考え提案する準備・予習をする。計画書の一連を整理する。計画書をもとに復習を行う。	1
第9回	個別セミナー (フィールド調査)	計画に沿って実施できるように振り返り予習を行う。実施結果やグループ(他学生)の意見をまとめる。フィールド調査結果をもとに復習を行う。	1
第10回	個別セミナー (振り返り)	フィールド調査を振り返り予習を行う。反省点や課題を整理する。個別セミナー全体をとおして振り返り、整理した資料をもとに復習を行う。	1
第11回	全体セミナー (聞き取る力を養う)	新聞や日頃の生活に関心をもつことで予習を行う。聞いたことを整理する。全体セミナー(聞き取る力を養う)について整理した資料をもとに復習を行う。	1
第12回	全体セミナー (まとめる力を養う)	新聞や日頃の生活に関心をもち予習を行う。聞いたこと読んだことをまとめる。まとめた資料をもとに復習を行う。	1
第13回	全体セミナー (話す力を養う)	新聞や日頃の生活に関心をもち予習を行う。聞いたこと読んだことを言葉にする。まとめた資料をもとに復習を行う。	1
第14回	全体セミナー (伝える力を養う)	これまでにまとめた資料をもとに予習を行う。新聞や日頃の生活に関心をもち読んだことを誰かに伝える。伝えた結果をもとに復習を行う。	1
教科書・参考書等			
教科書なし、参考書は自作資料とする。			
成績評価方法・基準			
グループ課題、個人課題の内容、理解度や達成度を総合して評価を行う。			

52	基礎セミナーⅡ LS-F-002	必修 1単位 1年後期	
	Home Seminar Ⅱ		
1年全組 全教員			
授業の達成目標		授業形態	
資料を収集・整理し、ゼミのグループでその結果をまとめ、学年全員の前で発表する。その過程を通して、大学における主体的な学習の仕方、生活デザインの基本的課題について認識できるようになることを目標とする。併せて、学生は、それぞれ自己の将来の進路を考える。		<input type="checkbox"/> 単独 (1人が全回担当) <input checked="" type="checkbox"/> 複数 (1回の授業を2人以上が一纏に担当) <input type="checkbox"/> オムニバス (各回の担当教員が異なる場合) <input type="checkbox"/> クラス分け (クラス分けで担当する)	
授業の概要		該当科目	
少人数ゼミナールである生活デザインセミナーⅠに引き続き、ここでは、学科共通の課題および個々の教員の課題に沿った生活デザインツアーの結果について、グループでディスカッションやプレゼンテーションを行いながら、安全で安心な生活デザインのさまざまな課題に対する眼を養う。また、学生は、検査結果の分析と学生自身の将来像に関するレポート作成を行う。これらを通して、分析力と構想力を養うことを狙いとする。そして、今後の学習の方法と内容および将来の進路や職業を展望する。		<input type="checkbox"/> 教職科目 (工業) <input type="checkbox"/> 教職科目 (商業) <input type="checkbox"/> 地域志向科目 <input type="checkbox"/> 実務経験のある教員担当 <input type="checkbox"/> アクティブラーニング	
実務経験を活かした教育について			
授業計画 (各回の学習内容等)			
	学習内容 (授業方法)	学習課題 (予習・復習)	時間(時)
第1回	全体セミナー (ガイダンス)	これからの学生生活について、キャンパスライフやシラバスを読んで予習復習する。	1
第2回	全体セミナー (学生生活・教務)	学生生活・教務関係について、キャンパスライフやシラバスを読んで予習復習する。	1
第3回	個別セミナー (フィールドワークの結果のまとめ)	基礎セミナーⅠでのフィールドワークの結果を振り返り予習を行う。結果をまとめる。まとめた結果をもとに復習を行う。	1
第4回	個別セミナー (発表資料作成)	基礎セミナーⅠでのフィールドワークの結果をもとに予習を行う。発表資料を作成する。作成した資料をもとに復習を行う。	1
第5回	個別セミナー (発表練習)	発表資料をもとに予習を行う。基礎セミナーⅠでのフィールドワークの発表練習を行う。練習結果をもとに復習を行う。	1
第6回	全体セミナー (フィールドワークの発表)	発表練習をもとに予習を行う。基礎セミナーⅠでのフィールドワークの発表を行う。発表結果をもとに復習を行う。	1
第7回	全体セミナー (発表の評価)	発表結果をもとに予習を行う。他グループとともに発表内容の評価を行う。評価の結果をもとに復習を行う。	1
第8回	学外活動	学外での活動内容について事前に調べ予習を行う。学外活動に参加する。活動の結果をまとめ復習を行う。	1
第9回	全体セミナー (自己分析)	自己分析について予習を行う。自己分析を行い、今後の進路について展望する。展望をもとに復習を行う。	1
第10回	全体セミナー (社会人としての心構え)	社会人になることを考え社会人生活について予習を行う。社会人としての心構えを確認する。心構えを復習する。	1
第11回	全体セミナー (自己紹介・他者紹介)	自己分析の結果をもとに予習を行う。自己紹介をするとともに、他者を紹介することで改めて自己を評価する。評価結果を復習する。	1
第12回	SPI 適正検査対策 (言語分野)	言語能力について課題に目を通し予習を行う。講座の内容を整理・理解する。言語分野について復習を行う。	1
第13回	SPI 適正検査対策 (非言語分野)	非言語能力について課題に目を通し予習を行う。講座の内容を整理・理解する。非言語分野について復習を行う。	1
第14回	全体セミナー (振り返り)	基礎セミナーⅡ全体を振り返り予習を行う。振り返りをまとめる。まとめた結果をもとに復習を行う。	1
教科書・参考書等			
教科書なし、参考書は自作資料とする。			
成績評価方法・基準			
グループ課題、個人課題の内容、理解度や達成度を総合して評価を行う。			

53	基礎セミナーⅢ LS-F-003	必修 1単位 2年前期	
	Home Seminar Ⅲ		
2年全組 全教員			
授業の達成目標		授業形態	
適性検査による自己分析より進路を考える。インターシップに関する情報やこれらを通して、「実践するための方法と内容の把握」や「自らの専門性の適性判断」などを、自ら実践出来る様になることを目指す。		<input type="checkbox"/> 単独 (1人が全回担当) <input checked="" type="checkbox"/> 複数 (1回の授業を2人以上が一纏に担当) <input type="checkbox"/> オムニバス (各回の担当教員が異なる場合) <input type="checkbox"/> クラス分け (クラス分けで担当する)	
授業の概要		該当科目	
適性検査は1年間の学生生活を踏まえた「自己プログレスレポート」とし、自己の成長度合いや今後の適正な進路を、ある程度確認できるものである。更に、進路を考えるために、インターシップの実習やグループディスカッションを実践する。		<input type="checkbox"/> 教職科目 (工業) <input type="checkbox"/> 教職科目 (商業) <input type="checkbox"/> 地域志向科目 <input type="checkbox"/> 実務経験のある教員担当 <input type="checkbox"/> アクティブラーニング	
実務経験を活かした教育について			
授業計画 (各回の学習内容等)			
	学習内容 (授業方法)	学習課題 (予習・復習)	時間(時)
第1回	全体セミナー (ガイダンス)	大学生生活について、キャンパスライフやシラバスを読んで予習復習する。	1
第2回	全体セミナー (学生生活・教務)	学生生活や教務関係について、キャンパスライフやシラバスを読んで予習復習する。	1
第3回	本学が行う適性検査「自己プログレスレポート」を受検する。	適性検査について予習を行う。適性検査を受け、自己分析を行う。自己分析結果をもとに復習を行う。	1
第4回	学外活動	学外での活動内容について事前に調べ予習を行う。学外活動に参加する。参加した活動内容をまとめ復習を行う。	1
第5回	適性検査の解説	適性検査について予習を行う。適性検査の解説を受け、自己分析を行い将来を展望する。展望をもとに復習を行う。	1
第6回	インターンシップの紹介	インターンシップについて情報を集め予習を行う。インターンシップについて学び、進路先を展望する。展望をもとに復習を行う。	1
第7回	インターンシップ実習先の選択	自己分析をもとに予習を行う。インターンシップの実習先をこれまでの自己分析を踏まえ選択する。選択した結果をもとに復習を行う。	1
第8回	インターンシップに向けての準備	インターンシップについて予習を行う。インターンシップの実習に向けての準備を行う。準備をもとに復習を行う。	1
第9回	全体セミナー (聞き取る力を養う)	将来の進路を見据え予習を行う。新聞や日頃の生活に関心をもち聞いたことを整理する。整理した資料をもとに復習を行う。	1
第10回	全体セミナー (まとめる力を養う)	将来の進路を見据え予習を行う。新聞や日頃の生活に関心をもち聞いたこと読んだことをまとめる。まとめた資料をもとに復習を行う。	1
第11回	全体セミナー (話す力を養う)	将来の進路を見据えた予習を行う。新聞や日頃の生活に関心をもち聞いたこと読んだことを言葉にする。言葉にしたものをもとに復習を行う。	1
第12回	全体セミナー (伝える力を養う)	将来の進路を見据え予習を行う。新聞や日頃の生活に関心をもち読んだことを誰かに伝える。伝えた結果をもとに復習を行う。	1
第13回	グループディスカッション	グループディスカッションについて予習をする。グループディスカッションの方法を学び、新たな考え方を身につける。ディスカッションの内容をもとに復習を行う。	1
第14回	個別セミナー (進路相談・振り返り)	セミナー全体を振り返り進路先について予習を行う。進路相談を個別で行う。相談の内容をもとに復習を行う。	1
教科書・参考書等			
教科書なし、参考書は自作資料とする。			
成績評価方法・基準			
グループ課題、個人課題の内容、理解度や達成度を総合して評価を行う。			

54	キャリアセミナー I	LS-F-004	必修 1単位 2年後期
	Carrier Seminar I		
2年全組 全教員			
授業の達成目標			授業形態
自分に相応しい業種・職種の分析を踏まえ、その上でキャリアビジョンシートが作成できること。			<input type="checkbox"/> 単独 (1人が全回担当) <input checked="" type="checkbox"/> 複数 (1回の授業を2人以上が一纏に担当) <input type="checkbox"/> オムニバス (各回の担当教員が異なる場合) <input type="checkbox"/> クラス分け (クラス分けで担当する)
授業の概要			該当科目
地域福祉系・住まい系・くらし系の分野に関わって活動する実践者からの講話を通して、各自の進路の方向性を見極めることを目指す。具体的には、キャリアビジョンシートを作成し各セミナー担当教員からの指導・助言を受ける。また、適性検査としてSPI検査を実施し、その結果からキャリアビジョンシートに反映できるようにする。これらを通して、社会が求める人物像や将来の姿を思考する力を身につけることを目指す。			<input type="checkbox"/> 教職科目 (工業) <input type="checkbox"/> 教職科目 (商業) <input type="checkbox"/> 地域志向科目
実務経験を活かした教育について			<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員担当 <input type="checkbox"/> アクティブラーニング
授業計画 (各回の学習内容等)			
	学習内容 (授業方法)	学習課題 (予習・復習)	時間(時)
第1回	ガイダンス (授業の全体の流れを解説)	シラバスの学習目標や学習内容の予習	1
第2回	SPI 適性検査対策講座 1 (言語能力 語句の関係と熟語)	言語能力についての課題の予習 / 講座の内容 (言語能力 語句の関係と熟語) を復習	1
第3回	SPI 適性検査対策講座 2 (言語能力 長文読解)	言語能力についての予習 / 講座の内容 (言語能力 長文読解) を復習	1
第4回	SPI 適性検査対策講座 3 (非言語能力 表・資料の読み取り)	非言語能力についての課題の予習 / 講座の内容 (非言語能力 表・資料の読み取り) を復習	1
第5回	SPI 適性検査対策講座 4 (非言語能力 数的推理)	非言語能力についての課題の予習 / 講座の内容 (非言語能力 数的推理) を復習	1
第6回	SPI 適性検査を受検する	SPI 適性検査を受検するために前回までの講座の予習 / 適性検査の内容を復習	1
第7回	「くらし分野」：地方自治体の方の講話を聞きレポートにまとめる	地方自治体についての予習 / 地方自治体の方の講話の内容を復習	1
第8回	「くらし分野」：地場産業の企業家の講話を聞きレポートにまとめる。	地場産業についての予習 / 地場産業の企業家の方の講話の内容を復習	1
第9回	「住まい分野」：住宅産業界の方の講話を聞きレポートにまとめる。	住宅産業界についての予習 / 住宅産業界の方の講話の内容を復習	1
第10回	「住まい分野」：不動産業界の方の講話を聞きレポートにまとめる。	不動産業についての予習 / 不動産業界の方の講話の内容を復習	1
第11回	「地域福祉分野」：介護事業の実践者の講話を聞きレポートにまとめる。	介護事業についての予習 / 介護事業の実践者の講話の内容を復習	1
第12回	「地域福祉分野」：介護機器製作の実践者の講話を聞きレポートにまとめる。	介護機器についての予習 / 介護機器製作の実践者の講話の内容を復習	1
第13回	SPI 適性検査結果の解説を受ける	SPI の事前調査と予習 / 解説を受けて自己分析や進路について復習	1
第14回	キャリアビジョンシートの作成を行い、発表会を実施する	キャリアビジョンシートを作成し、発表の準備を行う / 講座の内容や他の人の発表内容を復習	1
教科書・参考書等			
SPI 適性検査解説書 講話者の概要書			
成績評価方法・基準			
SPI 対策講座の小テスト、各講話のレポートとキャリアビジョンシートによる評価を行う。			

55	キャリアセミナーⅡ	LS-F-005	必修 1単位 3年前期
	Carrier Seminar Ⅱ		
3年全組 全教員			
授業の達成目標		授業形態	
キャリア形成支援科目の最終年科目（前期）として、進路開拓に必要なスタディ・スキルとキャリアアップ・レクチャを織り交ぜながら、日常の修学の補完と人間力形成を図る。		○ 単独 (1人が全回担当)	
		○ 複数 (1回の授業を2人以上が一纏に担当)	
		○ オムニバス (各回の担当教員が異なる場合)	
		○ クラス分け (クラス分けで担当する)	
授業の概要		該当科目	
ホームルーム / インターンシップ / キャリアアップ・レクチャ / スタディ・スキルの4カテゴリーから、様々な内容の修得をする。		教職科目 (工業)	
		教職科目 (商業)	
		地域志向科目	
		実務経験のある教員担当	
実務経験を活かした教育について		アクティブラーニング	
授業計画 (各回の学習内容等)			
	学習内容 (授業方法)	学習課題 (予習・復習)	時間(時)
第1回	スタディ・スキル 01 : 言語系	言語系の課題の予習 / スタディ・スキル言語系の内容の復習	1
第2回	スタディ・スキル 02 : 非言語系	非言語系の課題の予習 / スタディ・スキル非言語系の内容の復習	1
第3回	スタディ・スキル 03 : 総合系	総合系の課題の予習 / スタディ・スキル総合系の内容の復習	1
第4回	ホームルーム 01 : インターンシップの紹介	自分の興味のある職種や企業についての予習 / インターンシップの内容について復習	1
第5回	ホームルーム 02 : キャリア・アプローチ試験	キャリア・アプローチ試験のための予習 / 試験の内容の復習	1
第6回	キャリアアップ・レクチャ 01 : 自分をみつめる	自分の進路についての構想とその予習 / 自分の興味のある職種についての調査とその復習	1
第7回	キャリアアップ・レクチャ 02 : 業界研究	業界研究について事前に提示されたキーワードについて予習 / 配付された業界研究についての資料を復習	1
第8回	キャリアアップ・レクチャ 03 : 資格のはなし	資格について事前に提示されたキーワードについて予習 / 配付された資格についての資料を復習	1
第9回	ホームルーム 03 : インターンシップ実習先の選択	インターンシップ実習先について事前に提示されたキーワードについて予習 / 配付されたインターンシップ実習先についての資料を復習	1
第10回	ホームルーム 04 : キャリア・アプローチ解答と解説	キャリア・アプローチについて事前に提示されたキーワードについて予習 / 配付されたキャリア・アプローチについての資料を復習	1
第11回	キャリアアップ・レクチャ 04 : 企業のはなし	企業のはなしについて事前に提示されたキーワードについて予習 / 配付された企業のはなしについての資料を復習	1
第12回	キャリアアップ・レクチャ 05 : 制度のはなし	制度のはなしについて事前に提示されたキーワードについて予習 / 配付された制度のはなしについての資料を復習	1
第13回	キャリアアップ・レクチャ 06 : 経済のはなし	経済のはなしについて事前に提示されたキーワードについて予習 / 配付された経済のはなしについての資料を復習	1
第14回	ホームルーム 05 : 進路開拓を考える	進路開拓について事前に提示されたキーワードについて予習 / 配付された進路開拓についての資料を復習	1
教科書・参考書等			
指定しない。必要な情報は適宜配付・周知する。			
成績評価方法・基準			
授業の目的に照らし、その取り組み状況と達成度合いから総合的に評価する。			

56	キャリアセミナーⅢ LS-F-006	必修 1単位 3年後期	
	Carrier Seminar Ⅲ		
3年全組 全教員			
授業の達成目標		授業形態	
前期に引き続き、進路開拓に必要なスタディ・スキル、キャリアアップ・レクチャを織り交ぜつつ、キャリア形成支援科目の最終段階として、社会人を身につける。		<input type="checkbox"/> 単独 (1人が全回担当) <input checked="" type="checkbox"/> 複数 (1回の授業を2人以上が一緒に担当) <input type="checkbox"/> オムニバス (各回の担当教員が異なる場合) <input type="checkbox"/> クラス分け (クラス分けで担当する)	
授業の概要		該当科目	
ホームルーム/インターンシップ/キャリアアップ・レクチャ/スタディ・スキルの4カテゴリーから、様々な内容の修得をする。		<input type="checkbox"/> 教職科目 (工業) <input type="checkbox"/> 教職科目 (商業) <input type="checkbox"/> 地域志向科目 <input type="checkbox"/> 実務経験のある教員担当 <input type="checkbox"/> アクティブラーニング	
実務経験を活かした教育について			
授業計画 (各回の学習内容等)			
	学習内容 (授業方法)	学習課題 (予習・復習)	時間(時)
第1回	ホームルーム 01: 就職とは何か	自分の興味のある職種について調査し復習	1
第2回	スタディ・スキル 01: 言語系	言語系の課題の予習 / スタディ・スキル言語系の復習	1
第3回	スタディ・スキル 02: 非言語系	非言語系の課題の予習 / スタディ・スキル非言語系の復習	1
第4回	スタディ・スキル 03: 総合系	総合系の課題の予習 / スタディ・スキル総合系の復習	1
第5回	キャリアアップ・レクチャ 01: 進路と履歴	進路と履歴について事前に提示されたキーワードについての予習 / 配付された進路と履歴についての資料の復習	1
第6回	キャリアアップ・レクチャ 02: 就活支援講座 1	就活支援講座 1 について事前に提示されたキーワードについての予習 / 配付された就活支援講座 1 についての資料の復習	1
第7回	キャリアアップ・レクチャ 03: 就活支援講座 2	就活支援講座 2 について事前に提示されたキーワードについての予習 / 配付された就活支援講座 2 についての資料の復習	1
第8回	キャリアアップ・レクチャ 04: 就活支援講座 3	就活支援講座 3 について事前に提示されたキーワードについての予習 / 配付された就活支援講座 3 についての資料の復習	1
第9回	キャリアアップ・レクチャ 05: 就活支援講座 4	就活支援講座 4 について事前に提示されたキーワードについての予習 / 配付された就活支援講座 4 についての資料の復習	1
第10回	キャリアアップ・レクチャ 06: 就活支援講座 5	就活支援講座 5 について事前に提示されたキーワードについての予習 / 配付された就活支援講座 5 についての資料の復習	1
第11回	キャリアアップ・レクチャ 07: 履歴書作成とマナー	履歴書作成とマナーについて事前に提示されたキーワードについての予習 / 配付された履歴書作成とマナーについての資料の復習	1
第12回	ホームルーム 02: 冬季インターンシップ 1	冬季インターンシップ 1 について事前に提示されたキーワードについての予習 / 配付された冬季インターンシップ 1 についての資料の復習	1
第13回	ホームルーム 03: 冬季インターンシップ 2	冬季インターンシップ 2 について事前に提示されたキーワードについての予習 / 配付された冬季インターンシップ 2 についての資料の復習	1
第14回	ホームルーム 04: 進路個別相談	個別面談に向けて自分の進路のまとめとその予習復習	1
教科書・参考書等		指定しない。必要な情報は適宜配付・周知する。	
成績評価方法・基準		授業の目的に照らし、その取り組み状況と達成度合いから総合的に評価する。	

57

生活デザイン特別課外活動Ⅰ LS-D-007

選択 1単位 1年前期～4年後期

Extracurricular Activities in Design for Social System and Living Environment Ⅱ

全学年全組 学科長 大沼 正寛

●授業の達成目標

正規授業内では得られない経験や知識を課外で修得し、本学科の理念や目的をより広く、より深く達成させる。
本学科の専門に関連深い資格取得、検定等の合格、及び学科が指定する課外活動（教育的な意味、効果が得られるもの）、各種デザインコンペ等への応募に対して本人が単位申請を行った場合、学科で審査の上、上限4単位で専門科目としての単位認定を行う。

●授業の概要

単位認定を希望する学生は、教務学生課又は長町キャンパス事務室に申し出て「生活デザイン特別課外活動単位認定申請書」を受け取り、必要事項を記入の上、以下に示す1から3それぞれの単位認定の方法に応じて必要となる申請書類とともに、教務学生課又は長町キャンパス事務室に提出すること。提出の締切は、学期末の7月末日と1月末日とする。

1. 資格取得による単位認定

本学科の専門に関連のある資格を取得した場合、あるいは検定に合格した場合は、専門教育科目に申請できる。どのような資格や検定が「生活デザイン特別課外活動」の対象となるか、また、それら資格や検定の評価については、下記の認定例を参考とされたい。また前期および後期のオリエンテーション等で説明する。

<申請書類>

- ・生活デザイン特別課外活動単位認定申請書：取得した資格または合格した検定の名称、及び取得年月日を記入すること
- ・資格の取得や検定の合格を証明する書類のコピー（合格証や資格証明書）

2. 学科が指定する課外活動による単位認定

学科が指定する課外活動は、以下の（1）から（4）の4項目である。

- （1）学科内の各研究室が単独または合同で実施する調査研究・各種ゼミへの参加。
- （2）企業実習などへの参加。
- （3）自主的に行う国内・国外の生活デザイン見聞旅行の計画・実施。
- （4）その他、学科で認めた活動。

これらの活動を5日間以上行うこと。評価は、「活動における自主性、能動性の度合い」「活動内容の充実度」「活動の成果の大きさ」の3つの観点から行う。

<申請書類>

- ・生活デザイン特別課外活動単位認定申請書：課外活動を行った場所、期間、内容等について記入すること
- ・活動報告書：A4用紙で10枚程度。企業実習の場合は大学所定の「実習報告書」が良い。
- ・参加を証明する資料：企業実習の場合は大学所定のインターンシップ「評価票」が良い。

3. 各種デザインコンペ・学会発表等への応募による単位認定

各種デザインコンペ・学会発表等の応募に対する評価は、顕彰の程度を適正に考慮し行う。申請方法については、ゼミの指導教員と相談の上決定する。

4. 認定の方法

単位認定の審査は、生活デザイン学科の学科会議で行い、学科長が単位認定する。

資格取得または検定等の主な認定例

資格等名称	単位
福祉住環境コーディネーター検定2級	2
商業施設士補	2
PL検定3級	2
インテリアコーディネーター	
福祉住環境コーディネーター検定2級	2
カラーコーディネーター検定3級	
商業施設士補	2
色彩検定3級	
PL検定3級	2

※認定希望者は事前に教務学生課又は長町キャンパス事務室に問合せること。

58

生活デザイン特別課外活動Ⅱ LS-D-008

選択 1単位 1年前期～4年後期

Extracurricular Activities in Design for Social System and Living Environment Ⅱ

全学年全組 学科長 大沼 正寛

●授業の達成目標

正規授業内では得られない経験や知識を課外で修得し、本学科の理念や目的をより広く、より深く達成させる。
本学科の専門に関連深い資格取得、検定等の合格、及び学科が指定する課外活動（教育的な意味、効果が得られるもの）、各種デザインコンペ等への応募に対して本人が単位申請を行った場合、学科で審査の上、上限4単位で専門科目としての単位認定を行う。

●授業の概要

単位認定を希望する学生は、教務学生課又は長町キャンパス事務室に申し出て「生活デザイン特別課外活動単位認定申請書」を受け取り、必要事項を記入の上、以下に示す1から3それぞれの単位認定の方法に応じて必要となる申請書類とともに、教務学生課又は長町キャンパス事務室に提出すること。提出の締切は、学期末の7月末日と1月末日とする。

1. 資格取得による単位認定

本学科の専門に関連のある資格を取得した場合、あるいは検定に合格した場合は、専門教育科目に申請できる。どのような資格や検定が「生活デザイン特別課外活動」の対象となるか、また、それら資格や検定の評価については、下記の認定例を参考とされたい。また前期および後期のオリエンテーション等で説明する。

<申請書類>

- ・生活デザイン特別課外活動単位認定申請書：取得した資格または合格した検定の名称、及び取得年月日を記入すること
- ・資格の取得や検定の合格を証明する書類のコピー（合格証や資格証明書）

2. 学科が指定する課外活動による単位認定

学科が指定する課外活動は、以下の（1）から（4）の4項目である。

- （1）学科内の各研究室が単独または合同で実施する調査研究・各種ゼミへの参加。
- （2）企業実習などへの参加。
- （3）自主的に行う国内・国外の生活デザイン見聞旅行の計画・実施。
- （4）その他、学科で認めた活動。

これらの活動を5日間以上行うこと。評価は、「活動における自主性、能動性の度合い」「活動内容の充実度」「活動の成果の大きさ」の3つの観点から行う。

<申請書類>

- ・生活デザイン特別課外活動単位認定申請書：課外活動を行った場所、期間、内容等について記入すること
- ・活動報告書：A4用紙で10枚程度。企業実習の場合は大学所定の「実習報告書」が良い。
- ・参加を証明する資料：企業実習の場合は大学所定のインターンシップ「評価票」が良い。

3. 各種デザインコンペ・学会発表等への応募による単位認定

各種デザインコンペ・学会発表等の応募に対する評価は、顕彰の程度を適正に考慮し行う。申請方法については、ゼミの指導教員と相談の上決定する。

4. 認定の方法

単位認定の審査は、生活デザイン学科の学科会議で行い、学科長が単位認定する。

資格取得または検定等の主な認定例

資格等名称	単位
福祉住環境コーディネーター検定2級	2
商業施設士補	2
PL検定3級	2
インテリアコーディネーター	
福祉住環境コーディネーター検定2級	2
カラーコーディネーター検定3級	
商業施設士補	2
色彩検定3級	
PL検定3級	2

※認定希望者は事前に教務学生課又は長町キャンパス事務室に問合せること。

59

生活デザイン特別課外活動Ⅲ

LS-D-009

選択 2単位 1年前期～4年後期

Extracurricular Activities in Design for Social System and Living Environment Ⅲ

全学年全組 学科長 大沼 正寛

●授業の達成目標

正規授業内では得られない経験や知識を課外で修得し、本学科の理念や目的をより広く、より深く達成させる。本学科の専門に関連深い資格取得、検定等の合格、及び学科が指定する課外活動（教育的な意味、効果が得られるもの）、各種デザインコンペ等への応募に対して本人が単位申請を行った場合、学科で審査の上、上限4単位で専門科目としての単位認定を行う。

●授業の概要

単位認定を希望する学生は、教務学生課又は長町キャンパス事務室に申し出て「生活デザイン特別課外活動単位認定申請書」を受け取り、必要事項を記入の上、以下に示す1から3それぞれの単位認定の方法に応じて必要となる申請書類とともに、教務学生課又は長町キャンパス事務室に提出すること。提出の締切は、学期末の7月末日と1月末日とする。

1. 資格取得による単位認定

本学科の専門に関連のある資格を取得した場合、あるいは検定に合格した場合は、専門教育科目に申請できる。どのような資格や検定が「生活デザイン特別課外活動」の対象となるか、また、それら資格や検定の評価については、下記の認定例を参考とされたい。また前期および後期のオリエンテーション等で説明する。

<申請書類>

- ・生活デザイン特別課外活動単位認定申請書：取得した資格または合格した検定の名称、及び取得年月日を記入すること
- ・資格の取得や検定の合格を証明する書類のコピー（合格証や資格証明書）

2. 学科が指定する課外活動による単位認定

学科が指定する課外活動は、以下の（1）から（4）の4項目である。

- （1）学科内の各研究室が単独または合同で実施する調査研究・各種ゼミへの参加。
- （2）企業実習などへの参加。
- （3）自主的に行う国内・国外の生活デザイン見聞旅行の計画・実施。
- （4）その他、学科で認めた活動。

これらの活動を10日間以上行うこと。評価は、「活動における自主性、能動性の度合い」「活動内容の充実度」「活動の成果の大きさ」の3つの観点から行う。

<申請書類>

- ・生活デザイン特別課外活動単位認定申請書：課外活動を行った場所、期間、内容等について記入すること
- ・活動報告書：A4用紙で10枚程度。企業実習の場合は大学所定の「実習報告書」が良い。
- ・参加を証明する資料：企業実習の場合は大学所定のインターンシップ「評価票」が良い。

3. 各種デザインコンペ・学会発表等への応募による単位認定

各種デザインコンペ・学会発表等の応募に対する評価は、顕彰の程度を適正に考慮し行う。申請方法については、ゼミの指導教員と相談の上決定する。

4. 認定の方法

単位認定の審査は、生活デザイン学科の学科会議で行い、学科長が単位認定する。

資格取得または検定等の主な認定例

資格等名称	単位
福祉住環境コーディネーター検定2級	2
商業施設士補	2
PL 検定3級	2
インテリアコーディネーター	
福祉住環境コーディネーター検定2級	2
カラーコーディネーター検定3級	
商業施設士補	2
色彩検定3級	
PL 検定3級	2

※認定希望者は事前に教務学生課又は長町キャンパス事務室に問合せること

60	生活デザイン特別課外活動Ⅳ LS-D-010	選択 2単位 1年前期～4年後期
-----------	-------------------------------	------------------

Extracurricular Activities in Design for Social System and Living Environment Ⅳ

全学年全組 学科長 大沼 正寛

●授業の達成目標

正規授業内では得られない経験や知識を課外で修得し、本学科の理念や目的をより広く、より深く達成させる。本学科の専門に関連深い資格取得、検定等の合格、及び学科が指定する課外活動（教育的な意味、効果が得られるもの）、各種デザインコンペ等への応募に対して本人が単位申請を行った場合、学科で審査の上、上限4単位で専門科目としての単位認定を行う。

●授業の概要

単位認定を希望する学生は、教務学生課又は長町キャンパス事務室に申し出て「生活デザイン特別課外活動単位認定申請書」を受け取り、必要事項を記入の上、以下に示す1から3それぞれの単位認定の方法に応じて必要となる申請書類とともに、教務学生課又は長町キャンパス事務室に提出すること。提出の締切は、学期末の7月末日と1月末日とする。

1. 資格取得による単位認定

本学科の専門に関連のある資格を取得した場合、あるいは検定に合格した場合は、専門教育科目に申請できる。どのような資格や検定が「生活デザイン特別課外活動」の対象となるか、また、それら資格や検定の評価については、下記の認定例を参考とされたい。また前期および後期のオリエンテーション等で説明する。

<申請書類>

- ・生活デザイン特別課外活動単位認定申請書：取得した資格または合格した検定の名称、及び取得年月日を記入すること
- ・資格の取得や検定の合格を証明する書類のコピー（合格証や資格証明書）

2. 学科が指定する課外活動による単位認定

学科が指定する課外活動は、以下の（1）から（4）の4項目である。

- （1）学科内の各研究室が単独または合同で実施する調査研究・各種ゼミへの参加。
- （2）企業実習などへの参加。
- （3）自主的に行う国内・国外の生活デザイン見聞旅行の計画・実施。
- （4）その他、学科で認めた活動。

これらの活動を10日間以上行うこと。評価は、「活動における自主性、能動性の度合い」「活動内容の充実度」「活動の成果の大きさ」の3つの観点から行う。

<申請書類>

- ・生活デザイン特別課外活動単位認定申請書：課外活動を行った場所、期間、内容等について記入すること
- ・活動報告書：A4用紙で10枚程度。企業実習の場合は大学所定の「実習報告書」が良い。
- ・参加を証明する資料：企業実習の場合は大学所定のインターンシップ「評価票」が良い。

3. 各種デザインコンペ・学会発表等への応募による単位認定

各種デザインコンペ・学会発表等の応募に対する評価は、顕彰の程度を適正に考慮し行う。申請方法については、ゼミの指導教員と相談の上決定する。

4. 認定の方法

単位認定の審査は、生活デザイン学科の学科会議で行い、学科長が単位認定する。

資格取得または検定等の主な認定例

資格等名称	単位
福祉住環境コーディネーター検定2級	2
商業施設士補	2
PL 検定3級	2
インテリアコーディネーター	
福祉住環境コーディネーター検定2級	2
カラーコーディネーター検定3級	
商業施設士補	2
色彩検定3級	
PL 検定3級	2

※認定希望者は事前に教務学生課又は長町キャンパス事務室に問合せること。

61	他学科開講科目群 LS-D-011	選択 6単位 1年後期～4年後期
Subjects offered by other departments		
<p>●授業の達成目標 選択する科目により異なる。</p> <p>●授業の概要 学生が本学科における専門知識をより深く理解するため、他学科の開講科目を履修する機会を設けている。他学科の専門科目として開講されている講義等を履修することにより、単位が認定される。受講に際しては、長町キャンパス事務室（八木山キャンパス・学生サポートオフィス）から、専用の申込用紙を受け取る。まず、科目担当教員の了解を得て、本学科教務委員に提出すること。詳細は、当該科目のシラバスを参照のこと。</p> <p>●成績評価方法・基準 それぞれ当該科目における方法、基準による。（当該科目のシラバス参照）</p>		

62

他大学開講科目群 LS-D-012

選択 4単位 1年後期～4年前期

Subjects offered by other departments

●授業の達成目標
履修する科目により異なる。

●授業の概要
詳細については学生便覧の「他大学開講科目」、キャンパスライフの「学都仙台単位互換ネットワーク協定および国内外の大学等との単位互換に関する協定に基づく東北工業大学特別聴講学生取扱要項」などを参照のこと。